

平成20年度
学力向上拠点形成事業
報告書



岡山県立勝山高等学校

目 次

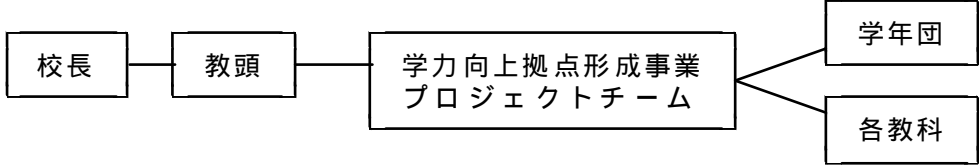
ページ	p 1 の平成 2 0 年度学力向上拠点形成事業実施内容の具体的な取組の項目に従ってページを割り振っています。
1 ~ 2	平成 2 0 年度学力向上拠点形成事業実施内容
	1 教職員の意識改革に関する取組・・・実施出来ず
	(1) マネジメント研修講座 兵庫教育大学教授 浅野良一先生
3	(2) <u>学校経営計画や自己目標シートについて各分掌単位で目標設定や達成状況の共通認識をはかる 5 月, 1 0 月, 2 月</u>
4 ~ 8	(3) 大学との連携・情報交換 <u>・入試説明会等出席 教員対象 6 月 ~ 7 月</u> <u>(広島大学, 大阪経済大学, ノートルダム清心女子大学</u> <u>ビーマックス, 高知大学, 高知女子大学)</u>
9 ~ 1 2	<u>・出前講義 7 月, 8 月 (広島経済大学, 岡山理科大学)</u>
	(4) 地元企業・商店との連携・情報交換 <u>・地元企業訪問 (教員) 5 月 ~ 6 月</u> <u>(真庭市内各事業所)</u>
1 3 ~ 1 5	(5) 他校交流 (ネットワーク作り) <u>・井原, 高梁, 西大寺, 瀬戸, 林野高校及び本校で進路指導に関する</u> <u>情報交換</u> 第 1 回情報交換会開催 6 月 第 2 回情報交換会開催 (未定)
	2 教職員の指導力向上に関する取組
1 6 ~ 3 2	(1) コーチング研修 <u>・学習コーチアカデミー研究員 鈴木輝子 先生</u> <u>保護者対象 6 月</u> <u>・学習コーチアカデミー主席研究員 佐々木 宏先生</u> <u>教員対象 7 月, 8 月</u>
	(2) 地元小中学校, 地元企業, 他校の訪問
3 3 ~ 3 5	<u>・地元中学校訪問情報交換会 6 月</u>
3 6 ~ 4 2	<u>・地元小・中学校授業見学 6 月, 1 1 月</u> <u>・他校訪問</u> <u>鳥取県立倉吉東高校 8 月</u> <u>愛媛県立松山商業高校 1 1 月 他</u>
4 3 ~ 5 1	<u>・予備校等の研究会出席</u>

5 2 ~ 5 4	(3) 公開授業 ・ <u>公開授業週間（本校教員のみ）6月</u> ・ <u>公開授業週間（一般公開） 1 1月</u>
5 5 ~ 5 9	(4) 授業評価 ・ <u>生徒授業アンケート 7月, 1 2月, 3月</u> ・ <u>教員相互評価 6月, 1 1月</u> ・ <u>学校自己評価（生徒・保護者）1 2月</u> ・ <u>学校自己評価（教職員） 1月</u> ・ <u>公開授業でのアンケート</u> <u>（小中学校教員, 他校高校教員, 保護者等）1 1月</u> ・ <u>評議員会議での評価 7月, 1 1月, 2月</u>
6 0 ~ 6 3	(5) 授業の工夫 ・ <u>I C Tを活用した指導法の研究（年間）</u>
	3 生徒のキャリア意識・進路実現への意欲の向上に関する取組
	(1) 「総合的な学習の時間」の活用
6 4	・ <u>教育実習生によるガイダンス 全学年 6月</u> ・ <u>分野別・学部別研究（1, 2年生）1 1月~ 2月</u>
6 5 ~ 7 4	・ <u>普通科1, 2年生合同発表会 2月</u>
7 5	・ <u>商業科1~3年生学習発表会 2月</u>
	(2) 地元とのコラボレーション
7 6 ~ 7 7	・ <u>インターンシップ（2年生商業科）7月</u>
7 8 ~ 7 9	・ <u>勝山もみじ祭り参加（1年生商業科）1 1月</u>
8 0 ~ 8 7	・ <u>勝高プロジェクトK</u> <u>仕事の達人講座（1, 2年生）1 1月</u>
8 8 ~ 8 9	・ <u>バイオマスツアー 1 1月（3年生商業科）</u>
9 0 ~ 9 2	・ <u>事業所見学（1, 2年生商業科） 2月</u>
	(3) その他
9 3	・ <u>岡山大学学外オ - プンスク - ル 8月</u>
9 4	・ <u>広島大学オ - プンキャンパス 8月</u>
9 5 ~ 9 9	・ <u>夢手帳（学習記録手帳）の活用</u>
1 0 0 ~ 1 0 1	・ <u>新入生宿泊研修（初期指導充実）4月</u>
1 0 2 ~ 1 0 3	・ <u>3年生夏季セミナー 8月</u> ・ <u>1, 2年生合同春季セミナー 3月</u>
1 0 4 ~ 1 1 2	本年度及び3年間のまとめ

平成20年度 学力向上拠点形成事業 実施内容

下線部が実施できた事業

H21年2月14日作成

<p>学校名</p>	<p>県立勝山高等学校（全・定・通） TEL(0867)44-2628 FAX(0867)44-4730 E-mail :katuyama@pref.okayama.jp</p>	<p>校長名</p>	<p>坂江 誠</p>
		<p>作成者職・氏名</p>	<p>教諭・竹内成長</p>
<p>目的</p>	<p>1 マネジメント研修・コーチング研修等を通して教職員の意識改革及び指導力向上を図り授業改善や生徒の学習意欲向上に繋げる。 2 地元企業・商店街等，地域社会との連携を深め、社会の仕組みや職業への理解を深めることで，キャリア意識や進路実現への意欲の向上を図る。</p>		
<p>目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学合格者 60名以上 ・東京・京都大学合格者 1名以上 ・商業科国公立大学合格者 1名以上 ・就職率 100%（地元就職率 50%以上） ・卒業生進路満足度アンケート 80%以上 		
<p>本事業で普及したい取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コーチングを活かした生徒との面談 ・ICTを活用した授業実践 ・『夢手帳（スケジュール管理手帳）』による生活面・学習面の自己管理 ・「総合的な学習の時間」での職業研究（1年生）・分野別研究（2年生）及び1，2年生合同発表会 		
<p>推進組織</p>	<div style="text-align: center;">  <pre> graph LR A[校長] --- B[教頭] B --- C[学力向上拠点形成事業プロジェクトチーム] C --- D[学年団] C --- E[各教科] </pre> </div> <p>学力向上拠点形成事業プロジェクトチーム 進路指導課長，教務課長，商業科長，第1学年主任，第2学年主任，教務課主任，進路指導課主任 第1学年学年副主任，第1学年進路指導担当，第2学年学年副主任</p>		
<p>事業内容</p>		<p>具体的な取組</p>	
<p>1 教職員の意識改革に関する取組 (1) マネジメント研修講座 兵庫教育大学教授 浅野 良一 先生 (2) 学校経営目標達成のための校内分掌を軸にした目標設定の共通認識 (3) 大学との連携・情報交換 (4) 地元企業・商店との連携・情報交換 (5) 他校交流（ネットワーク作り） 2 教職員の指導力向上に関する取組 (1) コーチング研修 (2) 地元小中学校，地元企業，他校の訪問</p>	<p>1 教職員の意識改革に関する取組 (1) マネジメント研修講座 兵庫教育大学教授 浅野良一先生 (2) 学校経営計画や自己目標シートについて各分掌単位で目標設定や達成状況の共通認識をはかる 5月，10月，2月 (3) 大学との連携・情報交換 ・入試説明会等出席 教員対象 6月～7月 (<u>広島大学，大阪経済大学，ノートルダム清心女子大学</u> <u>ピーマックス，高知大学，高知女子大学</u>) (4) 地元企業・商店との連携・情報交換 ・地元企業訪問（教員） 5月～6月 (<u>真庭市内各事業所</u>) (5) 他校交流（ネットワーク作り） ・井原，高梁，西大寺，瀬戸，林野高校及び本校で進路指導に関する情報交換 第1回情報交換会開催 6月 第2回情報交換会開催（未定） 2 教職員の指導力向上に関する取組 (1) コーチング研修 ・学習コーチアカデミー研究員 鈴木輝子 先生 保護者対象 6月 ・学習コーチアカデミー主席研究員 佐々木 宏先生 教員対象 7月，8月 (2) 地元小中学校，地元企業，他校の訪問 ・地元中学校訪問情報交換会 6月 ・地元小・中学校授業見学 6月，11月 ・他校訪問 鳥取県立倉吉東高校 8月 愛媛県立松山商業高校 11月 他 ・予備校等の研究会出席</p>		

<p>(3) 公開授業（6月・11月） 小中学校教員，他校高校教員，保護者等</p> <p>(4) 授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケート ・教員相互評価 ・学校自己評価（生徒・保護者・教職員） ・公開授業でのアンケート（小中学校教員 他校高校教員・保護者等） ・評議員会議での評価 等 <p>(5) 授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導法の研究 <p>3 生徒のキャリア意識・進路実現への意欲の向上に関する取組</p> <p>(1) 「総合的な学習の時間」の活用</p> <p>(2) 地元とのコラボレーション</p> <p>(3) その他</p>	<p>(3) 公開授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間（本校教員のみ）6月 ・公開授業週間（一般公開）11月 <p>(4) 授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケート 7月，12月，3月 ・教員相互評価 6月，11月 ・学校自己評価（生徒・保護者）12月 ・学校自己評価（教職員）1月 ・公開授業でのアンケート （小中学校教員、他校高校教員、保護者等）11月 ・評議員会議での評価 7月，11月，2月 <p>(5) 授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導法の研究（年間） <p>3 生徒のキャリア意識・進路実現への意欲の向上に関する取組</p> <p>(1) 「総合的な学習の時間」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生によるガイダンス 全学年 6月 ・分野別・学部別研究（1，2年生）11月～2月 ・普通科1・2年生合同発表会 2月 ・商業科1～3年生学習発表会 2月 <p>(2) 地元とのコラボレーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ（2年生商業科）7月 ・勝山もみじ祭り参加（1年生商業科）11月 ・勝高プロジェクトK 仕事の達人講座（1，2年生）11月 ・バイオマスツアー 11月（3年生商業科） ・事業所見学（1，2年生商業科）2月 <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山大学学外オ・プンスクール 8月 ・広島大学オ・プンキャンパス 8月 ・夢手帳（学習記録手帳）の活用 ・新入生宿泊研修（初期指導充実）4月 ・3年生夏季セミナー 8月 ・1，2年生合同春季セミナー 3月
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果・課題等

本年度のコーチング研修は教育現場に対応した内容（昨年度はビジネスコーチング的な内容であった）で，すぐに生徒面談に活かせるものであった。8月の研修後には，実際の生徒面談を録画し，講師の先生にみていただきアドバイスをいただいた。これまで，生徒面談について第三者からアドバイスをもらうことは皆無で，各教員の力量に任されているのが現状であった。生徒面談において指導力向上をねらう新しい取組といえると思う。授業改善の目玉として本年度はICTを積極的に活用した授業の実践を行った。各教科において，有効な活用とはどんなものか，研究をすすめているところである。現在，頻度の差はあるが全教科で活用している。学力向上フロンティアハイスクール事業で研究してきた連絡帳については更に発展させ，本年度から生徒手帳とスケジュール管理手帳の両方の機能を持たせた本校オリジナルの『夢手帳』を作製し全学年で活用している。学習時間や課題内容等を記録させ，自己管理をしていく習慣を身につけさせている。更に，担任面談等にも持参させ指導材料としている。昨年に引き続き「総合的な学習の時間」での職業研究（1年生）・分野別研究（2年生）及び1，2年生合同発表会を企画している。本校の進路指導の大きな特徴としてAO・推薦入試の合格者が多いことがあげられる。普通科1・2年生の分野別研究発表及び合同発表会，商業科1～3年生の学習発表会等を通して知識を蓄え，思考を深め，AO・推薦入試の志望理由書や面接の材料としている。本校における総合的な学習の時間の活用が体系的なものになってきた。

それぞれの企画について評価し，継続し発展させていく企画とそうでないものがある。こういった評価方法をするのか，それによって企画の精選をしていく必要があるが，現実には，十分出来ていないところが課題である。

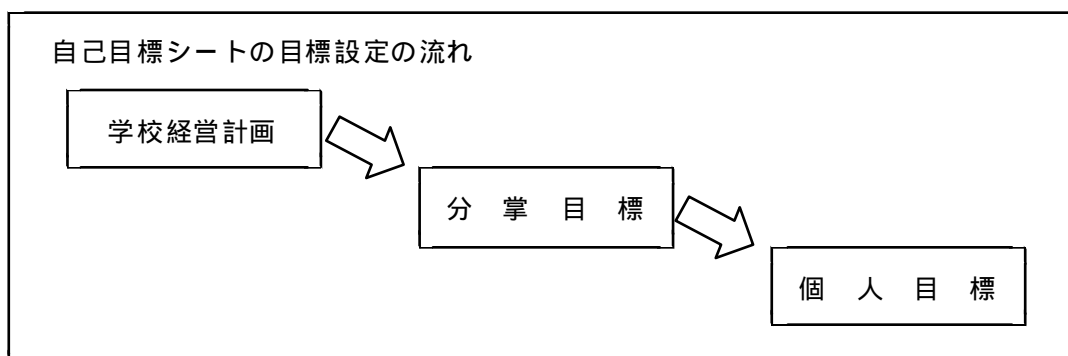
学校経営計画に基づく自己目標シートの活用

学力向上拠点形成事業
プロジェクトチームリーダー
竹内 成長

1 取組内容

学校経営計画をもとに各課の目標設定を行い、自己目標シートを作製する。各分掌単位で分掌・個人における目標設定や達成状況について共通認識をはかる。5月、10月、2月に各分掌ごとに達成状況を確認し、職員会議で報告する。

2 取組のねらい



分掌目標に対して個人の目標設定についてベクトル合わせができる。したがって取組内容に同一の方向性ができ分掌目標が効率的に達成できる。

目標を達成するためにどんな方策があるか様々な角度から真剣に考えるようになる。

目標達成のために授業見学，他校訪問，予備校等の研修等，他から学ぶ姿勢が生まれる。

目標達成ができたかどうかの検証がより明確になる。

【自己目標シート】



3 本年度を終えて

目標を設定しそれを達成できたかどうかといういわゆる営業成績的なものを教育現場では嫌う傾向にある。しかし逆に，そこが取組を中途半端にしてしまう要素が潜んでいると考えている。成果についての検証をし、改善していくには目標設定は非常に重要である。また目標を達成するため真剣に方策を考え全力を尽くすためには、分掌・個人における目標設定や達成状況について共通認識をはかることも非常に重要なことであると考えている。

平成20年度 広島大学入試 説明会
報 告 書

32HR担任 矢吹 実

研究会参加者	教諭 矢吹実
会 場	岡山コンベンションセンター
日 時	平成 20 年 5 月 16 日(金) 14:00 ~ 16:00
<p>1. 広島大学の特徴について</p> <p>教育システム 到達目標型プログラムを実施：チューターが学期ごとに、学生に目標への到達度を通知する副専攻プログラム・特定プログラムを実施：主専攻とは異なる分野の学習機会を提供している。 新入生補充教育：高校で履修していない科目の講義を行う（生物・物理・数学など） 短期交換留学：1年または半年，無料 フェニックス奨学制度：入試の得点率が90%以上なら入学金・授業料免除 ：著しく家庭の経済状態がよくないなら授業料免除</p> <p>2. AO入試 アドミッションポリシーに従って選抜，募集要項は6月下旬に配布 出願書類，小論文，面接（プレゼンテーション・口述試験），専攻分野における専門的知識・関心の深さ，適性が選考対象となる。基礎学力については小論文・面接の中で確認する。 型は書類選考・小論文・面接を経て2次選考で仮合格が決定する。 センター試験での基準点がクリアできなければ合格取り消しとなる。 型で基準点がクリアできず合格取り消しになった生徒が多く出たが，基準点を下げる予定はない。 型は講義を受けレポートを作成，提出書類とともに第1次選考を行う。第2次選考として2回目の講義を受け9/12に合格が発表される。 型の第2回講義のあとのプレゼンテーションではパソコンは使用しない。画用紙などを用い本人自身の表現力で発表する。 調査書の扱いは『申し上げられない』とのことだった。 AO入試には話し上手な生徒が有利というわけではない。寡黙な生徒も合格している。 AO入試合格者の入学後の成績は概して優秀である。</p> <p>3. 一般入試 21年度入試変更点は工学部第2類の入試科目が理科2科目となるのみである。 22年度入試から後期日程を廃止する。 医学部の理科3科目入試は導入予定なし。補充教育を充実する。 個別学力検査の倍率は低倍率となっているが，受験生を神戸大・大阪大にとられていると分析している。</p> <p>4. その他 工学部第2類では「工学の魅力発見セミナー」（出前授業）を実施している。</p>	

平成20年度 大阪経済大学 説明会
報 告 書

3学年主任 吉原啓之

研究会参加者	吉原啓之
会 場	ホテルグランヴィア岡山
日 時	平成20年 6月 20日(金) 15:00 ~ 16:30

2009年度入試変更点について

- 1 経済学部（昼間主）の募集形態が変更
経済学科デイトム履修と地域政策学科を一括募集
- 2 受験会場で問題を見てから受験科目が選択可能
出願時の科目登録を廃止
- 3 商業科等推薦「取得資格」追加
日本商工会議所主催「販売士検定」2級以上
全国商業高等学校協会主催「英語検定」1級

指定校推薦について

- ・指定校推薦入学者の入学後の成績は高い。特に商業系は全体平均より平均点高い
- ・就職率は全体平均より高いが、商業系は学生の自己評価が低く、大企業は少ない
- ・指定校は過去3年間の入学生の実績で決定（近県と遠隔地では別基準）
- ・推薦A（普通科）の基準 入学生が6名以上で2名、3～5名で1名、前年指定校推薦で入学している場合は1名 全国で305校
- ・推薦B（商業科等）の基準 入学生が15名以上で3名、9名以上で2名、3名以上で1名、前年指定校推薦で入学している場合は1名 全国で49校
- ・合格が前提だが、大学が困るケースもある

平成20年度 ノートルダム清心女子大学 説明会

報告書

32HR 副担任 牧野知美

研究会参加者	牧野 知美
会場	ノートルダム清心女子大学
日時	平成 20 年 6 月 25 日（水）14:00～16:00
学部・学科についての説明	
<ul style="list-style-type: none">・ 英語英文学科...少人数クラス（20名）を基本として指導。英語専任教員18名中7人がネイティブ教員。週3回は100%英語の授業。・ 日本語日本文学科... 書道教諭，日本語教員の資格も取得可能。・ 現代社会学科...社会学と歴史学の2系統。フィールドワーク重視で実習・研修。すべての学年において10名までの少人数徹底指導。・ 人間生活学科...人間，福祉，生活，環境，文化など多彩な分野を学習できる。家庭科福祉の教員免許取得可能。1年次より6～7名の少人数ゼミ。・ 児童学科...幼稚園，小学校，保育士等取得できる免許，資格は多いが、「ただ免許さえ取ればよいでは無意味。多面的に子どもについて学びたいという真面目に努力できる学生を送ってほしい。」とのこと。保育士資格のとれるコース（入学後成績で決定）の定員が20名 40名に倍増。	

<ul style="list-style-type: none"> 食品栄養学科... 2007年度管理栄養士国家試験合格率78.7%。「高校で化学未履修の生徒(文系生徒)でも入学後「基礎化学」を履修するため心配はない。意欲が大事。但し、管理栄養士とはどんなものかをしっかり理解してから来てほしい。」とのこと。 <p>21年度入試変更点 英語英文学科の一般入試、児童学科のセンター入試の前期・後期で募集人数が2名程度ずつ逆になる程度の小さな変更のみで、変更点はないに等しい。</p> <p>募集定員割合 一般 : センター : 推薦 が 52% : 8% : 40%</p> <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募制推薦入試で問われるものについての資料あり。 オープンキャンパスで入試対策をしますとのこと。 8/5, 6一般入試の国英対策。 10/5一般入試選択科目の対策および推薦入試対策 説明会ではアメリカに一年間留学した学生と学園祭の実行委員の学生がそれぞれ学生生活について説明。好感が持てた。 学内で説明会があったので、学生の様子も見えた。それぞれに勉強したり、語り合ったりと落ち着いた雰囲気だった。 昨年度就職希望者の就職率は100%とのこと。但し臨時採用も含まれる。 私見だが、少人数できちんと面倒をみってくれる大学、という印象を持った。理事長の渡辺和子先生がまだ講義を持っておられるのに驚きつつ、それだけでも入学の価値があるかも...との思い。

平成20年度 ビーマックス 説明会


報告書 進路指導課・学力向上PT 片岡和昌

研究会参加者	片岡 和昌
会場	ビーマックス創立記念館
日時	平成 20年 6月 25日(水) 14:00 ~ 16:00
	<p>自家用車の誘導、受付、説明会の進行、学科の説明等、会の運営を学生が行っている。学生の身だしなみ、態度とも社会人として通用するように、きちんと整えられている。しっかりと指導がなされているように受け取れる。</p> <p>学科の説明では、20年3月に商業科を卒業した中西鏡江が、公務員学科の説明をしている。昨年度は、19年3月に国際情報コースを卒業した古谷雅勝がSEコースの説明をしたそうである。いずれの生徒も、資格取得を目指して勉強に励んでいる様子が伺うことができ、意義のある説明会であった。</p>

平成20年度 高知大学・高知女子大学 入試説明会

報告書

教務課・学力向上PT 武村克彦

訪問者	武村克彦
訪問先	高知大学入試説明会 高知女子大学
訪問期間	平成20年7月2日(水)
高知大学入試説明会 人文学部 教育学部 理学部 農学部 医学部	
本校からの進路状況 昨年 理学部理学科 前1 推1, 農学部農学科 前1 人文学部国際コミュ 推1 後1 教育学部教員養成 CT推 1	
<p>人文学部</p> <p>科目数を6-6から3-3に変更した。(人文学部人間文化学科) 国英の学力を重視したいそうである。しかし、私大との併願がしやすくなるので、倍率は増加するだろう。 面接については動機、理解力、論理的思考力、批判・創造力を見る。調査書や志望理由の欄を見て、個別の質問をしている。 国際社会コミュは、集団と良いながら、書類をもとに個別の質問をしている。 調査書の点数化はしない。 質問に的確に答えられる者がよい。<u>用意してきた大演説を語る者は不合格となっている。</u> 昨年の個々の受験生についてはノーコメントでした。</p> 	
<p>教育</p> <p>教員養成系はCT推薦：CT90+小論20+面接30+調査書50 だそうである。 後期は70%を下回るCT得点率でも合格している。 生涯教育系は、実技重視！！しかし、後期はCT7割以上でも厳しかった。 推薦は、県のトップレベルのスポーツ等の実力者が合格しているそうである。 面接について、 面接者の質問に、的確に回答することが必要条件。つまり質問を理解する力が重要</p>	
<p>理学部</p> <p>理学科と応用理学科との大きく入り入試は、21年度も同じ 昨年の推薦入試では、理科受検者が0.98倍と、極端に低かった。 >> 理科の方が口頭試問などが指導しにくいのだろうか。</p>	
<p>医学部(看護学科)</p> <p>前期、後期とも70%以上の得点率が必要。だが、後期は欠席者が多く、40名ぐらいが欠席。募集人数も少ないが、考える余地有り。</p>	
<p>農学部</p> <p>今年から生物生産コースに加え、流域コースにCT無し推薦が加わる。 一般ではいると、1年次には専門に分かれない。2年次になるときに、コースを選ぶ。 文系からの入学生もいるが、「社会」系が入試科目にないので、受けやすいわけではない 実質倍率は確実に隔年現象を起こしている。・・・21年度は”谷” 昨年度は前期CT61%、後期65%のCT得点率が合格圏内。 推薦は倍率がやや上昇しているが、CT得点率はかなり低い(50%)。やりたいことが決まっていればいいかも。</p>	



農学部は南国市にあって、とっても広かった。

高知女子大学

本校からの進路状況

昨年 文化学部文化学科に1名合格>>他学へ

A O入試を生活科学部環境理学科と文化学部文化学科で行う。

推薦は県内のみ

書類・小論・面接時に一定のテーマで討論をしてもらう

南部の「池キャンパス」には、看護と社会福祉学部があって、とてもきれい。隣には高知県の医療センターがある。でも、A Oがないので、果たして行く生徒がいるかどうか。



永国寺キャンパス



池キャンパス

この訪問を通じて、A Oや推薦で求められているものは、自分の主張をつらつらと述べる能力ではなく、「様々な現象から問題や課題を見つけ出していく能力」を、いかに示すことができるか、ということにつきそうだ。しゃべれるから、面接ウケする、というのはやめた方がいいと感じた訪問でした。

出張講義実施報告書

32HR担任 矢吹 実

講義内容	ヒット商品について考えよう
講義者	堀江 浩司（広島経済大学 経済学部経営学科 准教授）
参加者	32HR 生徒6名 34HR 生徒5名 計11名
会場	本校3B 講義室
日時	平成20年7月9日（水）13:30～15:00
<p>1. 出張講義の申し込みについて</p> <p>生徒に専門的な知識を少しでも与えることが進路決定に大きく資することから生徒の希望する進学分野で多いものである教育学・経済学の出張講義を申し込むことにした。教育学の講義には希望者が少なく、今回は経済学の講義のみ申し込んだ。大学の日程の都合で経済学ではなく経営学について講義してもらうことになった。また商業科の生徒で進学を希望する生徒にも参加を呼びかけた。大学の選定については、まず無料であること、次に勝山高校に日帰り出来る距離にある大学であることを基準に選んだ。HP等で調べた結果、広島経済大学に決定した。</p>	
<p>2. 出張講義の内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学：広い視点で人々が豊かに生活できることを勉強する。租税なども勉強する。 ・経営学：「会社を持ちたい」など希望を持つ人が学ぶ。マーケティング（営業） ・マネジメント（管理）・アカウンティング（会計）の3分野からなる。 ・ブランドについて：メーカーの商品がブランドになる場合ナショナルブランド、小売りの作るブランド商品がプライベートブランド。プライベートブランドの特徴は「安い」「高品質」 ・商品をヒットさせる方法：4つのP（Product・Price・Promote・Place）を顧客 Needs に合わせる。 ・Product（製品）Price（価格）Promote（販売促進）Place（売り場）を詳細に検討し商品を販売することによりヒット商品となる。 <p>映画...試写会での参加者の感想をCMで放送することでヒットした。</p> <p>クロックス...セレクトショップに絞って販売、ヒットした。</p> <p>クロレッツアイス...CMがよかったのでヒットした。</p> <p>おとこがかおる...最近匂いにこだわる男性が多いのでヒットした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習（別紙参照）顧客プロフィール（35才既婚女性を設定）を検討し買いそうな商品をA、B、Cの3つの商品から選択する。理由も考えて発表する。 <p>生徒の解答</p> <p>商品B 理由：好きなブランドからアクセアリーも高級ブランドを選ぶ。</p> <p>商品C 理由：仕事が遅くなるのでこれをよく買って食べるだろう</p> <p>堀江先生の解答正答はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2つの Needs <p>顕在化する Needs：PSP（ソニー） PS3 ゲーマー Needs に合わせる</p> <p>潜在的 Needs：DS（任天堂） Wii WiiFit</p> <p>ゲーマー・ゲームを嫌がる母親・高齢者（ゲーム Needs のない消費者）などをターゲットとする母親に嫌われないゲームを開発することで巨大なヒット商品を生み、巨大な利益をあげている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから先は潜在的 Needs（隠れた Needs）を発掘し商品とし新しい価値を提供することによって巨大なヒット商品を生む。 <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答 Q、経済学・経営学の違いはわかったが、商学について教えて欲しい <p style="padding-left: 40px;">A、商学はアカウンティング（会計）を専門的に取り扱う学問だと理解すればよいです。</p>	

3. その後の指導 全員に講義内容のまとめと感想を書かせる。

僕は今日まで経済学と経営学の違いがよくわからなくてどちらの進路に進んだらよいか迷って
 いました。今日は堀江先生の話聞いて、経営学のマーケティングに強い興味を持ちました。先
 生が何度も言っていた「ニーズ」というものをつかんだり開拓したりするのは本当に難しいし大
 変なことなんだと思いました。今ヒットしている商品がなぜ売れたかを4つのPで説明してくれ
 てとてもわかりやすかった。経営学って難しいそうと思っていたけれど身近な消費に視点を置く
 ことで興味も出るしわかりやすかったです。今度は経済学の話聞いてどちらが自分に合ってい
 るか見極めて進路選択したいです。 32HR 男子

今日はすごい難しい話をされるのかなあと考えていたけれど、身近なヒット商品の話などで、
 興味を持って聞くことが出来ました。なるほどなあとな納得のいく話が多くて経営学を楽しむことが
 出来ました。今度、店などに行ったとき、商品を見る目が違ってくるだろうと思います。そこから
 販売者側の思考を読み取るものおもしろいだろうと思います。今はモノがあふれている時代なので、
 経営学はとても重要なものだと思います。今日は参加してよかったです。 32HR 女子

顧客プロフィール

調査項目	調査結果	分析
名前	鈴木京子	鈴木さんですか…
性別	女性	女性か
年齢	35歳	35歳か、まあ若くはないが消費意識は旺盛な年だろう
職業/業種	職种(DINKS)	職种だけど、DINKSとなれば、家庭的なことより、夫婦で 外で遊ぶタイプか?
同居家族	1人(夫)	子供はいないな
住所	広島市中区上堀町	上堀町か、やはり生活を充実させたいタイプだろう。それ もアウトドアではなくて、都会派だ。仕事が忙しいので勤 務先に近いところにすんでいるのかもしれない。
住居形態	持ち家(マンション)	持ち家なら、ローンの負担はあるだろう。マンションという ことは、一戸建てにこだわったり、「家が欲しい」というタイ プではないな。
勤務先	IT関連	メディア・IT系なら十分だな。
職種	営業企画	自分が企画マンだけに、いい加減なものは買ってくれな いだらうな。
役職	係長	部下もいるとなると、それなりにプライドもあるだろうな。
年収	500万	まあまあだな。
世帯年収	1300万	経済的には十分余裕があるな。
趣味	海外旅行	仕事が忙しいから、普段はためておいて、ごんと海外 旅行で使うタイプかな。「異文化」「体験型」のものに興味 がありそうだな。
車	ブジョー	多少気取ったところはあるかもしれない。ただベンツに 乗るという気取り方とは別だな。金持ちだと言うより「知的 だ」ということをアピールしたいタイプか。
好きなブランド	ZARA	だいたい買えるかな。しかし、コストパフォーマンスを重視し ているところもあるな。
嫌いなブランド	ユニクロ	だいたい買えるかな。価格を前面に出しておもしろみのな いものは買わないけれど。
その他	趣味は大人気なゲーム ソートドニアが好きな ゲームはアサヒ	

■課題 買ってもらいたい商品は?



理由:

講義内容	偏光顕微鏡で見る岩石・鉱物の世界
講義者	山口 一裕 (岡山理科大学 理学部 基礎理学科 教授)
参加者	福田 誠 31HR生徒4名
会場	本校物理教室
日時	平成20年 8月21日(木) 13:00~14:30

1 出張講義の申し込みについて

31HRに地学系への進学を希望する生徒が数名おり、AOや推薦の出願を視野に入れていたが、地学の授業やフィールドワークの経験がないため、出張講義を依頼することにした。大学の選定については、大学のHP等で調べ、日程に問題がなく地学系の講義内容で実験を行える出張講義を企画していた岡山理科大学に決めた。

2 出張講義の内容について

- ・ルーペを使っての試料観察
- ・偏光顕微鏡の仕組みや使用方法の解説
- ・偏光顕微鏡を使って岩石、鉱物の観察
(さまざまな特徴をもつ鉱物を観察し、それぞれの鉱物についての詳しい説明を聞く)
- ・質疑応答
少人数だったこともあり、非常に丁寧に解りやすく説明していただいた。また、このような企画の場合、自分の大学の宣伝になりがちだが、山口先生は岡山理科大の話だけでなく、他大学の活動内容や研究の様子なども話をしていただき、大変参考になった。

3 その後の指導

- ・全員に講義内容のまとめと感想を書かせる。(別紙参照)
- ・推薦でレポートが必要な生徒はレポートを作成させた。

4 感想

- ・生徒は実験を通じて、より地学への興味が深まったようである。
- ・AO入試や推薦入試に必要な志願理由書などに体験談として記入することができた。また大学によっては、講義を聴いてレポート作成をさせるような受験形式があり、その練習として役立った。
- ・出張講義の企画は早い段階で行った方が効果的である。特に地学系など生徒がイメージしにくい学科については、非常に効果的である。



「偏光顕微鏡で見る岩石・鉱物の世界」授業レポート

①講義内容のまとめ

岩石・鉱物の世界の時間の最小単位は百万年。偏光顕微鏡とは偏光板を原理に顕微鏡。偏光板を使うことにより、通常見えていない様相が見えてくる。これは光の振動をうまく分けかきで透過する光は少くなること。火山岩の名前の由来はアンデスの「アン」からきていて、火山に多く分布している。偏光板で岩石を観察するという簡単なことだが、岩石の成因や歴史を見ることが出来る。フィールドワークが多い空間。光が結晶の中を進むと振動方向の異なる二つの光線に分かれることを複屈折という。解石を指して文字を見れば二重に見える。神奈川の意は、とてよい地質の資料となる。因山県で有名な様々な岩石が見える。地球科学の知識は、地震などからの防災や、木炭源の調査で役に立ち、その他様々な場面で役に立つ。地球温暖化を地下の温度で知ることも出来る。それは、地下には何百万年という長い期間の変化が蓄積されているから。化石などの研究でこの空間で行われる。地球科学はスケールの大きなことから原子レベルのことまで幅広く含む。地球科学という名称の学科は1980年代地球科学をいじつたことではなく、岡山理大のように基礎理学という名称であったり地球科学を学ぶことが出来る。

偏光板は液晶画面や、サンクグラスなど身近なものに広く利用されている。

②感想

私、肉眼で見ただけ、鉱物と偏光板を通して見たものの違いによって感動を覚えた。高倍率顕微鏡を使うことになって、ワクワクしました。結晶の石などに比べて奥が深いイメージでした。岩石には何物語か、反という言葉を聞いて、理系っぽく聞こえたので、本当に知識の深い人だなと感心してしまいました。どんな空間なのか今日の講義を聞いてからは、パソコンの上でしか見られない、少し無難な感じがしたけれど、実際に体験していき、深く理解することが出来たと思います。自分達が住んでいる場所で工業化は進み、それと共に地球温暖化が進んでいくなかで、人間は地球について非常に無知なことか、不思議に感じました。地球に住んでいる人間として、恥かしいことではないかと思えました。先般の空間と対峙していき、裏面では、初めて見た自分かで見ることが出来ないかと思いました。しかし簡単なことではなく、限らない努力が必要。鉱物、岩石を観察してみて思ったことは遠くから見ると普通の光ってもの、よほど近くで見ると、美しい姿が現れました。本質を見抜くことが出来るのは快感でした。

地下100kmのところにある岩石を手で触ることが出来て、楽しかったです。

就職先、就職先で道を迷ったわけではないが、その点に関しては少し不安が残りました。普段未来にどのような体験が出来て、今日は楽しく過ごした。自分の道路を考慮して、とて重要な参考になったと思います。

少人数で受講しましたが、その空間をいやすことが出来ました。

平成20年度 第1回高高連携・五校交流会

研修会報告書

学力向上PTリーダー竹内成長

日 時	平成20年6月20日(金) 14時～
場 所	本校会議室
出 席 者	竹内, 寺元, 佐藤, 内田, 日笠, 福田, 梶原, 片岡学, 矢吹, 坂手
他校出席者	井原高校 竹中教諭, 定藤教諭 高梁高校 森本教諭, 門田教諭 西大寺高校 栗田教諭, 吉田教諭 林野高校 高坂教諭
講 師	寺岡直樹先生(岡山御津高校)
講演内容	『進路検討会・難関大学指導について』 (1) 学年主任として 3年間の目標設定をかなり時間をかけて考え設定した。1年生では生徒のヴィジョンを育てることを大切にしたい。倉敷地区では大手企業も多く保護者は進学に対する意識が高い、しかし津山地区では企業も少なく保護者の職種も限られるので、進学に対する意識が倉敷地区に比較して高くはない。学校がヴィジョンをもって指導をしなくては能力の高い生徒の力を引き出せないまま終わってしまう。2年生ではヴィジョンをより具体化させる。学部からさらに深めて学科学研究が必要である。 企画する時に「例年の通り」というのは後退であり、毎年どこか変えてやろう、と考えるようにしている。 「仮説を立てて動く」ことを大切にしている。企画実施後、 $\cdot \times$ の手応えが出てくるから反省ができ、新しいアイデアが生まれる。 数値目標は5:5の達成率で設定した。特に若い人には失敗を恐れるな、と言っている。5つトライして2つ成功したらよい、と考えている。津山高校では岡山朝日・倉敷青陵につぐ岡山県でNO2の学校にするという思いで取り組んだ。 企画の良い・悪いは、みんなで楽しく盛り上げられる企画かどうか大切にしていると考えている。 (2) 進路検討会について 進路指導がトータルでみて平等かどうか大切にしている。上位の学力の生徒にも伸びる権利があるし下位の学力の生徒にも伸びる権利がある。ややもすると中下位に目がいきがちである。 現役九州大学合格ならば一浪すれば東京大・京都大へ合格可能。大手企業の人事担当の見方は(現役の大阪大) < (一浪の東京・京都大) である。東京・京都は別格である。 東京・京都大学について - ベネッセCT偏差値65以上かつ個別試験学力が67以上あれば現役合格する。本人も保護者も自信がないのは当たり前で保護者から説得していく。生徒を減点法でみないこと、加点法でみていき1年生の

終わりで判断していく。1度決めたら成績がいくら落ちても支える。

学力の見極め - どこまでその生徒が伸びるか見極めが大切である。「この生徒はどこかないでしょうか」ではなく「この生徒を 大学 学部 学科に推薦したいがどうか」と具体的な指導案を作成して検討会へのぞむこと。生徒の状況はみればわかる、担任として、どう指導するのか。そして、その指導案に対し進路指導課はどういった意見をするのか、担任に、ものが言える進路指導課でなくてはいけない。

CT後の検討会で「この生徒はCTでこけたから・・・」CT前の模試結果の推移をよくみていたら予測できるもので担任の研究不足。それを見越して志望校を用意しておく必要がある。

(3) 数学の難関大学指導について

1～2年生で東京・京都大学志望の下地(精神面)をつくっておく。3年生の夏すぎから個別添削指導に入る。各教科の調整はしなかったが、2教科の担当者が柱となって指導した。

CT直前の時期でも個別添削指導をした。生徒にはCT - 前期 - 後期と時間がないことを自覚させておくこと。この指導でかえって平成17年度のCTでは全体的に好結果であった。

旧帝大の過去問題を自分で解き「松・竹・梅」の3ランク(捨て問・標準・基本)にわけて出題し添削指導する。東京大学の問題は他大学にはない良問である。

東大・京大に合格したいからするというより、昨日より今日が前進しているという気持ちで生徒もやったと思うし、自分も指導に当たった。

(4) その他

倉敷青陵・津山といった大規模校といえども、一人一人の教員の工夫によって支えられている。進路指導のスタイルについては個人的には学年団主導で指導し進路指導課が全体的なまとめをするのが良いかとは思ふ。

1年生の文理選択は非常に重要で本人の特性を見抜いてやるのが大切である。(成績やイメージで決めることのないように)

指導方針について意見が食い違うこともよくあったが、他の先生に理解してもらうためには数値的データ等使って根拠をはっきり示し、話をしていくことが大切である。



【研修会の様子】

平成20年度 五校交流・高校連携研修会実施要項

- 1 目 的 各高等学校における諸課題について、情報交換および研究協議を行い、学校経営目標の実現に向けた進路指導の一層のレベルアップを図る。
- 2 日 時 平成20年6月20日(金) 12:30~16:30
- 3 場 所 本校会議室
- 4 参加予定者 以下の高校より進路担当者を中心に各校2名程度、合計10名程度
(ただし研修会については、本校教員10名程度が加わり合計20名程度)
岡山県立井原高等学校
岡山県立西大寺高等学校
岡山県立瀬戸高等学校
岡山県立高梁高等学校
岡山県立林野高等学校
岡山県立勝山高等学校
- 5 内 容
(1) 受付 12:10~12:30
(2) 開会行事 12:30~12:40
(3) 5限授業参観 12:55~13:40
(4) 研修会 13:50~15:00
講師 岡山県立御津高等学校 寺岡直樹先生
進路検討会の内容について
難関大学受験指導について
(5) 情報交換会 15:10~16:30
- 6 準備資料等 (1) 平成20年度年間行事予定表(差し支えない範囲で)
(2) その他、この交流会で話題となる資料等があれば御持参ください。
以上を各校で12部印刷して当日持参する
- 7 備 考 (1) アクティブハイスクール事業として実施し、講師旅費はその経費から支出する。
(2) 出欠の回答については、FAX送信書を利用の上、6月13日(金)までにFAXにて下記まで返信。

問合わせ・FAX返信先

岡山県立勝山高等学校 進路指導課 竹内成長

TEL 0867-44-2628

FAX 0867-44-4730

平成20年度コーチング研修について

学力向上拠点形成事業
プロジェクトチームリーダー 竹内成長

昨年度の反省

昨年度のコーチング研修は産業能率大学研究所（東京）に依頼いたしました。研修内容がビジネスコーチング的な要素が多く、高校教育の現場では活用しにくい内容でした。また研修日程については、2学期の中間考査の日の午後に2日間、12月の補習の日の午後に3回間、1日の研修時間は約3時間という内容でした。他の業務と重なる、非常に忙しい時期の研修であることと、研修内容を日常の指導に生かしていくには遅すぎる日程でした。本研修の企画そのものが浮上したのが6月であり、業者決定をはじめとし、全ての日程が年度の遅い時期となったことが大きな要因でした。

教員のアンケートをもとに学力向上拠点形成事業プロジェクトチームで検討した結果、次年度の研修には以下の点を改善するという結論に達しました。

教育コーチングについて実績があり、高校現場の実情を理解していること。

研修日程7月～8月の夏季休業中に実施すること。

研修期間は保護者対象のコーチング研修を1日、教員対象のものを3日とし合計4日とし、1日の研修時間は2時間半程度とすること。

研修内容については本校の課題等を考慮しながら学力向上拠点形成事業プロジェクトチームで検討し、学校側から明確な要望を示すこと。

本年度の業者決定

昨年度の実績から4月～5月で、見積もり・入札・業者決定をし、本年度の研修は学習コーチアカデミー（東京）に依頼しました。同社は教育コーチングについて全国的に数多くの実績があり、特に講師の主席研究員佐々木宏先生は新聞や教育関係等の本で何度も紹介され、教育コーチングにおいて最先端の研究をされている方です。

研修内容

第1回 保護者のコーチング体験＋理想の保護者像について考える

参加していただいた保護者の方にコーチングを体験してもらい、「自己決定・自己責任」の感覚を味わっていただきました。また、「子供にとっての理想の保護者像」について、参加者で協議していただきました。これらの体験と協議のプロセスで、保護者の方は自らを振り返る機会となり、この日から子供さんへの対応を再考することをねらいとした研修でした。

第2回 学習コーチング基礎＋信頼関係を築く（教員対象）

最初は昨年のコーチング研修で参加者が何をどのくらい記憶されているのかを確認されました。その上で、テキストをどのように進めるかを決定されました。前半

では教育分野におけるコーチングの可能性，及び学習コーチングの理念について説明されました。後半では，学習コーチングで最も大切な「信頼関係を築く」をテーマに研修が進められました。

第3回 生徒を知る＋内省型の質問を創る（教員対象）

コーチングの基本は，1 to 1のコミュニケーションです。コーチングをよりよく機能させるためには，生徒のことを知る必要があります。生徒の価値観やタイプを知り，どのように進路支援に役立てるかを考えました。後半では，生徒に「自己決定・自己責任」させる内省型の質問の創りかたを学びました。

第4回 ロールプレイ＋学校課題の抽出と，グループコーチング（教員対象）

最終回では，ここまで学習してきたコーチングのスキルを使用しながら，ロールプレイを行いました。後半の60分では，参加者全員で学校の課題を抽出し，目標を共有し，行動計画を作成するためのグループコーチングを行いました。結果的に，教員が元気になり，その元気が生徒に伝播することを学びました。



【保護者対象コーチング研修】



【教員対象コーチング研修】

□ 研修会后

各回とも研修終了後には講師の鈴木先生・佐々木先生と学力向上拠点形成事業プロジェクトチームのメンバーとで情報交換会をもちました。当日の研修についての感想や次回の研修への要望などについて検討いたしました。その中で，研修で学んだことを実際の面接の中で，どのように生かしていくかが課題となっていました。そこで，実際の面接を録画し，佐々木先生に分析していただき，助言をいただくことにしました。4名の生徒の面接を分析し，助言をいただきました。（分析・助言については別紙参照）この面接・分析・助言は職員会議で発表し全教員でコーチング研修の，まとめとして共有いたしました。

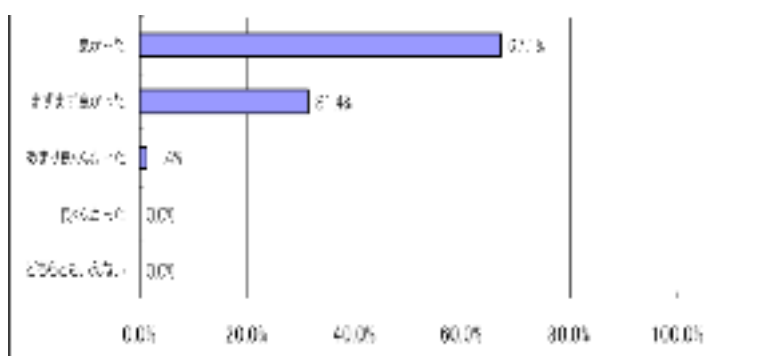


【実際の面接を録画し佐々木先生に分析・指導助言をいただいた】

□ まとめ

本年度は保護者対象のコーチング研修を実施しました。72名の参加があり、講義の他に演習をしました。終了後のアンケートによると「本日の研修はいかがでしたか」の質問に対して、ほぼ全員の方から「良かった」、「ますます良かった」という評価をいただきました。

保護者対象コーチング研修アンケートより「本日の研修はいかがでしたか」

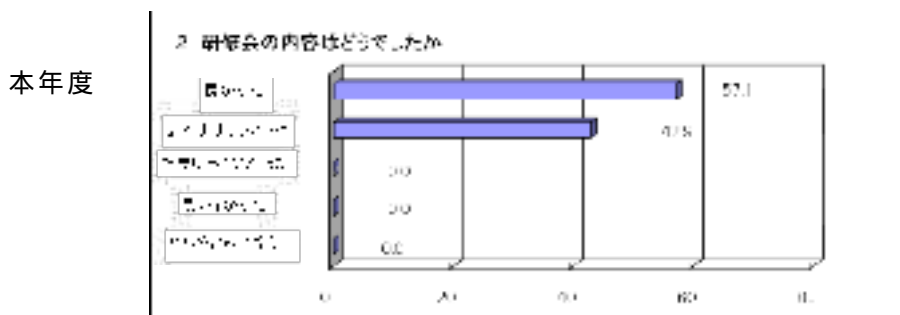
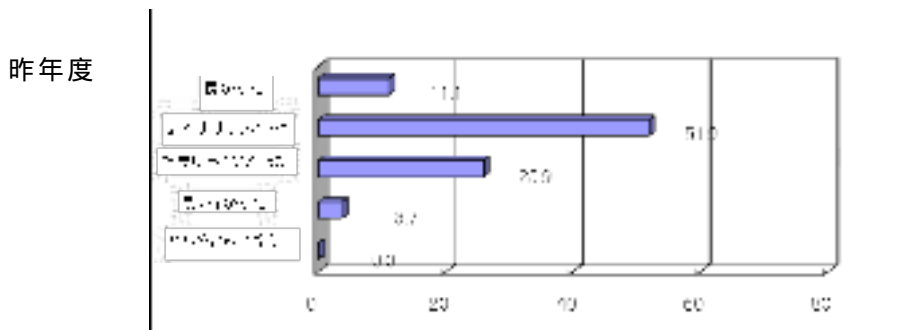


また、「子供への接し方、今からでもやっていける事はあると思います。子供たちとしっかり対話をしてみたいと思います。高3と中3の子供2人の受験への悩みに一緒になって考えていきます。(特に中3の子へのかかわりに対して勉強になりました)参加したくても出来なかった同じ職場に勤める親がいます。ぜひ今日の講話をまとめた資料を配布してあげて欲しいです。」など、多くの方から有意義な研修であったとの感想をいただきました。

教員対象の研修においては「研修会の内容はどうでしたか」の質問に対して、「良かった」、「ますます良かった」と回答した教員は昨年度の研修では63.0%でしたが、本年度は100%でした。昨年度の反省から、慎重に業者選定をおこない、本校の現状に対応した研修ができたと考えています。「佐々木先生の体験談をまじえてのお話が大変わかりやすく、また実際の場面に活用できることが多く、勉強になり

ました。とても良かったです。問いかけられることが多かったので、自分の頭も使えて刺激的でした。また、佐々木先生の研修を受けたいです」といった感想が多く、有意義な研修だったと思います。本年度の研修との連続性を考え、次年度も、佐々木先生の研修を望むという意見も多くありました。

教員対象コーチング研修アンケートより「研修会の内容はどうでしたか」



次年度は、コーチングを実際の場面でどう生かしていくかといったことがテーマになると考えています。本年度の研修後に実施した、4人の生徒との面接を録画し、佐々木先生に分析・指導助言をいただくといった研修を進めていきたいと考えています。また、面接のように1対1ではなくホームルームや授業といった1対多の場合のコーチングについても研修を企画していきたいと考えています。

平成20年6月16日

全学年保護者の皆様へ

岡山県立勝山高等学校
校長 坂江 誠
進路指導課長 竹内成長

「コーチング研修 - 理想の保護者像について考える」 全学年保護者対象講座の御案内

初夏の候、保護者の皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。平素から本校の教育につきまして御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、春のPTA総会後の懇談会等では「子供と、どう接したらよいかわからない、何かよいアドバイスはないか」との御質問を多数いただきました。そこで全学年保護者の皆様を対象としたコーチング研修会を下記のとおり開催いたします。お子様と関わる上で少しでも参考になればと考えております。御多忙中とは存じますが、是非御出席いただきますよう御案内申し上げます。（「コーチングとは何か」裏面に説明を載せています、御覧になってください）

記

- 1 日時 平成20年6月28日(土) 11:00~12:30
- 2 場所 本校体育館
- 3 内容 (1) コーチング体験
(2) 理想の保護者像について考える
講師 学習コーチアカデミー(東京)
 研究員 鈴木輝子先生
- 4 その他 準備の都合上、次の出欠票を 6月23日(月)まで に担任に御提出ください。なお、内容について、御意見・御質問等ございましたら、御記入ください。
当日は9:30より1年生の保護者対象進路説明会を開催しておりますが、その後の開催となります。

----- 切 り 取 り -----

「コーチング研修 - 理想の保護者像について考える」 全学年保護者対象講座 出欠票

()年 ()組 ()番 生徒 氏名()
保護者氏名()

上記の講座に

・出席します ・欠席します (をしてください)

(質問・意見等)

平成20年度保護者対象コーチング研修会アンケート

本日は御参加ありがとうございました。来年度の研修会をよりよいものしたいと思います。お手数ですが以下のアンケートにお答えください。(a ~ e のうち該当するものに をつけてください。空欄はどんなことでもけっこうです。ご意見等をおきかせください。)

- 1 本日の研修会はいかがでしたか。
a 良かった
b まずまず良かった
c あまり良くなかった
d 良くなかった
e どちらともいえない

具体的にはどんな点が良い・悪いでしょうか
- 2 コーチングについて理解できましたか。
a 理解できた
b まずまず理解できた
c あまり理解出来なかった
d 理解出来なかった
e どちらともいえない
- 3 本日の研修はお子様への支援に約立つと思いますか。
a 役立つ
b まずまず役立つ
c あまり役立たない
d 役立たない
e どちらともいえない

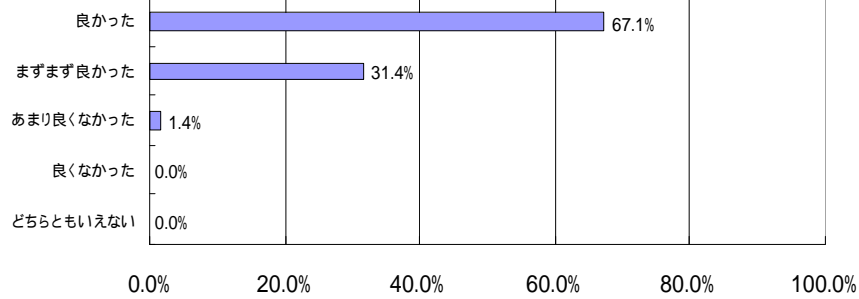
具体的にはどんな点が役立つでしょうか(a・b の方のみ)
- 4 親がコーチングの手法を活用すると子供のやる気が向上すると思いますか。
a 向上する
b まずまず向上する
c あまり向上しない
d 向上しない
e どちらともいえない
- 5 お子様への支援に対してコーチングの手法を活用したいと思いますか。
a 活用したい
b まずまず活用したい
c あまり活用したくない
d 活用したくない
e どちらともいえない
- 6 本日の研修についてご意見・ご感想をお書きください。(どんなことでもけっこうです)

ご協力ありがとうございました。

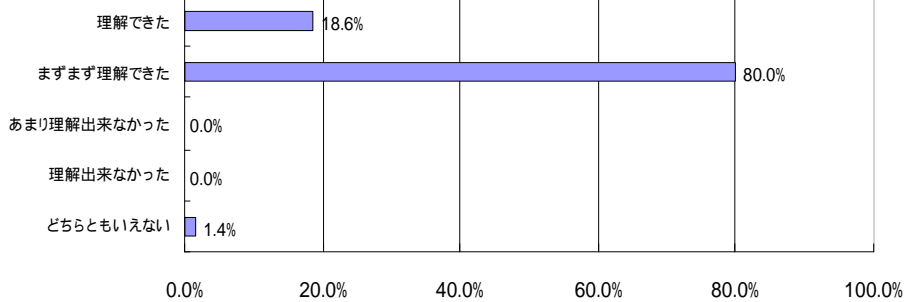
全学年保護者対象コ - チング研修アンケート

72名参加中 70名回収 H20. 6.28

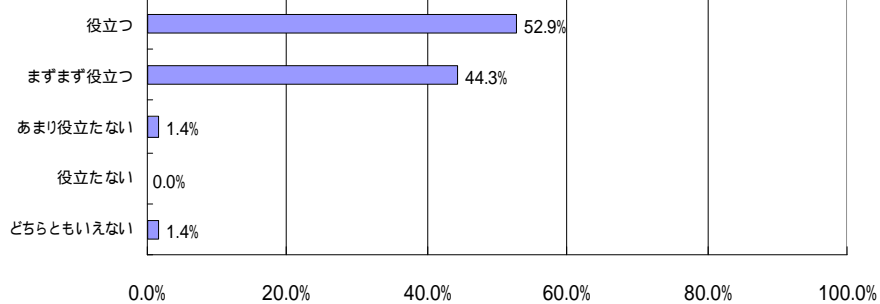
1 本日の研修会はいかがでしたか



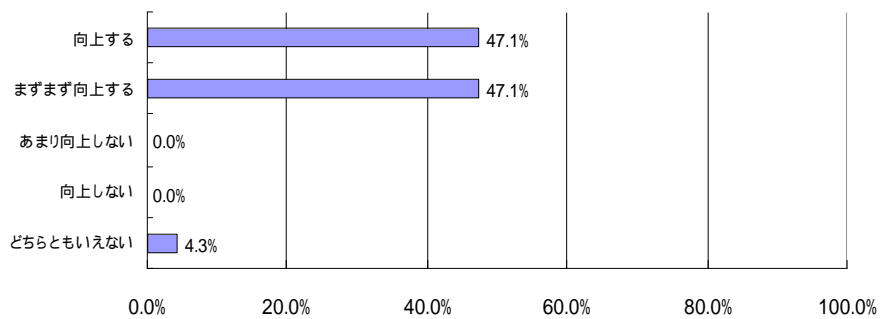
2 コ - チングについて理解できましたか



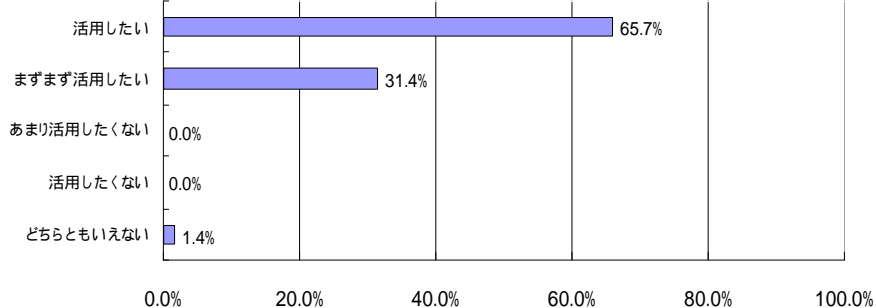
3 本日の研修はお子様への支援に役立つと思いますか。



4 親がコ - チングの手法を活用すると子供のやる気が向上すると思いますか



5 お子様への支援に対してコ - チングの手法を活用したいと思いますか。



平成20年度全学年保護者対象コーチング研修会アンケートから抜粋

1. 本日の研修会はいかがでしたか。

日頃の子供への態度を反省し、今後気をつけて接していきたいと思えたところ。早く次に移ってしまったので、もっとゆっくり考えたかった。

自分が進路を決めていた頃のことを思い出し、親のあり方を反省したように思いました。

今まで忘れていた事を”はっ”とさせられたところ。

相手の人とお話ができ、座ったままではなく緊張感が良かった。

コーチング・カウンセリングをしているつもりが、ティーチングだったという事がわかり、目線を下げて話を聴くように余裕をつくる。

今までも同じように研修会を数回受け、実践しているつもりですが、いつの間にか忘れてしまう事があり、何回も繰り返し勉強していく事が大切と思いました。

2. 本日の研修はお子様への支援に役立つと思いますか。

上から視線でなく、同じ位置から考えてやりたいので、上手に聞き出していきたい。それを次につなげていけると思います。

すぐに「ダメ」と言ってしまう自分を改め、短所を長所へ向ける言葉掛け、努力していきたいと思えます。

子供とのコミュニケーションをとること。話を理解する気持ち。前向きに積極的な会話をとる。

(同上) 弱点を長所に。言葉かけの心がまえ。

聴くということですが、質問もうまくやって、考えを引き出せる会話をする事。

今までよりもう一步子供の心に歩み寄って接することができる。

子供は自分なりに頑張っていると思えます。親の欲を押しつけなければいいのですが、それがなかなかできないのが現実です。

3. 本日の研修についてご意見・ご感想をお書きください。(どんなことでもけっこうです)

発達支援の必要な子供たちにも役立つように思いました。本当に答えが出ないというところその子によりそうという部分が大切だと思えました。まず自分の考え方を考える事が第1歩なのかなと思いました。今日はありがとうございました。

初対面の方といきなり話をしたので、ドキドキで口が回らず何を言っているのかよく自分でもわからなくなりました。反省する点もいっぱいありました。でも、悩んでいる事は違って子供さんの事で頑張っておられる事がよくわかりました。今日からできる事を頑張りたいと思えます。子供への接し方、今からでもやっていける事はあると思えます。子供たちとしっかり対話をしてみたいと思えます。高3と中3の子供2人の受験への悩みに一緒になって考えていきます。(特に中3の子へのかかわりに対して勉強になりました)参加したくても出来なかった同じ職場に勤める親がいます。ぜひ今日の講話をまとめた資料を配布してあげて欲しいです。

相手を認めての態度・言葉かけに気をつけて、うまく会話のできる親子関係をつくりたいと思えました。(少し手遅れかと思うのですが)

子供のことを承認するということが十分できていなかったと気付かされた。活用して行きたいと思えます。

普段、自分流の子育てをしています。時に違う意見や視点からの見方を勉強することもいい気付きを得られると思えます。

別のことに予算を使うことができないだろうか。もっと具体的に実際の生活の中で「どうやってあげたらいいのか」「どういう態度をとったらいいのか」を見たり考えたり教わったりする機会が欲しい。あるいは大学の先生に来てもらって大学生の生活を話してもらったり、具体的な学科の内容とかを親子ともども聞くというのもよいです。今回はちょっとおしかったです。

平成20年度教職員対象コ - チング研修会アンケート

1 参加した研修会に をつけてください。

第1日 7月18日(金) ()
第2日 8月1日(金) ()
第3日 8月4日(月) ()

2 研修会の内容はどうでしたか。

良かった ますます良かった
あまり良く無かった 良くない どちらともいえない

3 研修会の講師(佐々木先生)はいかがでしたか。

良かった ますます良かった
あまり良く無かった 良くない どちらともいえない

4 研修会の内容について理解できましたか。

理解できた ますます理解できた
あまり理解出来なかった 理解出来なかった どちらともいえない

5 コ - チングの研修をすることは生徒の指導に役立つと思いますか。

役に立つ ますます役に立つ
あまり役にたたない 役に立たない どちらともいえない

6 コ - チングを実践すると生徒のやる気が向上すると思いますか。

向上する ますます向上する
あまり向上しない 向上しない どちらともいえない

7 コ - チングを実践したいと思いますか。

実践したい 少しは実践したい
あまり実践したくない 実践したくない どちらともいえない

8 どういう場面で実践したいと思いますか。(複数回答可)

三者面談
個人面談
日頃の声かけ
教科指導
部活の指導
家族とのコミュニケーション
同僚とのコミュニケーション

9 ご意見・ご感想をお書きください。(良かった点・悪かった点等どんなことでも
けっこうです、できるだけ具体的にお書きください)

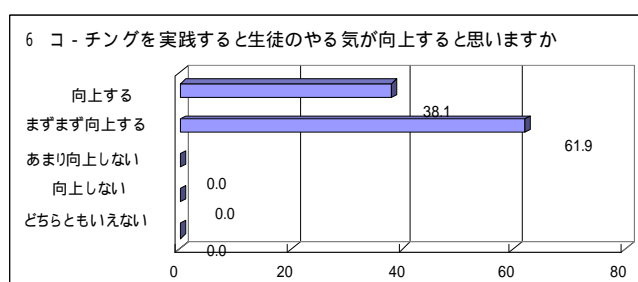
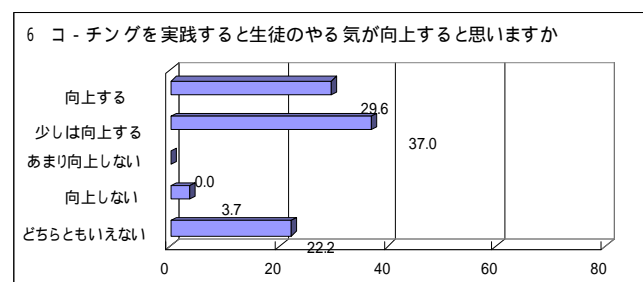
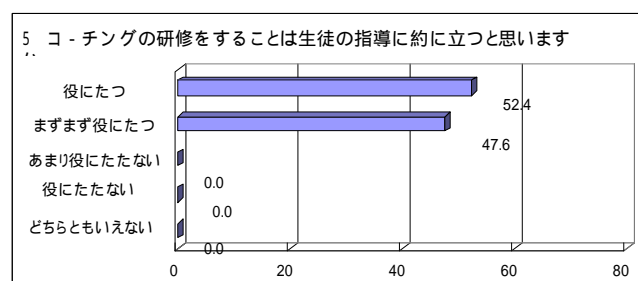
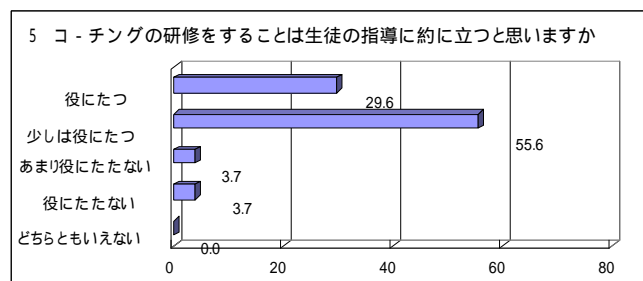
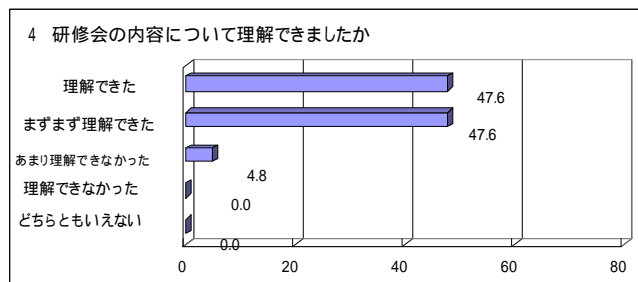
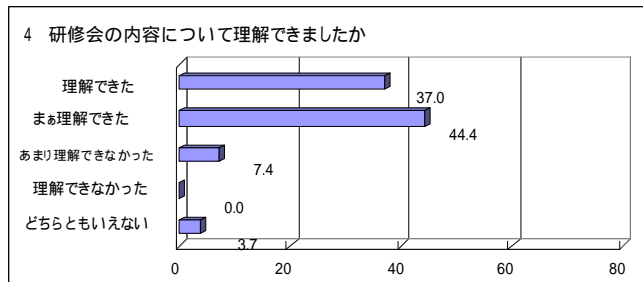
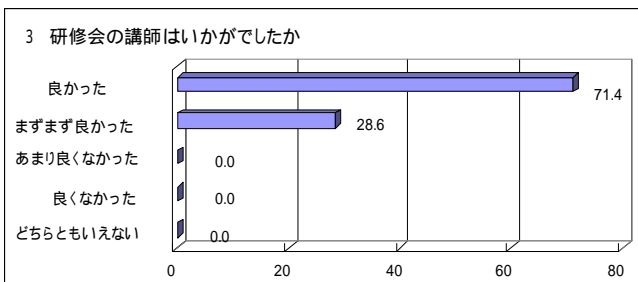
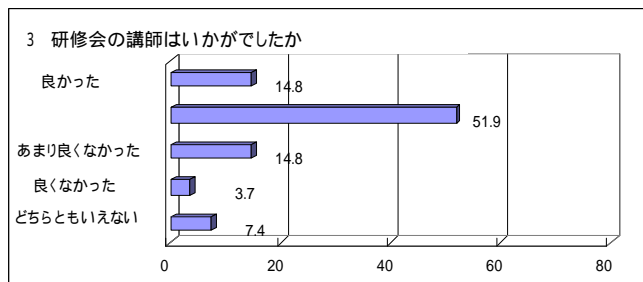
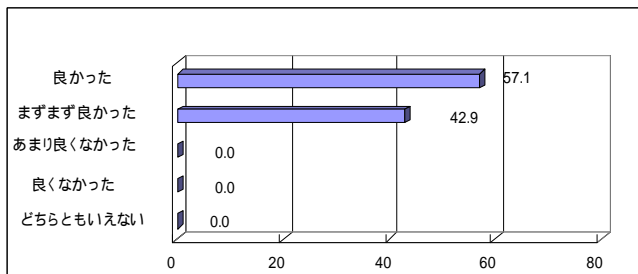
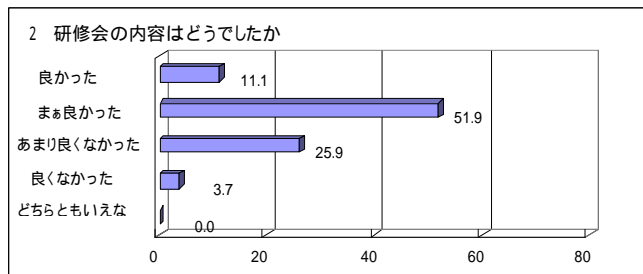
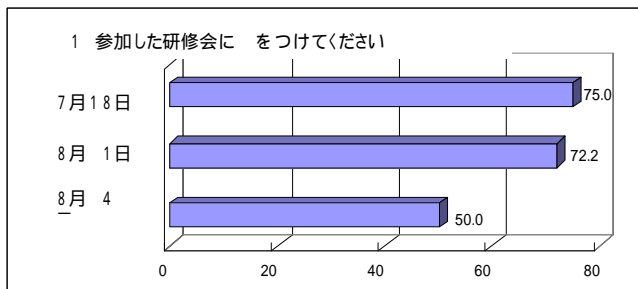
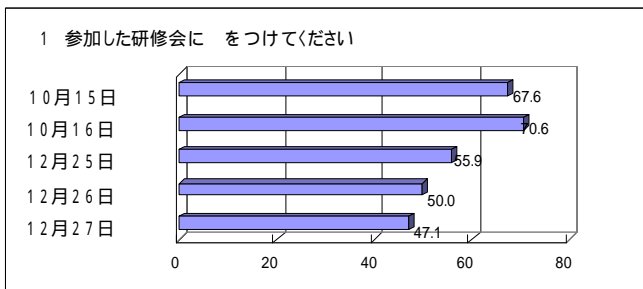
ご協力ありがとうございました。

昨年度

産業能率大学研究所 主任研究員 榎永慶司 氏

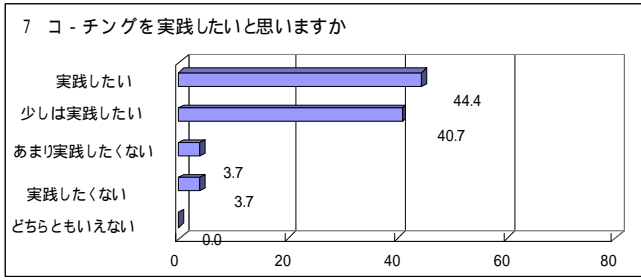
本年度

学習コ-チアカデミ- 主席研究員 佐々木 宏 氏



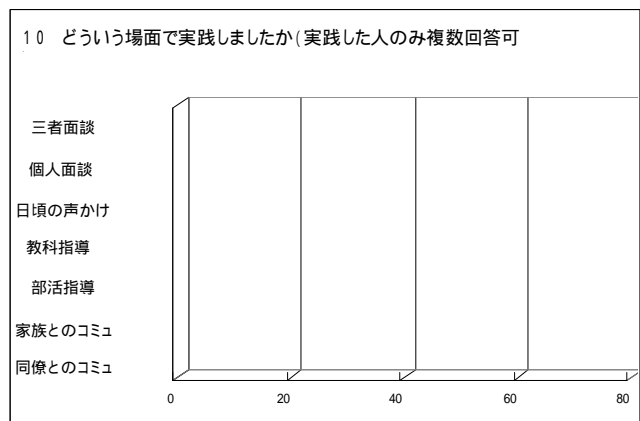
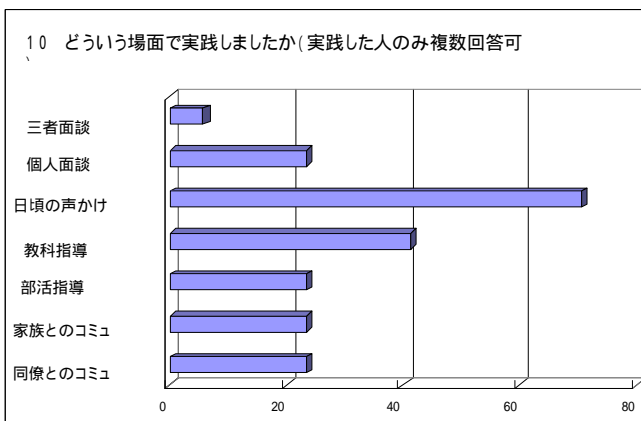
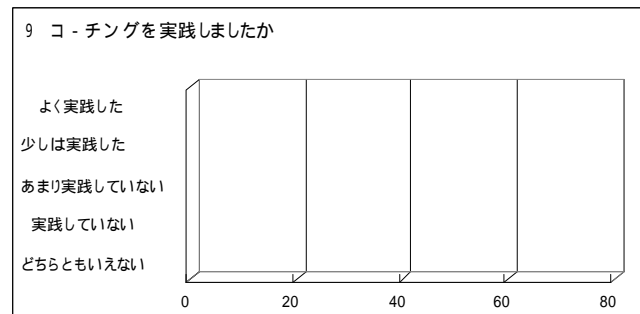
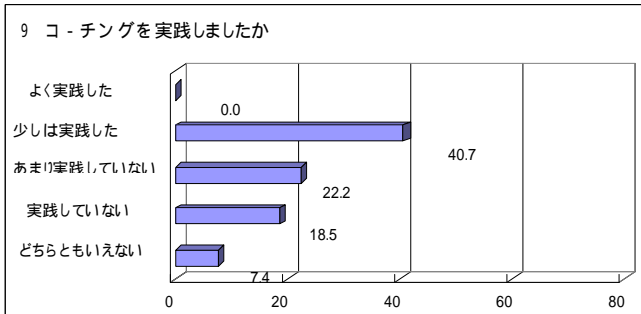
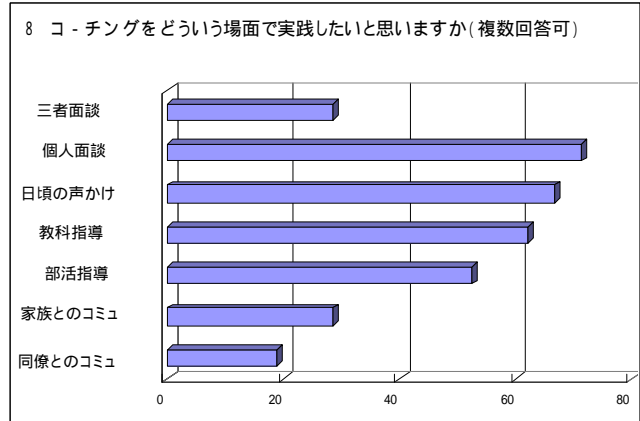
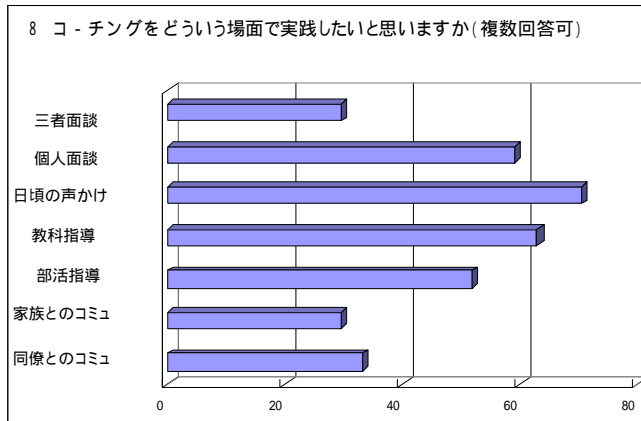
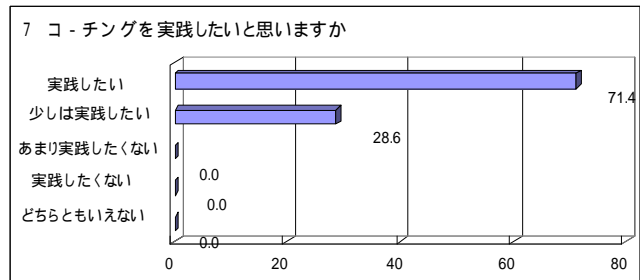
昨年度

産業能率大学研究所 主任研究員 樹永慶司 氏



本年度

学習コ・チアカデミ - 主席研究員 佐々木 宏 氏



質問番号9 ご意見・ご感想をお書きください。

講師の先生の話が具体的でわかりやすかった。もう少し参加者が増えればロールプレイなどが活発にできると思った。

佐々木先生の体験談をまじえてのお話が大変わかりやすく、また実際の場面に活用できることが多く、勉強になりました。とても良かったです。問いかけられることが多かったので、自分の頭も使えて刺激的でした。また、佐々木先生の研修を受けたいです。

具体的に生徒を想像する内容で良かったです。面談等で心がけたいことを学ばせていただけました。資料等もわかりやすく具体的に参考にしやすいもので良かったです。

よく分からないうちに進んでいって、後半はかなりできの悪い生徒でした。少しずつ練習して実践していきたいと思います。

1対1のコーチングも重要だが、学校ではさらに集団力(社会力)も大切である。最近の入社試験では、一定期間、集団生活をおくらせるというものもあるようだ。その中で、個人の役割分担を見るようだ。リーダーばかりでは会社は成り立たない。じっくり分析する立場の者もいれば、コンパ員員として雰囲気作りを担当する者も必要である。コーチングでその人の個性や、向いている向いていないを引き出せても、実際に社会で使えるかどうかの練習になっていない。学校(通信制は除く)ではいろいろな小集団を意識的に何度も何度も組み変える中で、生徒は自分の分担(居心地の良い場所)を認識してゆく。社会はやりたいことばかりの人々では成立しない。自分が生を受けたのは、社会で、どんな分担があるのだろうかと考える人にとって必要である。拳陰にもコーチングで、生徒の可能性を引き出すものもあれば、小集団(社会)の編成で力を発揮するものもいてよい。自己の能力を社会で活かせる人は幸せだろうが、その数は少ない。多くの方は自分の役割分担を見つけて生きているのではないだろうか。

佐々木先生のお話は上手で飽きさせることなく話を集中して聴くことができました。

コーチングをするには、「自分を素」にすることが大切だと痛感した。ここで考えたことを普段の生活にも使えるようにしたいと思います。

来年度も、学習コーチアカデミーで、更に内容を深めていくというのも、別業者にするよりも良いのでは。実際にかかわった事例を数多く取り上げ、具体的な説明をしてもらい参考になった。

実際に生徒と面談しているシーンビデオ等でみれないか。

5W1Hを有効に使えるように豊富な質問リストを頭の中に入れておかなければならないこと。

時期は今回がベストと思われるが参加者が少ない。

なかなか実践は難しいと思った。佐々木先生の面談する状況と私の面談する状況(環境)が大きな差があるので、なかなか実践にまでは至らないのではないかと思った。

教科指導に使えるたらよいのだが、その方策を考えたいと思います。

都合上、1日しか参加できませんでした。本当は3日間とも参加し、勉強したいと思いました。

日程的にも内容的にも良かったと思います。佐々木先生御自身が高校現場の状況を把握されており、さらに本校の推薦入試やAO入試に対する取組(事前に説明していました)にもある程度そった形でお話をされたのも良かったと思います。毎年、業者を変える必要がないのであれば、来年度も2年連続で研修をお願いしてはと思います。他校では前年度研修と重なる内容となり、やや盛り上がり欠けたとも聞いています。

日程が調整できず参加できませんでした。無理なこともかもしれませんが、コーチング研修をするのであれば、別の研修を今年度はしないなどの調整も要るのではないかと思います。

今回は参加しておりませんが、次回、機会があれば、組織づくりについてのコーチング研修ができるのであれば参加して勉強させていただきたいです。

以下は本年度の教員コ - チング研修から学んだことを、実際の生徒との面接の中でどれだけ生かすことができるのか、録画し佐々木先生に分析・指導助言をいただいたものです。

< 1 本目 >

テーマ：勉強時間を増やして集中する



内田先生の座る位置とか、目を見ながら話に共感する姿勢がとても印象的でした。生徒もとても話しやすそうな感じが、背中から見て取れます。

1 シーンを具体化する

「集中できたときと、できてないときはどのように違うのか」

「どういうときは集中できて、どういうときは集中できていないとか」

という内省型の質問がコーチングですね。これに対し、生徒は「体調とかじゃない」と分析しています。そして、分析しきれない生徒に対し、「テストの前とか」という考えるヒントを与え、「それはあるかもしれない」と答えを引き出すことに成功しています。

この場合、「集中」というシーンをもう少し具体化する方法もあります。「直近で集中できたときっていつだった？」という質問が、具体的なひとつの場面を想起させるので、より内省するヒントを見つけやすくなります。

これは未来をフォーカスするときにも有効です。なにかの発表資料を作るにあたって悩んでいる生徒には「その発表を聞いた人が、その後、どんな思いを持ったり、どんな行動に移してくれたりするのが理想？」などという質問です。人は見えないものには動けません。見えないものが何なのかを見せる。それがコーチングの醍醐味です。

2 答えの選択肢を広げる

次に、答えに窮する生徒に対して有効な質問方法として、選択肢を増やすという方法があります。「どんなとき集中できたか」という質問に答えが見つけれず困っているわけですが、このようなときは「集中している状態って、どんな状態？3つくらい挙げられる？」とか「集中させる環境や条件を、一つでなくてもいいから、思いつくままに5個以上挙げてごらん」などと質問します。

答えに窮するときの要因として、「ひとつの正解」をひねり出そうとして出てこないケース

があります。ひとつの正解ではなく、いくつかの要素を思い当たるまま口にしながら、生徒自身が考えを整理してゆく手助けをします。オートクラインを引き出すということです。

3 価値観ワードにアンテナを立てる

生徒が会話する中で、「ライバルとかに勝ちたいかと思うと、早めはやめに準備する」といったような発言があり、「負けず嫌いなんですね」と自己分析しています。

この発言は、生徒の価値観が反映されている象徴的な部分です。このセッションの中では、一番重要で、深掘り、拡大すべきワードです。つまりこの生徒は「勝つ」ということに価値を置いているのです。負けることが嫌いなわけですから、常に「勝つこと」を意識させる行動計画をともに作成することが可能です。

たとえば、彼女と仲のいい友達と、どちらが多く勉強したかをグラフにつけながら競わせるなどの方法があるかもしれません。それが難しければ、「自分に勝つ」というテーマで、日々の勝敗表を作成させるのも一計です。たとえば、「1時まで勉強する」という行動計画を立てたら、できた日には「」できなかった日には「」をつけさせ、星取表のようなものをつけさせる。先生は、日々生徒の星を見ながら、チェックする。「お～、昨日も自分に勝ったんだね。いいねえ～」と、承認するときにも「勝つ」という言葉を意識してちりばめるのです。

こうすることで、「自分との勝負を人に見られている」という緊張感が生まれ、行動が継続することが想像できます。このように、会話の中に生徒の価値観ワードが出てきたときには、その価値観が生きるような行動計画なり、目標を立てさせるのが有効です。

	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日
1時まで勉強する				
一日30単語				

< 2 本目 >
薬学部志望



竹内先生の京大を勧める熱い熱い思いが伝わってきました。進学校の進路指導のモデルだと思います。いわゆるティーチングですね。このプロセスのどこのタイミングでコーチングを活用するのかを検証してみたいと思います。

**# 1 共通で話せる話題は、一斉指導の中でやり、面接でしかできない対応に集中
模試の成績が落ちる背景を説明する竹内先生。**

3年になると模試の成績が落ちてくるという説明をされています。これは、前の生徒でも同じ説明をしていることから、すべての生徒にとって有意義かつ、必要な情報だと考えます。このような情報は一斉指導で伝え、機会の少ない個人面談のときは、一分一秒でも生徒の気持ちによりそったり、目標、行動計画の設定に注力したほうが効率的かと。

2 薬剤師になりたいという気持ちにフォーカスする必要あり

将来は薬剤師になりたいという生徒に対し、京大などに行き、院まで行って新薬の研究などをすることを勧めています。

薬剤師の資格をとることにこだわりを見せる生徒に対し、新薬の研究開発をすることのダイナミズムを説いています。しかし、後姿から見ても、生徒の反応はいまひとつです。なかで、竹内先生は「薬局で既存の薬を売るよりも、未知のものを開発することのほうが楽しいのが普通」と断言しています。

一般的にはそうかもしれません。しかし、その言葉にも反応しない彼女は、おそらく、「創造する」とか「名声」「世界を変える」などということには価値を置いていない可能性があります。(あくまでもひとつの仮説ですが)

もしも、彼女の価値観が「人との触れ合い」や「絆」というものであれば、白衣を着て一日中実験に明け暮れる新薬の開発など、想像するだけで恐ろしいことでしょう。また、「小さくまとまるのではなく、大きく育てほしい」という声かけも注意が必要です。もし、その生徒がどうしても薬剤師の資格をとって、薬局で働きたいという気持ちがあったとしたら、おそらくこの生徒は6年制に進んで薬剤師の資格をとる決断をしたとき、竹内先生

に伝えることを躊躇するでしょう。もしかしたら、先生に承認されるため、本音を隠す可能性もあります。

ただ、竹内先生のおっしゃるとおり、生徒が未熟で業界のことを知らないために小さくまとまることを考えている可能性も十分にあります。ですので、この一連の説得作業は決して悪いことではありません。

いずれにしても、どうして薬剤師にこだわるのか、そのあたりの気持ちにフォーカスした質問がないので、彼女は竹内先生の言葉を聞き流しているものと思われます。まずは、彼女のコップいっぱいにたまった「薬剤師」という水を飲んであげて、そのあとに新薬開発の提案をしてあげるのが順序だと思います。

薬剤師になりたいという理由を説明する言葉の中に、「創造」「名声」「世界を変える」という価値観をあらわすものが出てきたタイミングで、竹内先生の考えを伝えます。「君、そういう気持ちがあるんだったら、京大を目指すほうが君のキャリア形成にとって有利になると思うよ。なぜなら……」と、いう具合に。

この流れで発せられる竹内先生の言葉は、説教ではなく、彼女の気持ちを「強化」する言葉として、彼女の耳に素直に入ってゆくものと思われます。研修でやった、キャッチボールのパフォーマンスを今一度思い出されるといいかもしれません。キャッチボールの主体は受けてです。ボールを受け取ってくれる人に生徒は本音で話し、信頼を寄せます。

最後に、わたしの広島の友人で父親の病院を継いだ彼の言葉を紹介しておきます。

「佐々木、お前は生徒のキャリアを支援するコーチングをしとるんじゃないの。お前はええ仕事しとるのぉ～。つくづくそう思うよ。お前も知つとるとおり、わしは体育の教師になるか、親父の病院を継ぐかでもめていろいろあったけど、今はこうやって親父の病院を継ぎ、それなりの生活をさせてもらーとる。じゃがのぉ～、佐々木よ。わしはのぉ～、今つても、体育の教師がやりたいんじゃないあ……」

なにが本人にとって、本当の幸せか……

幸せとは、「なる」ものではなく「感じる」ものだと言われています。

以上。

質問を創る演習 II

「イメージを創る」
 ←「なぜ」「どこ」「いつ」
 「なに」「だれ」「どのように」

いつ	
どこ	
なに	
だれ	
なぜ	
どのように	

7

数値化する質問の創り方

コーチングの会話では、生徒の目標や現状、行動などについて、できるだけ計測・数値化したり、具体的な裏に落とし込むことで、イメージを共有化します。下記の状態を数値化・具体化する質問を考えて下さい。

<数値化の指標>
 xx% xx回 xx日(月) xx時間 xx枚 xx点 xx人

「一生懸命勉強します」

「できるだけ早く、宿題を出します」

「もっと、発表するようにします」

「楽しく取り組みたいです」

8

目的別内省型質問の事例

コーチは、学生の話や状況によって「何を見せるか」を判断します。一つのことをテーマにする場合でも、目的によってさまざまな内省型の質問が可能になります。

例)じゃあ、とりあえず岡山大学は受験します…。

イメージを創る	リソースを探す	モデルを見つける	視点を広げる	モチベーションを上げる
・岡大に入ったら、周からどんな評価を得たいですか？	・岡大受験に就いて相談できる人は？ ・岡大受験に向けて、+1+1ずつ時間をとるとしたら？	・岡大で合格した卒業生はだれですか？	・1年後、見事合格しています。いまから合格まで、どんなことが起こっていますか？	・岡大に合格したら、どんなことが可能になりますか？ ・合格したとき、どんなご褒美を自分にあげますか？
他の選択肢を探す	障害を取り除く	問題点をハッキリさせる	考えを整理する	意味をハッキリさせる
・岡大に合格するのと同じ満足度を得られる大学、または進路って？	・不安な要素はなに？ ・苦手科目が、能力ではなく、環境ややり方の問題だとしたら？	・なにがあれば合格できますか？	・今話したことで、大事な子とはなんですか？	・岡大に合格することは、あなたの人生にとって、どんな意味を持ちますか？

9

質問の流れを創る

具体化して課題、または解決法を「見せる」

いつ	なぜ
どこ	だれ
なに	どのように

生徒

→ コーチ: 何があつたら、その課題に取り組めたと思う？
 生徒: 今週は忙しかったので、時間があれば…

時間があれば、課題に取り組めた

2時間あれば、課題ができた

いつ なに だれ
 どこ なぜ どのように

いつ なに だれ
 いつ なぜ どのように

コーチ: どのくらいの時間があれば、課題ができたかな？
 生徒: 2時間くらいかな。

コーチ: 来週その2時間を確保するしたら、何曜日どのどの時間で
 生徒: 日曜日の夜10時ごろかな

10

質問の流れを創る演習 I

「広島県の想いを、世界の高校生に伝えて、平和を訴えたい」

目標の明確化	現状の把握	ギャップ要因、行動計画
--------	-------	-------------

11

質問の流れを創る演習 II

「2学期は頑張って、成績を上げます！」

目標の明確化	現状の把握	ギャップ要因、行動計画
--------	-------	-------------

12

平成20年度 真庭市立月田小学校 学校公開日 報告書 3学年主任・学力PT 吉原啓之

訪問者	吉原啓之
訪問先	真庭市立月田小学校
訪問期間	平成20年6月4日
<ul style="list-style-type: none"> ・ 終日授業を公開し、保護者でない地域住民にも開かれた公開日であり、高齢の方を含め、多くの参観者あり。1学年10名～20名 ・ 校内は清掃も行き届いており、掲示物も整然とされていた。 ・ 入学間もない1年生も先生の話を中心してきちんと聞けていた。 ・ 2年生は課題に真剣に取り組んでいた。 ・ どの学年も教師の話にしっかりと耳を傾け、落ち着いて学習に取り組んでいた。 ・ 高学年の教室の壁には、全員の顔写真入りで「1学期の個人目標」が横一列に掲示され、その上や下など垂直方向に各児童の書道などの作品が展示されていて、少人数ならではの工夫がされていると感心した。 ・ 教室を30分で一巡した後、校長室へ招かれ、30分ほど談話。主に高校についての質問（単位制・学区・再編整備など）を受けた。 ・ 校長先生は新見の方で、勝高には硬式野球部に魅力を感じていると話されていた。 ・ 教頭先生のお嬢さんが本校の2年に在籍。 ・ 12月にも公開日あり。 	

平成20年度 真庭市立月田小学校 学校公開日 報告書 教頭・学力PT 平井秀明

訪問者	平井秀明
訪問先	月田 小学校
訪問期間	平成20年12月 2日（火）曜日
<p>研修概要 13:15～13:45分まで全校一斉清掃の時間でした。清掃の様子を外で見学した後、校長室に案内され、福田校長と会談。ゆとり教育とも相まって、現在の小学校学習指導要領では「総合的な学習の時間」はもちろん、授業に体験学習を多く取り入れなければいけないそうで、その準備やまとめ・外部関係者との折衝など、昔に比べ教員の仕事量が増えるとともに、教室でじっくり教える時間が減少していることを懸念しているとの御意見を伺った。「勝校の公開授業にも是非お越し下さい」と伝えた。授業は5校時（14:05～14:50）を参観しました。1年から6年生まで全学年道徳の授業でした。そのうち、1年生、3年生、4年生、6年生の授業を参観しました。</p>	
<p>感想 6年生を除き、どのクラスも物語を読み、その中に登場する人物の心情を一緒に考えていく、という授業の形式であった。前時に物語はすでに読んでいたらしく、本時は場面を振り返り、その場面場面での登場人物の気持ちと、そう思う理由を児童に尋ね、それを黒板にまとめていった。いずれも差別はよくない、いじめはよくないということに繋げていた。児童は先生の質問によく答えていた。どのクラスも20人に満たない小規模校（6年だけ20人超）で、児童の挨拶はよくでき、明るい学校だったが、クラスにより雰囲気の違いがあった。全員が集中できているクラス、頬杖をついたり、横を向いている子がいるクラス等、教室の後ろにいる保護者のことなど全く気になっていない様子だった。6年生はエイズ問題を扱っていた。エイズ患者というだけで差別を受けている人の話、そして何を媒介にしてウイルスに感染するかという話だった。精液とかワギナという言葉が出てきて、小学校でここまで教えているのかと、改めて今の性教育の実態を認識した。高学年の教室では、身長差がかなりあり、机も3種類ほど使い分けていた。高校でもせめて2種類ぐらいは用意してもいいのではと思った。</p>	

平成20年度 真庭市立勝山中学校訪問 報告書 教務課・学力PT 桑元秀明

訪問者	教諭 桑元秀明
訪問先	真庭市立 勝山 中学校
訪問期間	平成20年6月16日(月)曜日 学校開放日・研究授業・その他()
研修概要	<p>授業見学</p> <p>(2)年(C)組 科目名(理科)担当先生(柴原先生)</p> <p>授業の導入では先週起こった地震について1年次に習った地震のメカニズムにふれたりして生徒の興味を引く話題で授業に引き込んでいたようだった。</p> <p>(2)年(B)組 科目名(国語)担当先生(わかりませんでした)</p> <p>生徒の発言を数多く引き出し、生徒と共に授業を進める形が高校の講義形式の授業に慣れているせいで、非常に新鮮でした。生徒に質問を投げかけ、その答えをまたみんなで考えていく、生徒にとって楽しい授業に見えました。</p> <p>その他</p> <p>落ち着いた感じで授業が進められていた。今日は3年生は実力テストが何かでテストをしていたし、1年生はプールで体育をしていたので座学系は2つだけだったのが残念でした。</p>
感想	<p>休憩時間に数多くの生徒から気持ちよい挨拶を受けた。掃除も隅々まで行き渡っており、気持ちよい学習環境が整えられていることにも感心した。</p>

平成20年度 真庭市立勝山中学校訪問 報告書 教頭・学力PT 平井秀明

訪問者	平井秀明
訪問先	勝山 中学校
訪問期間	平成20年 6月 19日(木)曜日 学校開放日・研究授業・その他()
研修概要	<p>授業見学 かなり見ました。</p> <p>(1)年(A)組 科目名(数学)担当先生()</p> <p>(2)年(A)組 科目名(国語)担当先生()</p> <p>(2)年(B)組 科目名(家庭)担当先生()</p> <p>(2)年(C)組 科目名(英語)担当先生()</p> <p>(3)年(B)組 科目名(社会)担当先生()</p> <p>数学は習熟の基本クラス、かなり手こずっていた。</p> <p>国語はかなり高度な生徒に考えさせるいい授業だった。</p> <p>社会は公民で政治の話、特に予算がどう付けられているか、という内容で興味のある話だった。</p>
感想	<p>生徒の挨拶は大変よくできていた。校舎内は綺麗に掃除されていた。しかし、耐震強度を調べるためにあちこちの壁に穴が開けられ、それをふさぐ蓋が付けられており、外見上は見苦しくなっている。数学と英語は習熟度別授業を採用していた。県がその対策に3名を当ててくれているということだった。ただ、習熟のクラス選択は生徒の希望に任せているので、人数がアンバランスになり、よくない結果にもなっているらしい。授業によっては(先生によっては)騒がしくはないが、集中できていない生徒がいるな、という感想です。</p>

平成20年度 真庭市立勝山中学校訪問 報告書 教頭・学力PT 平井秀明

訪問者	平井秀明
訪問先	勝山中学校
訪問期間	平成20年11月13日(木)曜日 学校開放日 ・研究授業・その他()
研修概要	<p>授業見学 9:50～10:40 (3)年(B)組 科目名(英語) 担当先生(丸山浩枝 先生)</p> <p>その他 休み時間に会った生徒はよく挨拶してくれた。とても人なつこかった。ただ、トイレの陰に隠れた場所で男子生徒が別の生徒の自転車に二人乗りしてふざけていた。</p>
感想	<p>私が勝山高校で最初に担任した生徒が、同じ英語の先生になり、勝山中学で働いていることを聞いていたので、今回はこの丸山先生の授業だけを50分間参観させてもらった。参観したクラスは丸山先生が担任しているクラスということもあってか、生徒は教師に大変信頼感を持っているようだった。</p> <p>丸山先生も自信を持って教えられていた。確かに一昔前と比べると、文法的なことの説明や和訳を生徒にさせることはほとんどなく(今時の授業しか見てないし、3年生のこの時期だから文法的な説明はすでに終わっているかもしれないが)、教師が全文の訳を板書し、生徒には英語を発音させる(文レベルで)活動が多かった。いずれにせよ、伸び伸びとした授業でありながら、私語や勝手な行動をする子もいなくて、一言で言うと楽しく充実した授業であった。御多分に漏れず、総じて女子の方が活発であった。最後の10分は文化祭直前ということでクラスの出し物の練習に当てていた。</p>

平成20年度 真庭市立勝山中学校訪問 報告書 教務課・学力PT 桑元秀明

訪問者	教諭 桑元秀明
訪問先	真庭市立 勝山 中学校
訪問期間	平成20年11月13日(木)曜日 学校開放日 ・研究授業・その他()
研修概要	<p>授業見学 (3)年(A)組 科目名(国語) 担当先生(森里先生)</p> <p>授業の導入では小テストを行い、授業に生徒を引き込み、時間のロスがなくて良かった。少人数授業で行われており、生徒たちは落ち着いた授業態度であった。グループ学習においてもスムーズに生徒それぞれが役割分担をして学習していた。体育館において文化祭の劇の練習が行われていました。舞台上のセットなども自分たちでつくっており、練習も一生懸命やっていました。</p>
感想	<p>休憩時間に数多くの生徒から気持ちよい挨拶を受けました。掃除も隅々まで行き渡っており、気持ちよい学習環境が整えられていることにも感心しました。</p>

平成20年度 岡山県立岡山御津高等学校訪問

報告書 進路指導課・学力向上PT 竹内成長

訪問者	竹内成長
訪問先	岡山御津高等学校
訪問期間	平成20年6月16日(月)

岡山県立岡山御津高等学校で平成20年6月16日(月)に行われた「授業力のミドルリーダーの育成事業 寺岡先生の公開授業」を見学した。

【公開授業の様子】

数学の図形と方程式の単元で2点間を結ぶ直線の方程式が教材であった。2年生の理系クラスで数学を得意としている生徒25名程度の授業であった。すでに、前時間までに教科書で2点間を結ぶ直線の方程式については学んでいた。

公開授業では前時間学んだ公式

$$\frac{y_2 - y_1}{x_2 - x_1} = \frac{y - y_1}{x - x_1}$$

について X_1 と X_2 を交換しても一般性が失われない

こと、つまり $\frac{y_1 - y_2}{x_1 - x_2} = \frac{y - y_1}{x - x_1}$ としても2点間を結ぶ公式として使えることを示

す内容であった。通常であれば、当然のこととして流してしまう部分であるが、そこを実際に計算をし、一般性が失われないことを確認されていた。さらにグラフを書くなどして説明するのが普通であるが、そこを徹底して代数にこだわって授業展開をされていた。

生徒に対する質問等もわからないところは補助しながら、次の生徒にパスすることなく、寺岡先生のこだわりが感じられた。

【研究協議】

研究協議ではほとんどの教員が、自分であればグラフ等を活用して説明するという感想を持っていたようである。岡山大学の曾布川先生が指導助言の中で「あえて、代数にこだわって授業展開されていたところがすばらしかった」と高く評価され、一本筋の通った授業であったこと気づかされた。私自身も含め、そのことに、どれだけの教員が気づいていたのだろうかと思った。

【感想】

本校の授業では、当然のこととして扱い、まずしないだろうと思われる内容であった。しかし生徒にとっては、 X_1 と X_2 を交換しても大丈夫か、つまり具体的な数値が与えられた時、2点の座標のどちらを X_1 としたらよいか気になる部分である。また、分母が0となる場合はどうかなど、見落としがちであるが、数学では非常に大切な部分を丁寧に説明されていたのが印象的であった。

平成20年度 鳥取県立倉吉東高等学校訪問

報告書

1学年主任・学力向上PT 黒瀬大亮

訪問者	坂手祐子 黒瀬大亮
訪問先	国際高校生フォーラム 鳥取県立倉吉未来中心大ホール
訪問期間	平成20年8月11日(水)

鳥取県立倉吉東高等学校が主催している『国際高校生フォーラム』の見学に、生徒8名(1年生:5名 2年生:2名 3年生:1名)とともにやってきた。

国際高校生フォーラムの要旨は以下のとおりである。

趣旨

高校生が独自の自由な発想を生かして、現代社会の諸問題に真正面から取り組み、その解決策を模索し、学校・地域・国境を越えた意見交換をするなかで、高校生として今考える最大限可能な問題解決の方向をまとめ、将来の日本および世界に貢献できる資質を身につける。

目的

広い視野と深い問題意識を持ち、公正で逞しいリーダーとして次代を担う高い志をもつ生徒の育成
効果的な表現方法を用い、説得力のあるプレゼンテーションができる生徒の育成
広汎な交流と知的・社会的刺激の授受により高度な学びへ向かう主体的生徒の育成

活動内容

所定のテーマにもとづいて調査・研究・思索したことをもとに視聴覚機器を効果的に使ってプレゼンテーションしながら解決策について自分たちの主張や提言としてまとめ、発表する。質疑応答と相互評価を展開し最後に有識者による講評・表彰(最優秀校・優秀校)をおこなう。

テーマ

生徒が興味を持って主体的に取り組むことができ、かつ今日的・将来的に大きな社会的意義をもつもの、思索や議論に幅と広がりがあり、お互いの認識がともに深められるもの

プレゼンテーション条件

確かな裏づけにもとづいて一つ以上の明確な提言を提示すること
視聴覚機器、パソコン等を用いること
発表時間は一校20分以内とする

今年度のテーマ、及び参加校は以下のとおり。

趣旨説明

人類は近代以降急速に文明を発達させながら進歩してきたと言われる。現に我々は科学技術による物質的豊かさや、自由・平等・民主主義といった理念に基づく整えられた諸制度など文明の恩恵に浴して、そのお陰で現在の生活が成り立っていると感じている。また、更なる自由の拡大と物質的豊かさの実現を未来への希望としながら、人類は進歩を志向してきたといえる。

一方文明が進んでいるといわれる先進国においても環境問題や所得格差問題、少子化問題などが発生し、進歩主義の概念(進歩のイデオロギー)を無条件で肯定できない状況がある。また進歩は競争によってもたらされるとして、極限のない競争に向かおうとする市場原理主義の考え方にも、人々は未来を信じる事が

困難になっている。

そこで、進歩のイデオロギーを改めて検証し、人類にとって進歩はどのようなものであるのが望ましいかを考察した上で、我々はどのような未来への希望を見いだすことができるかを明確に提示してほしい。

参加校

長野県松本深志高等学校・静岡県立浜松北高等学校・岡山県立岡山操山高等学校・島根県立松江北高等学校・福岡県立修猷館高等学校・鹿児島県立甲南高等学校・大韓民国京畿道安養高等学校・鳥取県立倉吉東高等学校・イギリス Baines School



昨年度から実施している本校のプレゼンコンテストへむけての参考になれば、との考えから生徒を連れての見学となった。

オープンキャンパスや部活動との兼ね合いもあり、生徒の参加は少数にとどまったが、学年に応じた前向きな体験となったようである。

3年生にとっては決断を迫られているAO入試へむけての思索となり、2年生にとっては昨年度の自分たちの研究・発表との比較となり、1年生は高校生が行うことができるレベルを体感することができた。

この見学がプレゼンコンテストへのモデルとなることはもちろんのこと、進路決定へむけての進路研究など進路意識の高まりになることは間違いなく、他校との交流をすることによる、本校生徒の目的意識の向上を更に積極的に行うべきだと考える。

平成20年度 岡山県立西大寺高等学校訪問

報告書

1学年主任・学力向上PT 黒瀬大亮

訪問者	黒瀬大亮
訪問先	西大寺高等学校
訪問期間	平成20年10月29日(水)

岡山県立西大寺高等学校が平成20年10月29日(水)～10月31日(金)の第2校時～第4校時に行った公開授業を見学。

西大寺高等学校の規模

1学年：普通科4クラス・商業科2クラス・国際情報科1クラス

西大寺高等学校の進路状況

国公立大学進学者 H19：44 H18：40 H17：45

専修・各種専門学校進学者 H19：52 H18：68 H17：52

就職者 H19：21 H18：16 H17：25

公開授業の様子

生徒はおおむね落ち着いて授業を受けている。3年理系単独クラスの数学の授業は全員が数学の問題を解くことに集中しており、理系らしい引き締まった受験体勢になっている雰囲気を感じた。3年文理混合クラスでの古文の授業は源氏物語を教材としてプリントに書き込ませる展開をしていたが、集中度の高まりがあまり感じられなかった。1年生の国際情報科は活発な生徒が多いようで教師と生徒とのやりとりへの関わりが積極的に見られた。1年生普通科の英語授業ではそろった大きい声の音読をしていた。1年生の数学の授業では中間考査の返却がされており、解き方や採点方法、点数への積極的な質問があり、こだわりなどが感じられた。

授業形態は、英語や漢文では生徒全員による音読が行われており、板書やクラス掲示などから推測する限りでは、授業への予習指導にプリント作成などの指示が出ていることなどから、授業が効果的に行われるような工夫をしていこうという姿勢は感じられる。

1年生は本校同様まだ幼い面が感じられるところもあるが、学校全体としては落ち着いている雰囲気はある。しかし、休み時間で多くの生徒とすれ違うが、挨拶をする生徒はまったくない。また、校舎内が荒れたり汚れているわけではないが、もう少し気遣いができるのでは思われる箇所も見受けられた。

ごく一部を拝見したのみで判断するのは危険ではあるが、生徒の挨拶、本校の先生方の授業改善へむけての創意工夫、環境整備などといった面で本校の取り組みや意識の方が先行しているように感じられた。

平成18・19・20年度 文部科学省研究指定開発指定
「目指せスペシャリスト」事業 研究指定校研究成果発表会
愛媛県立松山商業高等学校 報告書 34HR担任・学力向上PT 赤岩康弘

発表会参加者	赤 岩 康 弘
会 場	愛媛県立松山商業高等学校
日 時	平成20年11月6日(木) 10:00 ~ 16:00
学校の概要	・平
成13年 創立100周年を迎える	
・学科	商業科 2クラス
	流通経済科 3クラス
	情報ビジネス科 3クラス
	国際経済科 1クラス 27クラス 1,059人

・進路状況

進学 7割 (国公立大 41人 地元大学:愛媛大12人 松山大136人)

就職・その他 3割

平成19年度

主な進学先

国公立大 一橋大学 金沢大学 静岡大学 岡山大学 広島大学 香川大学
高知大学 長崎大学 大分大学 鹿児島大学 琉球大学 など

私立大 駒沢大学 中央大学 武蔵大学 関西外語大学 近畿大学
龍谷大学 桃山学院大学 大阪商業大学 関西大学 など

主な就職先

日本食研 四国コカコーラ タカキベーカリー 帝人 ヤマキ
日本ペイント 東芝 四国電力 四国ガス JR西日本 JR四国
日本通運 デオデオ ハタダ マルナカ 愛媛銀行 武富士 など

公務員 愛媛県警 自衛隊 愛媛県庁 松山市役所 国家三種(税務)

研究開発の概要

・研究開発課題

「地域経済の活性化と豊かな国際感覚を備えたビジネススペシャリストの育成」

・研究計画

流通経済科 仮想商店街「Virmas」の設定と運営について
情報ビジネス科 仮想商店街のWebページ作成
国際経済科 アメリカのビジネス高校との国際交流授業について

・学校設定科目

流通経済科 ビジネス開発 ビジネス実習
情報ビジネス科 Webビジネス 情報演習
国際経済科 地域ビジネス理解 国際ビジネス理解

「目指せスペシャリスト」事業で、資格取得率が上がった(特に上級資格)。国公立大学進学も年々増えている。地域や海外との連携事業が多くできた。かなりの生徒や教員が今回の事業に満足し、成果があったと評価している。

平成20年度 岡山県立林野高等学校訪問

報告書 23HR担任・学力向上PT 内田真理子

訪問者	内田真理子
訪問先	林野高等学校
訪問期間	平成20年11月18日(火)

岡山県立林野高等学校で平成20年11月18日(火)に行われた「授業力のミドルリーダーの育成事業 公開授業」を見学した。

【公開授業の様子】

内田浩文先生の現代文（２年生）の授業を参観した。見どころは、教科書教材「環境問題への視点」（中村桂子）をメインテキストに、同じく教科書教材「ハイテク化と人間のゆくえ」（養老孟司）をサブテキストにし、両者の主張を読み取りその共通性を捉えさせるという複数教材を扱った点と、ディベートの枠組みを利用してその主張に対する反論を考えさせるという表現活動を読解に活かす点である。

授業のメインは生徒のペア及びグループ活動であり、生徒はみな活発に話し合いができていた。男女混合のグループであったが、男女の別なく意見交換ができていた。グループでの話し合いの結果を発表する場面では、それまでの「話す能力」の学習成果がよく活かされ、上手に発表していた。

気になった点は、内容読解が十分でなければグループでの話し合いも深まらないという点である。メインテキスト、サブテキストともに平易であるとは言い難く、生徒の様子から十分な理解ができていなかったように思われる。複数教材を扱う際にはテキストの選定を慎重に行わなければならないことを実感した。

【研究協議】

研究協議では、授業参観の際に「基礎・基本の定着（知識・技能の習得）」「習得した知識の活用（思考力、表現力等の育成）」「主体的に学習する態度の養成（関心・意欲）」の観点から「良かった点」「自分ならこうするという点」を付箋に書き出しておき、それをもとに協議するという形をとった。

「基礎・基本の定着」については、ワークシートの工夫が有効であるという意見が多く出たが、それを埋める作業に終始してしまうというマイナス面も指摘された。

「習得した知識の活用」については、グループでの話し合いにより視野が広がるとともに論理的思考力も培われるという意見が出た。生徒の意見をどのように時間内にまとめていくか、グループの話し合いへの支援をどのように行うかが課題であるとの指摘があった。

「主体的に学習する態度の養成」については、グループ活動なので主体的にならざるを得ないという意味で、今回の授業形態は効果的であったという意見が出た。ここでもグループ活動への支援をどのようにどこまで行うかが課題であるという指摘がなされた。

【感想】

林野高校の生徒は明るく元気な印象があり、よく挨拶をしてくれた。授業態度も落ち着いており、課題に前向きに取り組んでいた。本校生徒の気質に近いものを感じる。生活態度の面でも負けないように指導していきたい。

内田先生の授業実践はもちろん大変参考になったが、付箋を活用して協議するという方法自体も授業に活かそうである。

平成20年度 岡山県立瀬戸高等学校訪問

報告書 進路指導課・学力向上PT 竹内成長

訪問者	竹内成長
訪問先	岡山県立瀬戸高等学校
訪問期間	平成20年11月20日(木)
<p>岡山県立瀬戸高等学校で平成20年11月20日(木)に行われた「授業力のミドルリーダーの育成事業 笹埜先生の公開授業」を見学した。</p> <p>【公開授業の様子】</p> <p>2年生の理系数学の授業で微分の分野であった。1辺がaの正方形紙を使ってふたのある直方体を作る。その時、体積が最大となるようにするにはどのような折り方をすればよいかという問題であった。すでに前時間に問題を提示している。クラスをグループに分け、グループごとに今回の問題について話しあい、本時間で発表していく、という授業展開であった。5グループで3タイプの案が示された。我々、教員でも思いつかないような案がでてきてなるほどと思うものもあった。それぞれの案について体積を求めていったところで時間がきて、グループ学習に入れなかったのが残念であった。板書や説明等、大変丁寧であった。生徒も落ち着いていて、授業に集中していた。</p> <p>【研究協議】</p> <p>研究協議では、非常に丁寧な説明で良かったが、グループ学習の部分を見ることができなくて残念であったとの感想が多かった。それぞれの学校でグループ学習をしているかとの質問がでたが、あまりしたことがないとのことであった。</p> <p>【感想】</p> <p>自分の授業でもグループ学習はまったくしたことがなかった。今回、直接見学することはできなかったが、笹埜先生から話をきいて是非、実践してみたいと思う。グループをどのようにして分けるか、数学の力が大きくかけ離れている生徒同士だと、どうかなど課題はあると思うが試してみたいと思う。自分の授業では、小テストをしたあと、隣の席の生徒で交換して採点をさせるが、生徒は喜んでやるので、グループ学習もおもしろい展開ができると思う。自分では経験のない新しいスタイルの授業展開であり、自分でも試してみたい授業形式であると思った。</p> <p>板書や説明等、大変丁寧にされていて参考になった。また教材の選び方も箱の体積といった身近なものを題材にしてありながら、教科書等にはないもので考えさせるものであった。</p>	

平成20年度 第1回大学入試研究会(主催 代々木ゼミナール)
 報告書 3学年主任・学力向上PT 吉原啓之

参加者	吉原啓之
会場	ピュアリティまきび
日時	平成20年 6月 5日(水) 15:00~16:40
<p>80名程度の参加者</p> <p>Part1 2008年度の入試結果(全国)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立志向根強い ・国公立後期は倍率アップで軟化が顕著 ・私立は偏差値50~55を境にして二極化が進行 ・東大後期合格者の9割は理系 <p>Part2 2009年以降の入試情報(全国)</p> <p>Part3 中四国地区2008年度入試結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛法文 倍率 2.6倍(07年) 1.3倍 強気で広大へ流れた ・高知人文国際社会 セ試3教科3科目が狙われた(4.2倍) ・岡山 文 隔年現象(関西からの流入少ない) ・岡山 教育 ほとんど2倍以下 ・理学部倍率 全国2.4倍 中四国 ほとんど2倍前後 ・高知理学部 合格者のセ試得点率平均60.7%は全国平均以下 ・岡山 経済と法 倍率難易度ともに並ぶ ・香川 セ試易化すると人が集まらない <p>Part4 近畿地区2008年度入試結果</p>	

平成20年度 入試結果説明会(主催 ベネッセコーポレーション)
 報告書

参加者	日笠 剛, 福田 誠, 佐藤 康裕, 内田 真理子
会場	ママカリフォーラム
日時	平成20年 6月11日(水) 15:00~17:00
	<p>2008年度の入試結果と2009年度入試の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難関大を除き入試競争は緩和。 ・入試競争には地域間の格差が見られる。(首都圏・近畿>その他の地域) ・国公立大 ・経済学系統、工学系統は人気上昇。資格系の学部系統は競争緩和。 ・医学科「理科3科目化」の動き。医学科「地域枠」の拡大。 ・私立大 ・私立大全体で志願者数が増加。(ただし増加分はCT方式拡大分) ・経済学系統の人気が顕著。資格系の学部系統は競争緩和。

地元大学を中心とした学部系統毎の入試結果分析

人文系統

- ・岡山、愛媛、島根（社文）、鳥取、山口で受験者減。
- ・広島、高知、島根（言文）、高知で受験者増。

法学系統

- ・難関大で受験者減、中四国大で受験者増。
- ・大阪、神戸で受験者減。
- ・広島、香川、鳥取、島根県立で受験者増。

経済系統

- ・神戸、九州で受験者減。（前年からの揺り戻し）
- ・中四国大で隔年現象を起こしている。

教育系統

- ・京都、神戸では高倍率入試が継続。
- ・中四国ではブロック大で受験者増。ブロック大以下では受験者減。

総合・栄養・生活・福祉系統

- ・総合...広島で受験者増。徳島で受験者減。
- ・栄養...県立広島で受験者増。岡山県立、山口県立、高知女子で受験者減。
- ・福祉...隔年現象を起こしている。

理学・工学系統

- ・難関大に強気の出願。
- ・中四国大は前年並み。

看護系統

- ・岡山、広島は受験者増。それ以外で受験者減。

医療技術・薬学系統

- ・人気が下降し、受験者減。

医学部医学科

- ・全国的に前年並み。CT理科3科目となった九州は受験者減。

農学系統

- ・神戸、広島、岡山、愛媛、長崎で受験者増。
- ・山口、鳥取、香川、島根で受験者減。

平成20年度 第1回大学入試情報分析報告会（主催 河合塾）

報告書

進路指導課・学力PT 寺元晋介

参加者	矢吹 実, 寺元 晋介
会場	ホテルオークラ岡山
日時	平成20年 6月 12日(木) 15:00~17:00
	<p>80名程度の参加者</p> <p>・「2008年度入試結果 全国動向レポート」 アベさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター7科目化により国公立離れが感じられたが、現在は横ばい状態 ・難関12大(旧帝大+一橋・東工大・東京医科歯科・神戸・広島)の志願者は増だが広島大を除く中四国国公立大の志願者の減少が目立った。特に東大人気は継続。 ・学部系統では模試動向通り、文・経済は人気あり、教育は不人気傾向だったが、ほぼ前年並みの志願者に落ち着いた。医療系では歯学部の志願者減が目立った。

- ・後期日程廃止は 2009 年度も拡大する予定。
- ・私立大は、主要 21 大学(早慶上理・MARCH・日東駒専・関関同立・産近甲龍)の志願者数がその他の私立大学の志願者数を超え、二極化が鮮明になる。

「2008 年度入試結果 中四国動向レポート」

文人文系統；不人気傾向

大阪大 / 外国語・・・チャレンジ出願多い。英語で勝負が決まる。

大阪 / 文は英語だけではない。

高知大 / 人文・・・模試から人気傾向 模試ほどではなかった。

法政系統；人気

鳥取大 / 地域政策・・・2次小論が合否を決める。

経済系統；人気

岡山大・広島大・山口大(2次科目減)は人気。他は不人気。

山口大は岡山県内からの流入も

香川大(2次科目英語必)で不人気。地元からも敬遠される。

教育系統；横ばい

教員養成系は前期は志願者減，総合課程は後期が不人気

理学系統；高知以外は志願者減

岡山大 / 理 / 地球科学は大幅ダウン

高知大 / 理は理科受験者が多い。岡山・兵庫からの流入も。

工学系統；横ばい

山口大の地方受験(大阪)は不発(近畿からは来ていない)

岡山大 / 工 / 通信ネットはボーダーダウン

愛媛大 / 工の後期は人気。岡山・広島・九州からも流入。

農学系統；横ばい

獣医は志願者減

愛媛大は2年連続で志願者増

鳥根大・山口大・鳥取大は不人気

医療系；やや減

医・薬学系は前年並み。歯学系ははっきり不人気。

看護は不人気

総合系；

鳥取大・徳島大は隔年減少に注意

鳥根県立大は不人気

平成 20 年度 学研小論文対策研究会

報告書

32HR担任 矢吹 実

参加者	森山順子 矢吹実
会場	ピアリティまきび
日時	6月26日(木) 13:30～16:30
	<p>1. 入試対策編</p> <p>社会問題</p> <p>近代的価値(我々の社会常識)が崩れ、個々の価値観が一人歩きしている現代の状況を認識することが肝要。 鳥根法文, 信州大人文</p> <p>若者の行動形態の特徴はコミュニケーションが困難(一種の退行)であるということ, 自尊感情が低いこと, 相手次第で羞恥心は変化するということ</p> <p>阪大文, 北大教育</p>

1. 入試対策編

社会問題

近代的価値(我々の社会常識)が崩れ、個々の価値観が一人歩きしている現代の状況を認識することが肝要。 島根法文, 信州大人文

若者の行動形態の特徴はコミュニケーションが困難(一種の退行)であるということ, 自尊感情が低いこと, 相手次第で羞恥心は変化するということ

阪大文, 北大教育

格差・貧困問題

ワーキング・プアはニート・フリーターに比べ一段と深刻な問題であるという認識が必要。一旦陥ると抜け出せない現実があり, その背景は個人の意識・意欲に原因があるのではなく政治・社会・経済の仕組みに関連していることを理解する。

北教 新潟大経済

グローバル化

グローバリズムとは国民国家を無化し, マクドナルドのように世界を均質化・画一化することである。異文化理解・異文化衝突というテーマが多い。

香川大教

その他

ネット・携帯の流布に関連するテーマやミクシー・ウィキペディアなどが出題されている。教育はゆとり教育の見直しについて問う問題が多い。

2. 2009年の出題傾向の予想

サミットで環境問題が復活するだろう。

医療系は医療ミスについて考えを問う問題が多いだろう。

3. 高校生に薦めたい思想家・本

アマルティア・セン...アジア初のノーベル経済学賞受賞『貧困の克服』

ベネディクト・アンダーソン...国際政治学者 『グローバリゼーションを語る』

小松秀樹『医療の限界』

福岡伸一『生物と無生物の間』

内山節『「里」という思想』

4. 小論文指導編

指導のポイント

教師と添削者との違いは、直接指導ができる点。細かな「赤入れ」よりも、5分の対話を。専門の添削者はおかしいと思われる部分を指摘するだけでなく「例えば・・・」という形で具体的にどう直すかを示さないといけないが、教師の場合、不完全か箇所については「問い」として投げかけ、あとは生徒とのやりとりで。

志願理由書の書き方

例えば、経済学部であれば経済的な視点を盛り込みながら書く必要がある。そのためには日頃より、様々な角度から日常的なことなども観察し、素材をたくさん持っておく必要がある。

小論文指導体制の全国的な取り組み例

1) 学校独自のテキストを作成。

・毎年同じ問題のため、題材を探す負担が少ない。

- ・コメントの代わりに、記号で済ませる工夫。
- ・答案がバラバラにならず、取り組みが記録に残る。
- 2) 生徒の相互評価システムを導入
 - ・業者教材をベースに小論文コンクールを実施。
 - ・答案をコピーし、生徒4人班による相互評価を実施。 評価の高いものを小論文集にまとめる。
- 3) 小論文を軸にした取り組み
 - ・小論文を軸に、様々な活動が年間に盛り込まれている。
 - ・新聞の切り抜きを貼る「情報ノート」の作成。
 - ・ディベート大会で「伝える」能力を養う。
 - ・小論文模試はあらかじめテーマを教え、事前に調べて本番に臨む。 よいものはHRで回覧し、生徒同士で共有する。
- 4) その他
 - ・指導は国語科と他教科のペアチームを組んで実施。
 - ・総合学習で取り組む。1テーマに5時間かけ、「知る」「調べる」「書く」「クラスで確認・意見交換」の流れで取り組む。

平成20年度 高1・2進路研究会(主催 河合塾)
報 告 書

参 加 者	椋代 健、水島ゆかり
会 場	ホテルオークラ岡山
日 時	平成20年 7月 12日(目) 15:00~17:00
	<p>60名程度の参加者</p> <p>Part1 国立大学 教養・共通教育の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学法人化によって教養教育のコマ数のいかに維持するか。 ・共通教育の単位数は減少している。そのなかで高い水準の英語教育システムを導入している大学もある。 ・大学生の満足度としては半々で、その不満の理由として大学のシステムに問題があるとしている学生がいる。 <p>Part2 農学系の学びに関する報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農学系学部で主に学べることは、3分野にわかれる。「生物生産」「応用生命」「環境」である。 ・大学によって研究室構成が異なるので、学科の中身まで調べることが重要である。 ・大学院進学率は応用生命系が多い。生命科学の発展スピードが速くなり、学部教育だけでは必要な知識を身につけることが困難になりつつあるためである。

- ・公務員の就職に関しては、環境系学科に多い。
- ・農学系学部の学生が高校時代にもっと身につけておけばよかったと思う科目に生物があげられる。学科によっては、数学や物理の知識が必要なところもある。

Part3 国際系の学びに関する報告

- ・国際は一つの体系だった学問ではない。諸科学を統合して、学際的にアプローチする場である。
- ・大きく分類すると「国際関係」と「国際文化」に分けらる。国際関係分野では、社会科学分野の学問を中心に国家間に存在する諸問題にアプローチする。国際文化分野では、人文科学分野の学問を中心に、国家の枠を超えて文化と文化の関係から国際的な諸問題にアプローチする。
- ・国際系学部で重視されているのは、「英語教育」と「留学」である。
- ・卒業後の進路は、顕著な特徴はみられない。また、「学部では教養、専門は大学院で」という志向を持っている。

平成20年度 教科研究会（河合塾）報告書

3学年主任・学力向上PT 吉原啓之、進路指導課・学力PT 竹内成長

研究会参加者	竹内成長・吉原啓之
会場	河合塾広島校
日時	平成20年 8月23日(土) 13:30~16:30

教科研究会 ~効果的な指導を考える~

研究会の目的

今年度はじめて実施された研究会である。昨年度6月に全国で開催された「高校1・2 進路研究会」の中で扱われた『高校3年生の学力に関する報告』を、より発展させものとして今回の教科別研究会が実施された。現3年生は中学校から現行の学習指導要領に移行し、完全学校5日制の中学時代をすごし現在に至っている。この課程の生徒は授業時間数が少なく、新しい教科書では学習内容が軽減され、長い「ゆとり教育」の時代の中で一番「ゆるい」タイミングの生徒である。こういった生徒について学習意欲や低学力層の拡大という現状の問題点を継続して検証した結果を踏まえ、これらの問題点に対する具体的な指導法を、河合塾の実際の授業例とともに紹介された。

数 学

1 現3年生の実態

モニタ - 高校において2006年度と2007年度の高3生との比較検討

分析結果 図形を把握する力の低下

図を描いて考察すれば解けるはずの設問での正答率低下が目立つ。

三角形や円に関する様々な内容が中学校で削減され、高校で初めてこれらの内容を学ぶため、十分に定着するだけの時間がとれていないことが大きな要因と思われる。

分析結果 考える力の低下

上位層において、典型問題や基本公式の処理能力は上がっているが、目先の変わった設問への対応能力は低下している。

分析結果 文章を正しく読み取る力の低下

「確率」では全学力層で平均点の下降傾向がみられた。文章を正しく読み取る

力が弱くなってきている。

分析結果 学力格差は増大

上位層はやや上昇、中下位層が下降傾向にある。学力格差が広がっている、いわゆる二極分化の傾向がみられる。特に「微分法」「ベクトル」の問題において、その傾向が強い。

- 2 2008年度 第1回マーク模試の成績結果分析より
「方程式・不等式」、「対数関数」、「図形と方程式、微分法・積分法」「数列」について実際のマーク模試の問題が示され、どのマークで正答率が大きく下がっているか、その要因について報告がありました。
- 3 指導法テーマ1「場合の数・確率～区別をつける、つけない」
05年度 東北大理系・08年度広島大理系の入試問題を例題に河合塾で実際にしている講義を通常の教室で我々を生徒と見立てて実演されました。
- 4 指導法テーマ2「数列を『数の列』として捉える」
07年度 全統記述理系問題を例題に河合塾で実際にしている講義を通常の教室で我々を生徒と見立てて実演されました。

問題解法の方針の立て方についてかなり時間をかけ丁寧に説明されました。解法そのものよりも、それに至る考え方を大切にされた講義がされました。式を立てたのちの計算については省略しているようです。

別解については基礎固め段階では余り示さないとのことでした。柱となる解法というものを出し示すため、あれやこれや言うとかえって定着しないというのが理由のようです。発展的な段階で別解を示すとのことでした。

非常に早口（文系の生徒を対象とする時はそれなりの速さですとのこと）で説明されましたがメリハリがあり、わかりやすい授業でした。指の間に3色のチョークを常に挟み、脇に指示棒のスタイルで、色チョークを探してウロウロするといったことはなく、解説中もまったく無駄な動きがありませんでした。さすが予備校という感じでした。

東北大の確率の問題では、おもいもよらない別解が示されて、なるほど、こういう手があるのかと感心しました。

河合塾広島校は広島駅近くにあり、周囲には代ゼミ、東進、鷗州塾などの予備校・塾が建ち並ぶ。我々が通りがかった時も、鷗州塾のビルから小学生が夏季講習を終えて出てきました。小学校時代からこういった環境の中で育った生徒とともに本校生徒も受験をしていきます。指導者である我々は、岡山県北だけの世界だけでなく、他地域の生徒の情報をしっかり収集し、受験ではどういった生徒と競うのかということをつかみ意識して指導していく必要もあると感じました。

数学には約50人の参加がありました。津山高校からも4名（数・英・化・国か物）参加しているとのことでした。他に白陵高校（英）なども参加しているようでした。

河合塾は現在、大学入試を意識した教員研修プログラムを開発中でその一環として今回の教科別研究会が開催されたのでした。今後も学力分析報告に加え実際の授業例を公開するという従来とは異なる新しい試みをしていくようです。（授業スキルや教材、カリキュラムの一部公開は予備校という一企業にとってはノウハウの流出というリスクを伴うが、授業やテキスト、模試の品質維持・向上のために敢えて挑戦していくとのことでした。）

英 語

受験学年における学力伸長の実態

現役生と浪人との学力さを全統マーク模試およびセンター試験で比較し、「ピュアな新課程生」の学力分析と学力伸長について分析した結果の報告。

- ・センター試験においては現卒差が顕著に現れているのは第3問・第4問・第6問。
- ・第3問に必要な力は構造・意味類推・文法と発話内容をまとめる力
- ・第4問は実用的能力と読解力に加え知識と経験の要素が要求される
- ・第6問は文章全体を大きな視点から見る力が求められると共に、普段の演習量が不足していると時間が足りなくなってしまう
- ・これらの特徴を意識した学習指導をすることで得点率アップへとつながる。特に英語においては、「語と語＝文法」「文と文＝論理」「段落と段落＝文脈」を把握する3つの能力が問われている。

200年度 全統記述模試の成績分析結果

- ・記述模試より3名の生徒をサンプルとしてその答案を分析し、文法力を問う問題にも文構造や文脈を把握する力が求められており、このような設問形式でも客観問題で記述力を問うことができる結論づけている。
- ・学習における留意点として「語彙力をつける」「指示代名詞の把握と文法の丁寧な学習」「文構造を把握する演習をする」「談話の標識に注意した学習」「論理展開を意識し、著者が強調する論点の読み取りを学習する」をあげている

授業例

- ・(1)文法・語法、(2)読解、(3)作文、(4)リスニング

質疑応答

- ・自由英作文の指導は、短い和文英訳をしっかり指導した後、オーソドックスな問題を5,6問解けばよい。

平成20年度 広島大学入試研究会（主催 河合塾）
報 告 書

参 加 者	山谷総一 佐藤康裕
会 場	河合塾広島校
日 時	平成20年 10月 28日（水）14:00～16:30
<p>50名程度の参加者</p> <p>・ 基調講演「来年度広島大学前期入試の留意点および平成22年度入試改革について」 広島大学入学センター 永田純一</p> <p>《22年度入試の変更点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後期日程廃止の募集単位 教育学部（第三類） 理学部（生物生産学科） 医学部（保健学科） 歯学部（口腔保健学科） 削減した後期の募集人員を前期・AOに振り替える。 ・ 22年度以降も、AO選抜を実施する。（センター試験を課すものがほとんど） <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院の進学者が増えている。（例：工学部＝7割が大学院へ） ・ 昨年度合格者のセンター得点の公開。（ホームページ上にて） <p>・ 教科別分科会</p> <p>化学</p> <p>前期入試の答案を使用したの説明 具体的にどの問題ができていないか、どのあたりにミスが多かがわかった</p> <p>出題傾向について 熱化学が毎年出題される 有機は芳香族と脂肪族が交互に出題される 化学の選択問題が20年度ではなくなったが、21年度は復活するかもしれない3年間で全分野を網羅しているようである</p> <p>化学の指導について 大半の学校が11月までかかり、セタ対策の時間がなかなかとれないようである</p> <p>小論文</p> <p>総合科学部の入試問題を用いての指導法の解説。指導のポイントとして以下のことを生徒に意識させることを大切にしておられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を書くのか自分でつかまえていること。 ・ 誰もが考えていることを自分なりの意識でつなげること。 ・ 内発的動機があること。 ・ 本人が作業をすることで、次のステップにつなげること。 <p>話が具体的で、イメージしやすかった。今後の指導に大いに役立つと思われる。</p>	

公開授業について

教務課・学力PT 桑元 秀明

勝山高校の教員の授業改善の取り組みとして毎年行っている授業公開週間であるが、今年度は3週間に期間を延ばし、教員間でより多くの授業見学ができるようにした。

6月と11月に2度実施したが、下に見学一覧を掲載しておく。忙しい中、2度の授業見学をし、相互評価表の提出をしてもらったが、82%の実施率であった。

平成20年度11月実施 授業公開 実施一覧				
平成20年11月10日(月) ~ 11月28日(金)				
教科	教員氏名	見学対象		
国語	A	牧野(英語)	牧野(リーディング)	
	B	坂手(英語)	内田(国語)	
	C	吉原(英語)	内田(現代文)	
	D	高木(英語)	内田(国語)	
	E	竹内(数)	吉原(英語理解)	
地歴・公民	F	椋代(地理)	森本(現代社会)	
	G	野島(ビジネス基礎)	中島(世界史A)	
	H	中島(世界史)	高森(古文)	
	I	高木(ライティング)	森本(現代社会)	
数学	J			
	K			
	L			
	M	内田(国語)		
	N	高木(ライティング)		
理科	O	片岡和(課研)		
	P			
	Q			
保健・体育	R	水嶋(美術)	梶原(体育理論)	
	S	中島(世界史)	梶原(体育)	
	T	水嶋(体育)	高木(英語)	
美術	U	水嶋(体育)	福永(書道)	
	V	吉原(英語)	矢吹(日本史)	水嶋(美術)
	W	中島(世界史B)	桑元(英語)	
家庭	X	黒瀬(現代文)	桑元(英語)	
英語	Y	高木(ライティング)	内田(現代文)	
	Z	梶原(体育)	高木(ライティング)	内田(現代文)
	AA	行本(古講)		
	BB	高木(英語)	内田(現代文)	
	CC	梶原(体育理論)		
商業	DD	赤岩(簿記)		
	EE	梶原(体育理論)	福田(数C)	
	FF	高木(ライティング)		
	GG	矢吹(日本史)	黒瀬(古典)	
	HH	高木(英語)	内田(現代文)	

授業を見学した教員は右のような「公開授業相互評価表」を教務に提出し、その後、この「公開授業相互評価表」は被見学教員に渡される。

以前はなかなか教員同士で授業を見学し合うというのはなかったことだが、特に若い教員にはそれほどの抵抗感はないようである。

授業改善の最も安価な方法であるこの教員相互の授業の見学はこれからももっと活発になっていくものと思われる。実際、今年度 ICT 活用を呼びかけていき、2年普通教室4

教室にプロジェクタを天吊りで設置し、またその他、可動式のプロジェクタも6台いつでも使える状態にしており、教員の使用頻度も前年までと比べて飛躍的に伸びた。その結果、まだまだ慣れないプロジェクタを利用した授業展開について、教科の枠を超えて他の教員の使用方法を見学したり、職員室であだこうだと話し合ったりと、あらたな授業についての雑談がよく聞かれるようになった。これからも、この取り組みを続けて行きたい。

公開授業 あれこれ

平成20年度 アクティブハイスクール支援事業での研究授業

2年生「現代文」 内田教諭 (ICT活用とコーチングの手法活用) H20.11.26 実施

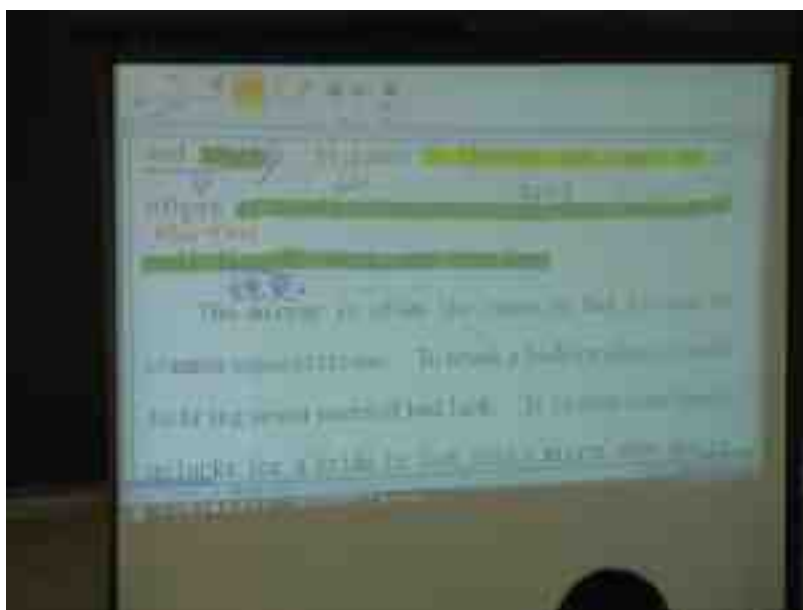
- ・ICTを活用し、前の時間の復習、全体への説明・指示もスムーズにできる。
- ・またグループ学習を取り入れ、3人のグループで討議・検討させることにより考えを深めていくという試みがなされた。





・ ICT 機器を上手に取り込み、いままで説明しにくかった英語長文の構成や前後関係を、本文を全員が見ながら説明していく。タブレット PC の無線 LAN 機能を使い、吉原教諭は机間巡視をしながら「板書」という画期的な授業形態。これからの一つの授業スタイルの提案であろう。

・ (写真右) 見えにくいかもしれないが、スクリーンには英語の長文が映し出されており、行間には赤、青、黒での書き込みがしてある。またいくつかの文章には、黄色、緑色のラインマーカーで強調してあり、非常に色とりどりである。なんととってもこれだけの英文を一度に提示できることに対して、英語教師ならば羨望を感じるのではないであろうか。



・ 吉原教諭は以前より ICT 機器 (コンピュータとプロジェクタ) を利用した授業を展開してきた。(写真左) プロジェクタとコンピュータと CD カセットを持って授業に向かう吉原教諭 来年度からは普通教室に全室プロジェクタが設置されると少しは負担が軽減するだろう。



「生徒による授業評価」（7月 12月年2回実施）について
質問内容

教務課

あなた自身について	1 予習・復習をしていますか。 2 授業を真剣に受けていますか。 3 課題にきちんと取り組んでいますか。
授業展開について	4 板書や説明はわかりやすいですか。 5 工夫や熱意を感じますか。 6 質問には丁寧に答えてくれますか。 7 授業内容は理解できますか。 8 興味・関心が高まりますか。 9 授業の進度は適当ですか。 0 課題の量は適当ですか。

生徒による授業評価 第2回集計(12月実施) 職員会議資料

第1学年

			質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8		質問9	質問0
			予習・復習	真剣	課題	板書・説明	工夫・熱意	質問丁寧	内容理解	興味・関心		授業進度	課題量
1年普通科	国語	よい, だいたいよい	61.3%	94.4%	72.5%	73.9%	84.1%	84.9%	65.3%	62.9%	速い, 多い	38.9%	41.0%
		よくない, あまりよくない	38.7%	5.6%	27.5%	26.1%	15.9%	15.1%	34.7%	37.1%	遅い, 少ない	58.8%	58.2%
	数学	よい, だいたいよい	55.7%	80.7%	70.4%	64.9%	75.2%	84.4%	51.3%	55.9%	速い, 多い	26.9%	25.8%
		よくない, あまりよくない	44.3%	19.3%	29.6%	38.1%	24.8%	15.6%	48.7%	44.1%	遅い, 少ない	68.8%	72.9%
英語	よい, だいたいよい	74.8%	91.6%	86.8%	79.4%	82.9%	85.3%	71.7%	76.1%	速い, 多い	29.4%	31.5%	
	よくない, あまりよくない	25.2%	8.4%	13.4%	20.6%	17.2%	14.7%	28.3%	23.9%	遅い, 少ない	70.2%	68.4%	

授業を真剣に受けている様子が見える。
数学の内容理解度がやや低いのが気になるところである。

1年商業科	国語	よい, だいたいよい	27.5%	95.0%	57.6%	89.7%	74.4%	67.5%	64.1%	55.4%	速い, 多い	22.5%	50.9%
		よくない, あまりよくない	72.5%	5.0%	42.5%	33.3%	25.6%	32.5%	35.9%	43.6%	遅い, 少ない	75.5%	50.0%
	数学	よい, だいたいよい	38.5%	82.4%	55.4%	37.5%	50.3%	65.0%	46.2%	38.5%	速い, 多い	7.7%	20.0%
		よくない, あまりよくない	61.5%	37.5%	45.0%	62.5%	50.0%	35.0%	53.8%	61.5%	遅い, 少ない	64.3%	70.0%
	英語	よい, だいたいよい	56.3%	87.4%	82.6%	73.3%	72.5%	78.5%	67.5%	62.4%	速い, 多い	23.8%	18.8%
		よくない, あまりよくない	43.8%	12.5%	37.5%	28.8%	27.5%	21.5%	32.5%	37.5%	遅い, 少ない	76.2%	77.5%
商業	よい, だいたいよい	64.2%	80.3%	78.0%	77.5%	75.0%	84.2%	75.8%	68.3%	速い, 多い	24.7%	35.0%	
	よくない, あまりよくない	35.8%	9.2%	25.0%	22.5%	25.0%	15.8%	24.2%	31.7%	遅い, 少ない	75.3%	62.5%	

高校の授業進度にも慣れてきたようである。
商業科目への興味関心が高い。

第2学年

			質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8		質問9	質問0
			予習・復習	真剣	課題	板書・説明	工夫・熱意	質問丁寧	内容理解	興味・関心		授業進度	課題量
2年理系	国語	よい, だいたいよい	58.0%	86.4%	69.3%	85.2%	95.4%	98.6%	84.1%	71.8%	速い, 多い	30.7%	23.9%
		よくない, あまりよくない	42.0%	13.6%	30.7%	6.8%	4.5%	3.4%	15.9%	28.4%	遅い, 少ない	66.9%	75.0%
	数学	よい, だいたいよい	88.6%	97.0%	70.9%	83.8%	91.9%	97.9%	82.6%	81.4%	速い, 多い	32.6%	23.3%
		よくない, あまりよくない	31.4%	7.0%	29.1%	16.5%	8.1%	8.1%	17.4%	18.6%	遅い, 少ない	66.4%	74.4%
	英語	よい, だいたいよい	82.5%	88.6%	72.8%	79.1%	84.4%	80.8%	76.1%	65.1%	速い, 多い	22.7%	26.1%
		よくない, あまりよくない	37.5%	11.4%	27.5%	20.9%	11.6%	9.2%	23.9%	34.9%	遅い, 少ない	77.3%	70.5%
社会	よい, だいたいよい	28.2%	83.7%	73.2%	88.4%	97.7%	96.3%	88.4%	86.0%	速い, 多い	20.9%	7.1%	
	よくない, あまりよくない	71.8%	16.3%	26.8%	11.6%	2.3%	4.7%	11.6%	14.0%	遅い, 少ない	76.7%	81.0%	
理科	よい, だいたいよい	49.3%	82.7%	85.4%	88.5%	88.1%	86.2%	72.7%	79.0%	速い, 多い	24.6%	14.6%	
	よくない, あまりよくない	50.7%	17.3%	34.9%	13.5%	11.9%	14.8%	27.3%	21.0%	遅い, 少ない	70.8%	78.3%	

理系科目および社会への興味・関心が高い。
授業に対する工夫・熱意を感じている生徒が多い。

2年文系	国語	よい, だいたいよい	87.0%	84.3%	89.5%	82.9%	98.4%	97.8%	86.5%	80.0%	速い, 多い	33.3%	11.7%
		よくない, あまりよくない	33.0%	5.7%	30.5%	7.1%	3.6%	2.2%	13.5%	20.0%	遅い, 少ない	66.7%	88.3%
	数学	よい, だいたいよい	66.7%	84.3%	74.9%	87.1%	90.7%	95.8%	75.6%	71.3%	速い, 多い	23.8%	28.1%
		よくない, あまりよくない	33.3%	5.7%	25.1%	12.9%	9.3%	4.4%	24.4%	28.7%	遅い, 少ない	76.2%	71.9%
	英語	よい, だいたいよい	85.4%	85.6%	78.3%	78.4%	89.9%	92.3%	76.4%	75.7%	速い, 多い	27.5%	17.8%
		よくない, あまりよくない	34.8%	14.4%	21.7%	26.6%	9.1%	7.7%	23.6%	24.3%	遅い, 少ない	73.0%	82.2%
社会	よい, だいたいよい	47.6%	82.2%	84.9%	88.3%	87.3%	93.6%	85.6%	78.4%	速い, 多い	23.6%	7.8%	
	よくない, あまりよくない	52.4%	17.8%	10.1%	10.7%	12.7%	6.4%	14.4%	21.6%	遅い, 少ない	76.4%	89.8%	
理科	よい, だいたいよい	42.0%	80.9%	75.4%	65.7%	88.0%	92.6%	70.8%	71.4%	速い, 多い	23.2%	34.8%	
	よくない, あまりよくない	58.0%	20.0%	24.6%	34.3%	10.0%	7.2%	30.0%	28.6%	遅い, 少ない	76.8%	65.2%	

質問への対応に満足している生徒が多い。

2年商業科	国語	よい, だいたいよい	30.7%	74.2%	62.8%	66.3%	76.4%	72.9%	66.4%	53.7%	速い, 多い	31.5%	23.7%
		よくない, あまりよくない	69.3%	21.8%	37.2%	33.8%	23.4%	27.1%	33.6%	46.3%	遅い, 少ない	68.5%	76.3%
	数学	よい, だいたいよい	22.5%	72.5%	64.5%	67.6%	85.0%	82.6%	46.2%	35.0%	速い, 多い	27.5%	17.5%
		よくない, あまりよくない	77.5%	27.5%	37.5%	42.5%	35.0%	37.5%	53.8%	65.0%	遅い, 少ない	72.5%	82.5%
	英語	よい, だいたいよい	36.9%	78.3%	71.9%	78.0%	88.7%	74.6%	71.2%	69.2%	速い, 多い	35.0%	19.1%
		よくない, あまりよくない	63.1%	21.2%	28.1%	22.0%	19.3%	25.4%	28.8%	30.8%	遅い, 少ない	65.0%	80.9%
商業	よい, だいたいよい	41.9%	89.1%	69.8%	73.8%	73.3%	78.1%	70.6%	58.8%	速い, 多い	33.8%	27.5%	
	よくない, あまりよくない	58.1%	16.9%	30.2%	26.4%	26.3%	23.9%	29.4%	41.4%	遅い, 少ない	66.2%	72.5%	

数学を苦手にしてしている生徒が多い。
商業科目への興味・関心が1年生と比較して低い。

第3学年

		質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8		質問9	質問10	
		予習・復習	真剣	課題	板書・説明	工夫・熱意	質問丁寧	内容理解	興味・関心		授業進度	課題量	
3年理系	国語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	43.6% 58.4%	74.5% 43.0%	57.0% 39.7%	80.3% 29.5%	70.3% 25.6%	74.4% 34.6%	65.4% 49.0%	速い, 多い 遅い, 少ない	34.4% 6.4%	51.1% 0.0%	59.2% 48.9%
	数学	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	86.2% 3.8%	88.8% 0.0%	75.6% 24.4%	86.2% 3.8%	94.3% 5.1%	97.4% 2.6%	94.9% 5.1%	速い, 多い 遅い, 少ない	11.5% 0.0%	88.9% 0.0%	92.3% 7.7%
	英語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	75.9% 24.1%	86.2% 3.8%	73.1% 26.9%	88.5% 11.5%	88.5% 11.5%	91.0% 9.0%	84.8% 15.4%	速い, 多い 遅い, 少ない	12.8% 0.0%	87.2% 0.0%	87.2% 12.8%
	社会	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	65.8% 74.4%	87.2% 13.6%	89.5% 31.7%	87.4% 4.5%	97.4% 2.3%	88.8% 0.0%	92.3% 0.0%	速い, 多い 遅い, 少ない	10.3% 0.0%	89.7% 0.0%	89.5% 10.5%
	理科	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	73.3% 26.7%	87.9% 12.1%	74.9% 24.1%	80.7% 19.3%	85.4% 14.4%	85.6% 14.4%	81.2% 18.8%	速い, 多い 遅い, 少ない	16.3% 0.0%	80.3% 0.0%	89.7% 19.3%

2年理系と同様に、理系科目と社会への興味・関心が高い。
国語の予習・復習、課題への取り組み状況があまり良くない。

3年文系	国語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	47.5% 52.6%	84.6% 15.4%	59.0% 41.0%	68.2% 31.8%	74.0% 26.0%	77.2% 22.8%	40.2% 59.8%	速い, 多い 遅い, 少ない	32.7% 4.1%	46.2% 0.0%
	数学	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	78.5% 21.5%	89.2% 10.8%	82.7% 37.3%	88.8% 13.2%	87.8% 12.4%	86.0% 14.0%	80.8% 39.2%	速い, 多い 遅い, 少ない	17.7% 0.8%	16.9% 0.8%
	英語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	80.0% 20.0%	94.1% 5.9%	79.4% 29.9%	88.2% 11.8%	91.1% 8.9%	91.1% 8.9%	82.2% 17.8%	速い, 多い 遅い, 少ない	5.2% 2.2%	12.7% 0.0%
	社会	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	47.7% 82.9%	78.5% 21.5%	58.5% 41.5%	73.8% 28.1%	76.3% 23.7%	76.9% 21.1%	76.9% 29.1%	速い, 多い 遅い, 少ない	9.4% 17.2%	8.5% 5.5%
	理科	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	46.2% 83.8%	87.7% 32.3%	47.7% 52.3%	88.7% 33.3%	86.5% 41.5%	87.7% 32.3%	43.8% 56.3%	速い, 多い 遅い, 少ない	45.3% 1.6%	6.3% 0.0%

国語・社会・理科の予習・復習への取り組み状況があまり良くない。

3年商業科	国語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	48.5% 51.5%	77.1% 22.9%	78.8% 21.2%	88.9% 34.0%	76.3% 24.1%	81.3% 18.7%	88.6% 31.4%	速い, 多い 遅い, 少ない	34.1% 0.0%	24.1% 0.0%
	数学	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	70.0% 29.4%	95.0% 2.9%	92.6% 20.6%	95.6% 5.9%	97.5% 5.9%	95.0% 2.9%	97.5% 14.7%	速い, 多い 遅い, 少ない	32.5% 0.0%	20.0% 0.0%
	英語	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	74.6% 28.6%	88.8% 11.2%	87.7% 12.3%	91.3% 8.7%	91.2% 8.8%	90.1% 9.9%	88.8% 11.2%	速い, 多い 遅い, 少ない	21.2% 0.0%	12.5% 0.0%
	商業	よい, だいたいよい よくない, あまりよくない	52.8% 47.2%	78.3% 21.7%	80.6% 19.2%	78.4% 21.6%	78.7% 21.3%	77.1% 22.9%	74.1% 25.9%	速い, 多い 遅い, 少ない	24.5% 0.0%	18.1% 0.5%

英語への興味・関心が非常に高い。
商業科目への興味・関心の高さは全学年を通してトップである。

全体を通しての分析・まとめ

学年・学科・文理を問わず、授業に真剣に取り組んでいることは、大変良いことである。
授業評価は、生徒側にも教員側にも、それまでの授業を振り返る良い機会となっている。

今年度から全てのデータを全教員に公開した。教頭席の前に冊子が置いてある。あまり見ているようではないが、見ようと思えばいつでも見える状況である。生徒は無記名で答えるようになっている。
生徒からのレスポンスはなかなか教師には伝わってこない。このようなアンケートは生徒の本音がかいま見えてなかなかおもしろい。教師側もこれを授業改善に役立てて欲しい。

平成20年度 学校自己評価アンケート結果(割合表示)

「そう思う」が40%を超えている項目(強み)

否定的な意見が25%を超える項目(弱み)

評価点	教職員																		
	3.1	2.9	3.6	3.6	3.2	3.3	3.2	3.5	3	2.6	3	3.5	3.5	3.3	3	3.3	3.2	3.5	
そう思う	24%	24%	58%	61%	29%	34%	29%	47%	26%	16%	24%	50%	55%	45%	24%	29%	29%	45%	
どちらかといえばそう思う	53%	32%	34%	29%	50%	37%	55%	42%	47%	42%	50%	39%	37%	39%	47%	50%	47%	39%	
どちらかといえばそう思わない	13%	34%	0%	3%	11%	13%	3%	3%	13%	26%	18%	5%	5%	11%	21%	5%	8%	0%	
そう思わない	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	5%	13%	3%	0%	0%	3%	3%	0%	3%	0%	
空欄	11%	11%	8%	8%	11%	16%	11%	8%	8%	3%	5%	5%	3%	3%	5%	16%	13%	16%	
生徒	勝山高校で学ぶことに満足している。 学校の課題や宿題は、量や質が適切で家庭学習がしやすい。 わかりやすい授業が多い。 土曜日学習や学校セミナー等が充実している。 学校からの進路資料や説明は分かりやすく役に立つ。 進路希望の実現や資格取得を目指すための学習内容や補習などは充実しており満足している。 外国や日本の文化・伝統についての学習の機会が多い。 清掃、服装、挨拶やマナーなどの基本的な生活態度の指導が充実している。 いろいろな悩み事を先生に相談しやすい。 学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動や部活動等生徒が主体的に活動する機会が充実している。 朝読書や校内ギャラリーによって落ち着いて勉強する雰囲気が出てきている。 ボランティア活動、地域へ出向いての学習活動や地域の人々による講演会など、地域交流活動を行う機会が多い。 災害や事故、不審者などの危機が発生したとき、自分ができるべき行動がわかっている。 先生は個人情報について配慮している。 「勝高だより」や各種通信の内容が充実しており学校全体の様子や今後の予定がよくわかる。																		
	評価点	3.4	2.8	2.9	3.2	3.1	3	2.7	2.9	2.5	3.2	3	3.1	3	3.2	3.2	3.2	3.2	
	そう思う	53%	17%	18%	36%	25%	22%	19%	21%	8%	40%	22%	28%	24%	31%	37%			
	どちらかといえばそう思う	39%	52%	57%	53%	56%	55%	39%	53%	40%	47%	56%	55%	50%	54%	52%			
	どちらかといえばそう思わない	8%	28%	22%	10%	17%	22%	38%	23%	46%	11%	20%	16%	24%	14%	10%			
そう思わない	1%	3%	2%	1%	1%	2%	4%	4%	6%	2%	2%	2%	1%	1%	1%				
保護者	子どもを勝山高校で学ばせることに満足感を持っている。 勝山高校は生徒の学力を伸ばすように努力している。 勝山高校の授業については信頼しており安心して任せることができる。 勝山高校は土曜日学習が充実している。 今後の土曜日学習を現在より充実してほしい。 進路について、勝山高校からの資料や説明は分かりやすく役に立つ。 進路希望の実現や資格取得のため、勝山高校では学習指導や補習などが充実している。 勝山高校では外国や日本の文化・伝統について学習することができる。 勝山高校は清掃、服装、挨拶やマナーなどの基本的な生活態度を守る指導が充実している。 子どもの悩み事について学校に相談しやすい。 勝山高校では、学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動や部活動等生徒が主体的に活動する機会が充実している。 勝山高校は、朝読書や校内ギャラリー等生徒が落ち着いて学習に取り組めるような環境整備に力を入れている。 勝山高校は、ボランティア活動、地域へ出向いての学習活動や地域の人々による講演会など、地域交流活動を行う機会が多い。 勝山高校は、生徒に対して、災害や事故、不審者などの危機が発生したときの指導ができていく。 勝山高校は個人情報について配慮している。 「勝高だより」などの各種通信、勝高ホームページや保護者進路説明会、地区別懇談会などを通して、学校の様子や今後の予定がよくわかる。 学校徴収金等の会計は適正な執行が行われ、説明がわかりやすい。																		
	評価点	3.7	3.6	3.4	3.2	3.2	3.2	3.3	3	3.1	2.8	3.4	3.3	3.3	2.9	3.3	3.4	3.4	
	そう思う	70%	61%	44%	34%	40%	28%	34%	22%	28%	14%	47%	30%	34%	14%	34%	43%	41%	
	どちらかといえばそう思う	25%	34%	49%	49%	40%	57%	51%	54%	52%	51%	46%	60%	53%	55%	55%	52%	47%	
	どちらかといえばそう思わない	2%	3%	5%	12%	14%	10%	7%	16%	14%	25%	3%	3%	7%	18%	4%	3%	6%	
そう思わない	1%	1%	1%	3%	2%	1%	1%	1%	3%	4%	1%	1%	1%	1%	0%	1%	0%		
空欄	2%	0%	1%	1%	4%	4%	7%	7%	3%	6%	2%	6%	5%	13%	6%	2%	5%		

平成20年度学校自己評価の質問事項と評価点と分析 岡山県立勝山高等学校教務課

教職員 H17 H18 H19 H20		評価点について			
1	学校経営目標に対する各分掌評価及び共有化，行事・活動・検討会等の見直しにより，学校及び各分掌の活性化が図れた。 項目なし 2.8 <u>3.0</u> <u>3.1</u>	<p>評価点とは各質問に対して，そう思う：4点，どちらかといえばそう思う：3点，どちらかといえばそう思わない：2点，そう思わない：1点とした平均。</p> <p>2.5が「どちらでもない」，3.0以上はかなり肯定的な評価， 3.5以上は非常に高い評価（半数以上が「そう思う」と回答）</p> <p>□ 3.5以上（評価：高） 〰 2.5を下回る（評価：低）</p> <p>==== 前年度から上昇 〰 前年度から下降</p> <p>保護者回答数 平成18年度 199名 平成19年 208名 平成20年 229名</p>			
2	教職員評価システムの一環としての自己目標シートや面談により学校活性化・教職員の意識向上が図れた。 項目なし 2.6 <u>2.8</u> <u>2.9</u>	生徒 H17 H18 H19 H20	保護者 H17 H18 H19 H20		
3	生徒や保護者の満足度を高めるような指導内容と方法について工夫をしている。 3.3 <u>3.4</u> 3.4 <u>3.6</u>	勝山高校で学ぶことに満足している。	子どもを勝山高校で学ばせることに満足感を持っている。		
		2.9 <u>3.0</u> <u>3.3</u> <u>3.4</u>	質問内容変更 <u>3.7</u> <u>3.8</u> <u>3.7</u>		
<p>アクティブハイスクール支援事業での「コーチング研修」等、教員の意識が高まった結果であろう。この項目では教職員の取り組みや努力が生徒・保護者に伝わっていることが如実に表れている。特に生徒の満足度の上昇は特筆すべきであろう。生徒が挨拶をよくするようになったことなどに関連があるのではないか。学校に対する満足度 学校に対する誇りと考えれば、非常に良くなっていると言える。保護者の満足感が非常に高く、これを維持していく（より高めていく）努力をしなければならぬ。</p>					
4	生徒の実態を踏まえて，学習指導の徹底や工夫をしている。 3.4 <u>3.6</u> <u>3.5</u> <u>3.6</u>	学校の課題や宿題は，量や質が適切で家庭学習がしやすい。 2.5 <u>2.6</u> <u>2.7</u> <u>2.8</u>	勝山高校は生徒の学力を伸ばすように努力している。 質問内容変更 <u>3.6</u> <u>3.6</u> <u>3.6</u>		
5	研修・公開授業・授業評価・他校訪問等により，教職員の授業改善・意識向上が図れた。 項目なし 2.8 <u>3.2</u> 3.2	わかりやすい授業が多い。 2.6 2.6 <u>2.8</u> <u>2.9</u>	勝山高校の授業については信頼しており安心して任せることができる。 (各教科についての意見を自由記述) 質問内容変更 3.4 3.4 3.4		
<p>「学力向上フロンティアハイスクール」「学力向上拠点形成事業」「アクティブハイスクール支援事業」で一貫した「学力向上」に対する学校全体での取り組みが教員の意識を高めたことは間違いない。授業改善の取り組み学校を挙げて行った結果、教職員の意識が向上し、それが生徒の評価になってあらわれた。「アクティブハイスクール支援事業」で取り組んだ様々なことが反映されている。「わかりやすい授業が多い」の生徒評価がこの2年間で0.3も上がっている。3.0を目指してこれからも努力しなければならない。平成19年に飛躍的に教員の評価が上がったのは、「アクティブ」等の取り組みで他校訪問等を盛んに行った結果であろう。公開授業も本年度83%の達成率であり、また生徒による授業評価も本年度全てのデータを公表し、意識を高めた。しかし、基本的には各先生方がまじめにこつこつと学力向上のために取り組む姿勢をお互いに評価しあい、時には教わったり、まねしたりする雰囲気があることがよいのであろう。このことが生徒の「わかりやすい授業が多い」という評価が年々上がっていることに反映されている。</p>					
6	土曜日学習や各（春・夏季，学校）セミナーの充実と参加率の向上に努めている。 3.0 <u>3.2</u> 3.2 <u>3.3</u>	土曜日学習や学校セミナー等が充実している。 項目なし 3.0 <u>3.1</u> <u>3.2</u>	勝山高校は土曜日学習が充実している。 質問内容変更 3.1 3.2 3.2 今後の土曜日学習を現在より充実してほしい。 質問内容変更 3.1 3.2 3.2		
<p>特に土曜日学習の講義の充実が図れたのではないが、重点日を設け、ほとんど講義で埋まっている。生徒も土曜日に学校に出てくるのが当たり前のような感覚になってきている。</p>					
7	生徒一人一人の主体的な進路選択のための支援が充実している。 3.3 <u>3.2</u> 3.2 3.2	学校からの進路資料や説明は分かりやすく役に立つ。 2.8 <u>2.9</u> 2.9 <u>3.1</u>	進路について，勝山高校からの資料や説明は分かりやすく役に立つ。 質問内容変更 2.9 <u>3.2</u> 3.2		
<p>進路指導課の努力で生徒・保護者からの評価が高まっている。</p>					
8	進路希望の実現や資格取得に必要な学習指導や効果的な補習等が充実している。 3.3 3.3 3.3 <u>3.5</u>	進路希望の実現や資格取得を目指しての学習内容や補習などは充実しており満足している。 2.7 <u>2.8</u> 2.8 <u>3.0</u>	進路希望の実現や資格取得のため，勝山高校では学習指導や補習などが充実している。 2.8 <u>3.2</u> 3.2 <u>3.3</u>		
<p>この項目で教員の自己評価と生徒・保護者の評価がシンクロナイズしているのは、教員の努力がそのまま生徒・保護者に伝わっている良い例であろう。</p>					
9	外国や日本の文化・伝統を学ばせるための特別活動や特別講座等が充実している。 2.5 <u>2.4</u> <u>2.6</u> <u>3.0</u>	外国や日本の文化・伝統についての学習の機会が多い。 2.5 2.5 <u>2.7</u> 2.7	勝山高校では外国や日本の文化・伝統について学習することができる。 2.3 <u>2.9</u> <u>3.1</u> <u>3.0</u>		

学校側では、いろいろな特別活動等を準備し、実行していることが生徒・保護者にも伝わり始めている。			
10	<p>基本的な生活習慣・態度の習得とルールや時間を厳守させる指導が充実している。</p> <p>2.7 <u>2.6</u> <u>2.7</u> <u>2.6</u></p>	<p>清掃，服装，挨拶やマナーなどの基本的な生活態度の指導が充実している。</p> <p>3.1 <u>2.9</u> <u>2.8</u> <u>2.9</u></p>	<p>勝山高校は清掃，服装，挨拶やマナーなどの基本的な生活態度を守る指導が充実している。</p> <p>3.2 <u>3.0</u> 3.0 <u>3.1</u></p>
評価が4年前よりも下がっている唯一の項目である。本校のかかえる課題の一つである。			
11	<p>生徒指導においては，カウンセリングマインドを基にし，生徒一人一人の課題の把握に努め組織的な指導が行われている。</p> <p>2.9 <u>2.7</u> <u>2.9</u> <u>3.0</u></p>	<p>いろいろな悩み事を先生に相談しやすい。</p> <p><u>2.3</u> <u>2.2</u> <u>2.3</u> <u>2.5</u></p>	<p>子どもの悩み事について学校に相談しやすい。</p> <p>2.5 <u>2.8</u> 2.8 2.8</p>
生徒の評価が0.2ポイントも上がっており、教員側の努力(雰囲気作り等)が反映されてきたようである。			
12	<p>学校行事や各種の活動において，生徒が主体的に活動する機会が充実している。</p> <p>3.3 3.3 <u>3.5</u> <u>3.5</u></p>	<p>学校行事，生徒会活動・ホームルーム活動や部活動等生徒が主体的に活動する機会が充実している。</p> <p>3.0 <u>3.1</u> 3.1 <u>3.2</u></p>	<p>勝山高校では，学校行事，生徒会活動・ホームルーム活動や部活動等生徒が主体的に活動する機会が充実している。</p> <p>3.3 <u>3.4</u> 3.4 3.4</p>
13	<p>朝読書や校内ギャラリー等の情緒の安定を図る行事や取組が充実している。</p> <p>3.3 <u>3.2</u> <u>3.4</u> <u>3.5</u></p>	<p>朝読書や校内ギャラリーによって落ち着いて勉強する雰囲気ができている。</p> <p>2.8 2.8 <u>2.9</u> <u>3.0</u></p>	<p>勝山高校は，朝読書や校内ギャラリー等生徒が落ち着いて学習に取り組めるような環境整備に力を入れている。</p> <p>質問内容変更 3.3 <u>3.4</u> <u>3.3</u></p>
全体的に落ち着いて勉強する雰囲気はできてきているようである。			
14	<p>家庭や地域社会，関係機関と連携し，生徒が地域の行事や活動へ参加するよう支援している。</p> <p>3.0 3.0 <u>3.1</u> <u>3.3</u></p>	<p>ボランティア活動，地域へ出向いての学習活動や地域の人々による講演会など，地域交流活動を行う機会が多い。</p> <p>2.5 <u>2.8</u> <u>3.1</u> 3.1</p>	<p>勝山高校は，ボランティア活動，地域へ出向いての学習活動や地域の人々による講演会など，地域交流活動を行う機会が多い。</p> <p>2.1 <u>3.0</u> <u>3.1</u> <u>3.3</u></p>
この項目も全体的に評価が上がっている。これも商業科や生徒会を中心に、校外に出て、いろいろな活動に参加している結果であろう。またその活動の広報にも努力し、新聞等マスコミに数多く露出したのも評価が上がった一因でもあろう。			
15	<p>災害や事故，不審者等に対する危機管理体制の充実に努めている。</p> <p>2.7 <u>2.8</u> <u>2.9</u> <u>3.0</u></p>	<p>災害や事故，不審者などの危機が発生したとき，自分がとるべき行動がわかっている。</p> <p>2.9 2.9 2.9 <u>3.0</u></p>	<p>勝山高校は，生徒に対して，災害や事故，不審者などの危機が発生したときの指導ができています。</p> <p>2.9 2.9 <u>3.0</u> <u>2.9</u></p>
教員研修が毎年されるようになり、教員の意識は上がってきた。			
16	<p>行政情報公開条例や個人情報保護条例への対応体制の充実に努めている。</p> <p>2.7 <u>3.1</u> <u>3.0</u> <u>3.3</u></p>	<p>先生は個人情報について配慮している。</p> <p>3.0 3.0 3.0 <u>3.2</u></p>	<p>勝山高校は個人情報について配慮している。</p> <p>3.1 <u>3.3</u> 3.3 3.3</p>
文部科学省、県からの通達・指導等で教員の意識は非常に上がってきた。			
17	<p>保護者・地域・中学校への積極的な情報提供と本校への意見・要望等を収集するシステムの充実に努めている。</p> <p>3.0 <u>3.1</u> <u>3.2</u> 3.2</p>	<p>「勝高だより」や各種通信の内容が充実しており学校全体の様子や今後の予定がよくわかる。</p> <p>3.0 <u>3.2</u> 3.2 3.2</p>	<p>「勝高だより」などの各種通信，勝高ホームページや保護者進路説明会，地区別懇談会などを通して，学校の様子や今後の予定がよくわかる。</p> <p>3.1 <u>3.2</u> <u>3.4</u> 3.4</p>
「勝高ホームページ」「勝高だより」の充実や学年・クラス等通信の充実が図られた。			
18	<p>学校徴収金等会計の適正な事務処理と執行及び説明責任の徹底が行われている。</p> <p>3.3 <u>3.5</u> <u>3.5</u> <u>3.5</u></p>		<p>学校徴収金等の会計は適正な執行が行われ，説明がわかりやすい。</p> <p>3.0 <u>3.3</u> <u>3.4</u> 3.4</p>

プロジェクター利用による授業改善について

学力向上拠点形成事業
プロジェクトチーム
教務課 桑元秀明

1 設置の経緯

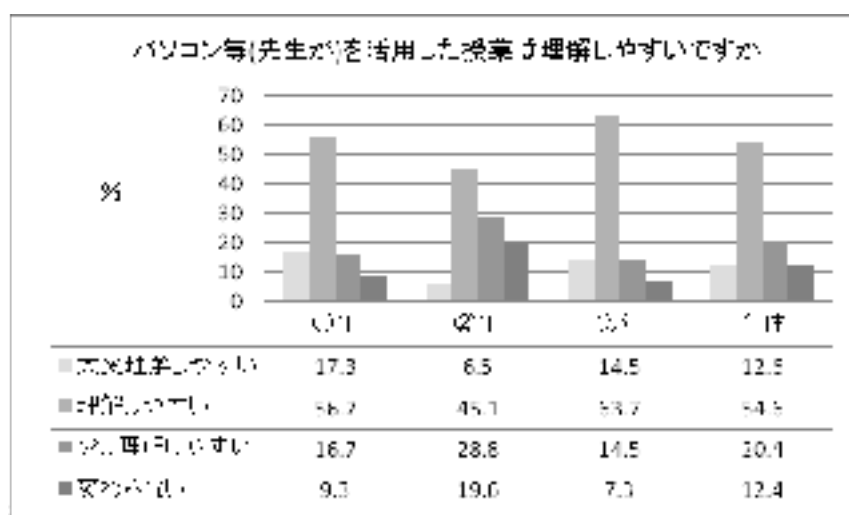
プロジェクターを利用した授業を展開している教員がいた。毎時間プロジェクターの入ったショルダーバッグを肩からさげ、パソコンを両手で持ち、また簡易式スクリーンを巻いた棒状のものを忍者の刀のごとく背負い、夏などは汗をかきかき教室へ向かう姿は、その熱心さを表していたが、本当に大変そうであった。本校では毎年1学期と2学期の期末考査最終日に「生徒による授業評価」を行っている。その中の質問項目「板書や説明はわかりやすいですか」と「工夫や熱意を感じますか」ではプロジェクターを利用している先生方は、生徒からの高い評価を受けている。またそのような先生の授業では「授業内容は理解できますか」という項目でも高い評価を受けている。

授業改善は教師にとって永遠の課題である。「百聞は一見に如かず」ということわざを借りるまでもなく、視覚に訴えることは生徒の印象にも残り、またなにより速い。私が教えている英語の教科書に Kakapo というニュージーランドの飛べない鳥の話があった。Kakapo についてはカラーの写真が掲載されていたが、文中にでてくるニュージーランドの国鳥 Kiwi については全く説明もない。Kiwi も飛べない鳥で鶏ほどの大きさなのであるが、プロジェクターで写真を3枚見せればすぐにわかる、と言うわけである。かかる時間はわずか3秒である。

授業改善の方法は数限りなくあるが、教務課がいくら口を酸っぱく言うよりも、ハード面を整備し、プロジェクターを手軽に使えるようになれば、その面から勝山高校の授業は変わるのではないか。昨年度末からそう思い、今年度初めに教務課、進路指導課、教育情報課の課長が集まり3つの課から「プロジェクター全 HR 教室設置」の予算請求をした。事務室からは、どの課と話をすればよいのかと聞かれ教務課が窓口となることにした。また事務室からは「どのくらいの頻度で使うのか、調査をして欲しい」との依頼があった。下に示す(アンケート1参照)アンケートを行い34名中28名(82%)の利用希望者がいることが判明した。校長からも是非やろうとの意見をもらった。このことから事務室もこの予算請求に前向きに考慮してくれたのだが、事務室からは「3学年全部の HR 教室は無理。1学年(4教室)ならば何とか設置できそうである」との回答を得た。学年主任・3課長会議で話し合い、本校が現在取り組んでいる「アクティブハイスクール支援事業」の中心学年である2年生の教室に設置することを決定した。設置工事は8月に行われ夏の後期補習から使用可能になった。

8月29日の職員会議で使用方法の説明をした。

事務室との話し合いで今年度中に他の2学年への設置も前向きに検討されている。あとは教員がどの程度利用するかが問題である。



授業改善の方策

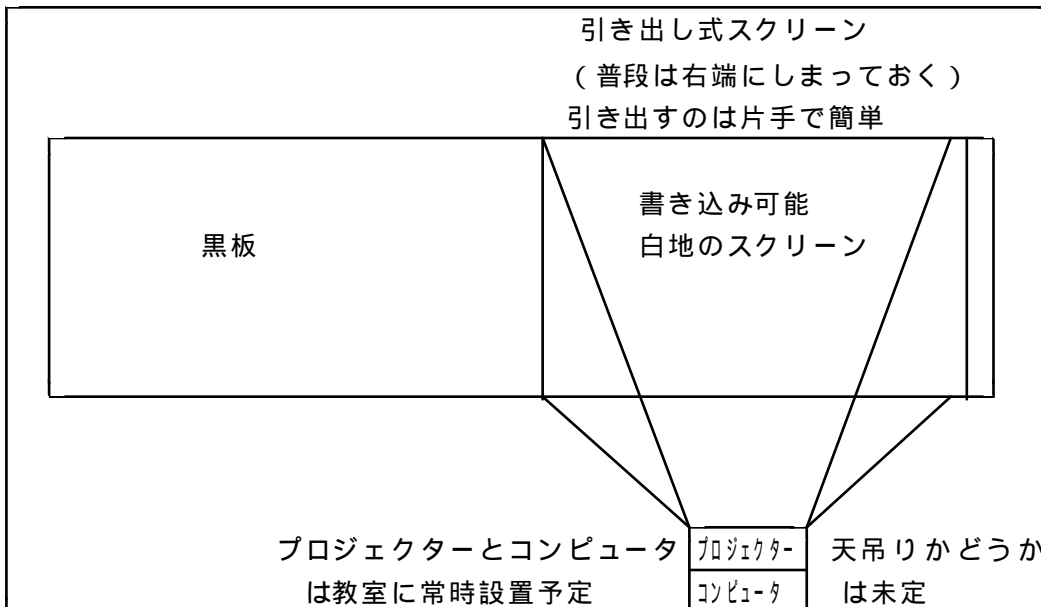
- ・生徒による授業評価（7月と12月に実施）
- ・授業公開（6月と11月に3週間）
- ・学校開放（11月第2週）外部評価
- ・保護者による評価（12月実施）
- ・他校訪問過去3年間 高校（津山・玉島・岡山一宮・林野・井原・岡山操山・倉敷古城池・鳥取県立倉吉東高校・香川県立志度高校・広島市立広島商業高校・広島県立広島商業高校・明誠学院・西大寺等） 中学校（岡山中学校・落合中学校） 小学校（月田小学校） 河合塾広島校等

アンケート1

プロジェクター・コンピュータ・黒板貼り付けスクリーン
授業での利用希望調査

教務課

授業変革を目指して各HR教室にプロジェクター（コンピュータ・黒板貼り付けスクリーン）を利用できるように計画しています。先生方はUSBメモリーを持って行き、簡単な準備だけでプロジェクタを使った視覚に訴える授業ができるようになります。



利用例・教科書の文章を取り込んでおき、黒板に映写し、下線や傍線を引き説明する。

- ・写真や動画などの画像を映し出し、視覚に訴える。
- ・インターネットと接続し、さまざまな情報を映し出す。
- ・動詞の活用表、周期表などを写しだし、利用する。
- ・総合学習でHR教室での発表会ができる。

など、利用方法は無限にあります。あなたのアイデア・工夫次第です。

(切らなくて結構です)

.....
アンケートにお答えください。

お名前 _____

教室設置のプロジェクター等を（ 利用したい ・ 利用しない ）。

該当する方を で囲んでください。

5月29日（木）締切 教務までご提出ください。

勝高独自の授業改善策とは？

WOT 分析 勝高の強み(STRENGTH)とは？

勝高には先進的・進歩的な先生が多い
新しいスキルを身につける能力有り

ハード面からの授業改善支援

- ・以前からプロジェクターとコンピュータを使った授業をする先生が複数名いた。
- ・プロジェクターとコンピュータをもって教室に行くのは大変。
- ・プロジェクターをコンピュータに接続したり、焦点距離を合わせたり、授業前に準備に時間が掛かりすぎる。

天づりで HR 教室に設置してしまおう！

HR 教室にプロジェクタ天井常設

平成 20 年 8 月 第 2 学年 HR 4 教室設置 (スクリーンも)
平成 20 年 11 月 プロジェクター 4 台購入予定
平成 21 年 3 月 第 3 学年 HR 4 教室設置工事予定
平成 21 年 3 月 予算の消化具合により 第 1 学年 4 教室設置予定

設置までのプロセス

4 月 事務と相談(予算請求) [校長の後押し]
使用希望アンケート調査 事務承認
8 月 プロジェクター購入と設置工事(予算執行)
9 月 使用開始

現在プロジェクター等 ICT 機器使用教員数 H.20.10.30 現在

(分母は各教科の教員数[非常勤講師を除く])

- ・国語(4/5)・数学(2/5)・英語(5/5)
- ・理科(2/3)・地歴公民(2/4)・芸術(1/3)
- ・保健体育(2/3)・家庭(1/1)・商業(5/5)

全体での ICT 機器使用教員数 24 名/34 名(分母は非常勤講師・養護教諭を除く)
71%の利用率

必要経費

4 台設置費用 約 90 万円
(プロジェクター 4 台本体 63 万 + 工事費)
スクリーン 4 枚 約 12 万円

その他モバイルプロジェクター 4 台(1 年、3 年教室で使用)

成果

- ・新しい機器を使う教員の輪が広がっていった。
- ・新たな教授方法を開発する教員の活力がアップした。
- ・教員同士で教え方などの話が増えた。

課題(方向性)

- ・校内で全教員対象の研修会を開き、使用方法の徹底をする。
- ・有効な利用方法や利用場面などの研究をする。
- ・細かな留意点など、今までも使っていた教員からの智慧や技を集約し、教員間で共有できるようにする。

プロジェクターのある教室情景



天井のプロジェクター



教室のコード



コンピューターにつなぐだけ



このように黒板にも映る



スクリーンもワンタッチ



きれいに映る



黒板モードで直接投影



新採用教諭 簿記の授業



ベテラン先生も利用



古文のノートを投影



英語の授業



漢文の授業



数学の立体をイメージさせるのに使用



漢文の白文がチョークで書いたように映る



平成20年度 アクティブハイスクール支援事業での研究授業 2年生「現代文」(ICT活用とコーチングの手法活用) H20.11.26 実施 ICTを活用し、前の時間の復習、全体への説明・指示もスムーズにできる

教育実習生によるガイダンスについて

学力向上拠点形成事業

プロジェクトチーム

寺元晋介

期 日： 平成20年6月9日(月) 7限 14:45~15:30

講演者： 教育実習生11名

対象： 1年生全クラス, 2年生普通科, 3年生全クラス(就職志望者除く)

内容： 学年に応じ下記の内容に沿ってお願いします。

1年生対象 充実した高校生活を送るためには

2年生対象 中心学年としての心構え, 進路決定へ向けて

3年生対象 進路決定へ向けて, 大学での勉強や生活, 大学生の就職活動

実施形態： 各教室に教育実習生が行って講演をしていただく。10分間×4講座

備考： 記録用紙を配布し, 講演のメモを取らせる。講演終了後, 感想を書かせる。



生徒感想：

4人の先生の話聞いて、高校時代は「あこがれ」が大事だとわかった。それが目標となり、がんばる
かがあると思えるようになるのがわかった。「成功の反対は失敗ではない。」それは印象的だった。今、
自分が興味あることをしっかり深めていきたいと思う。

年も近く話していること全てにリアルな重みがあった。自分の今やるべきことは、本当にたくさんある
んだなと思った。たぶん先生たちも高校時代にいろいろな苦勞をやるべきことをやることで乗り越えて
きたのだなと思った。自分もがんばりたい。

平成20年度「総合的な学習の時間」への取り組みについて

～職業別研究・分野別研究による1・2年合同発表会～

第2学年主任・学力PT 坂手祐子

(1) 本企画の目的

生徒1人1人に各自の将来を真剣に考させ、進路研究に対して、主体的に取り組む姿勢を身につけさせる。

グループで調査・研究することで協調性やコミュニケーション能力を養うとともに、研究結果をわかりやすくまとめて発表するプレゼンテーション能力を育成する。

(2) これまでの経緯

平成19年度より「総合的な学習の時間」を3年間を見通したキャリア教育の一環として位置づけ、学年末の2月に普通科1年・2年の合同発表会を開催している。平成15年度に「総合的な学習の時間」が導入され、数年間の間はその有効な使い方について試行錯誤が続いていたが、昨年より学年末にあるこの行事のおかげで総合学習の時間がとても充実してきたと言える。1年生は、クラスごとに「職業別研究」を深め、調べ学習と発表の基礎を身につけた。2年生は、学年全体を8つの分野に分け、より自分の進路に近い分野を各自で選び「分野別研究」を深め、さらに上級生として合同発表会の企画運営を担当した。

もともと本校には非常に素直で、真面目な生徒が多い。この企画は生徒の進路保障に役立つコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の育成を目的に始まったが、行事を通して、生徒たちが自主的に動き、考え、悩み、問題を解決していく姿が見えてきた。準備段階での指導は大変ではあるが、生徒たちが場数を踏むごとに逞しく、確実に成長していくのを実感する。また、3年生になるまでに点数だけではわからない、生徒の潜在的な能力を引き出すとても良い機会となっているのではないだろうか。AO入試や推薦入試の重要性が増す昨今、自分の考えをしっかりと持ち、発表できる能力を身につけた生徒の育成はますます重要になってくるであろう。

(3) 指導講評



本年度の指導講評は、東京大学の安藤理(あんどう さとる)先生にお願いした。発表会自体は全て生徒の企画運営に任せ、全ての発表が終了後、指導講評をしていただいた。さらに「勉強は小論文から始めよう！」のタイトルで生徒にわかりやすく講義していただいた。「小論文」というテーマは生徒にとってとても身近で、役に立つ内容であり、生徒たちにも大変好評であった。

(略歴) 東京大学法学部卒。東京大学社会科学研究所学術支援専門職員。教育社会学専攻。主著：『教育改革を評価する～犬山市教育委員会の挑戦～』岩波ブックレット

【2年生】

9月末に普通科生徒118名を集めて「総合学習」の目的と今後の日程を説明した。生徒は「環境・自然、情報・電子、人文、教育、国際、医療・福祉、社会・経済・法律、芸術・文化・生活」の8分野から自分の進路に関わっていたり、興味関心のあるものを各自の研究分野として選択した。この時点で将来の進路に関して漠然としていた生徒も、しっかり考えさせ、いずれかの分野に所属した。各分野ごとに指導教官についていただき、同じ分野の中でさらに少人数のグループに分かれ、各自の研究テーマを考えさせた。



冬休みの課題として各自の研究分野で関係する記事や情報を新聞、インターネット、書籍から集め「分野別研究ノート」に貼り付け、意見をまとめさせた。

集めた記事を小グループの中で発表し、さらにその中から1つをチームの研究テーマとして選び、最後の発表会を念頭にどんなことを調査、研究するかを話し合い、準備した。



インターネット(情報教室)、新聞および図書館などを利用して「研究テーマ」について調査研究し、パワーポイントを使ってまとめ、発表の準備練習をした。本年度2年団に設置したプロジェクターとスクリーンを大変有効に使うことができた。

各分野ごとに優秀なチームを選び、8分野の代表からさらに5チームの選抜代表を学年全体で選んだ。



選抜代表チームは本番にむけて、内容をさらに充実させるために何回も話し合い、発表練習をした。

代表以外の生徒の中からMCを募ると、ヤル気のある生徒たちが集まり発表会当日の運営について企画を練り、準備を重ねた。

残りの生徒たちは、さらに自分の進路について考えるために志望理由書の作成に取り組んだ。

この発表会の準備期間中、選抜代表チーム『医療』の生徒たちから、実際の医療現場で体験してみたいという希望がでた。その後、自分たちの力で体験できる医療機関を捜し、依頼し、体験することができた。まさに、生徒自身が考え、動く力を身につけた証だと思う。



選抜代表チームは、勝山文化センターを会場に普通科1・2年全員の前で発表した。生徒による楽しい司会進行のもと、和やかな雰囲気の中で盛り上がった。左は、今話題の「裁判員制度」をテーマに取り上げたグループである。法律分野の難しい内容をいかにわかりやすく伝えるかを一生懸命考えた。発表の仕方にも去年には見られなかった一工夫があり成長を感じることができた。



最優秀賞発表後のヒーローインタビューの様子

(4) 検証と課題

合同発表会に対する生徒たちの取り組みの姿勢は非常に良く、放課後も残って情報教室でインターネットやパワーポイントを使う姿が多く見られた。発表会終了後のアンケートを見ると、発表に取り組んだ生徒はもちろん聴衆として見学した生徒たちも今回の発表内容のレベルの高さと堂々とした態度に大変刺激を受けたようだった。

2年生では、自分の進路について深く考え進めることが目的であったが、自分の選んだ分野が今回の調査研究によって、結局憧れだけで自分の本当にやりたいことは別にあることに気づいた生徒もいた。そういう意味においても2年次までにこの体験をさせることは非常に意味があることだと思う。ただ、放課後の時間の使い方は部活動との両立が難しく、生徒たちの一生懸命な態度を支えるためにもこの企画のあり方と計画性についてさらに考察が必要である。

平成20年度「総合的な学習の時間」への取り組みについて

～ 職業別研究・分野別研究による1・2年普通科合同発表会～

第1学年主任・学力PT 教諭 黒瀬大亮

【1年生】

主たる取り組みは以下のとおり。

宿泊研修時、卒業生で現役の大学3年生に講演してもらった。1時間ほどの時間だったが、高校での過ごし方、大学とは、今の自分の考え等1年生にとって、これから数年先を見通すことができる内容が充実した話であり、入学早々の時期での良い意識付けとなったようだ。講師役である卒業生と、その指導教官の積極的な支援があって今までになく良い講話となった。担当者をお願いするのは例年苦勞しているが、是非引き続き続けていきたいものである。

冊子を使い職業調べを行った。まずは一人で調べ、それを3,4人の班内で発表し合い、優れていた者を班代表に決める。次にクラスを3ブロックに分け、班代表が発表し合い、ブロック代表を決める。最後にブロック代表が発表し合い、クラスの最優秀者を決める。この取り組みにより、職業を知り、かつ発表することを学ぶことができるようにした。国語総合の授業の中で、グループになり話し合いや発表を何度もしていることもあり、スムーズに取り組んでいる。

各クラス毎に興味関心がある職業ごとのグループを作って職業調査研究を行った。事前に自分の希望する職業をあげ、その志望を元に各クラスを8～9グループに分けた。グループリーダーを集め、現代社会で学ぶ調査研究の方法を、教員が改めて指導した。発表に注目しがちであるが調査研究に重点を置かせようとの狙いからである。2週間かけて調査研究を行いクラス発表を行った。

各クラスの発表テーマは以下のとおり。



1組

- ・感染症
- ・同時通訳機の開発と通訳士・翻訳家の消滅
- ・未来への教育
- ・経済
- ・町工場の今後
- ・公務員
- ・第三次産業
 キャビンアテンダント ホテルウーマン
- ・薬品

2組

- ・知られざる真実
- ・プライダルプランナーとは？
- ・子どもの発達
- ・裁判員制度って何？
- ・食
- ・銀行と経済
- ・自動車設計士
- ・美容師と理容師

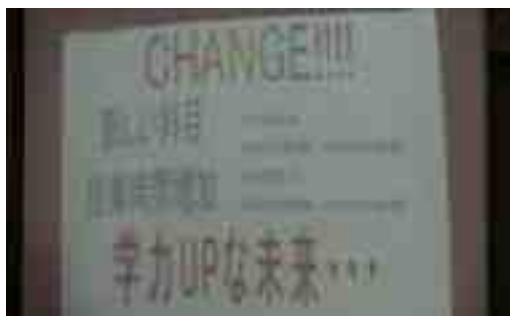
3組

- ・エネルギーについて
- ・自動車製造業の問題点とその解決策
- ・保育士の役割と課題
- ・人とデザインの関係
- ・日本の警察
- ・助産師の昔と今
- ・教育の現状
- ・日本の食料自給率



でのクラス発表で選ばれた各クラス代表と、商業科の発表を披露する学年発表を行った。同じ学年の仲間であるという意識づくりやそれぞれの科の特徴を相互理解する狙いである。この発表会の後の生徒の感想は以下の通り（一部抜粋）。

- ・自分の興味のある仕事以外でも良い点がたくさんあり、問題点も知ることができた。
- ・自分が思っていたり考えたりしていた以外にも、たくさんの職種があることが分かって視野が広がったと思います。
- ・どのようにしたら他の人に分かり易く伝わるかということがわかった。
- ・話し方一つで聞く側は変わるということを学んだ。
- ・職業を調べることで、今の日本の状況のことが分かったので、仕事（進路）選びにとっても慎重になると思う。
- ・自分の就きたい仕事についてもっと詳しく調べたいと思った。



普通科は1, 2年生合同発表会を、商業科は全学年学習発表会を、学外にある市の施設で行った。商業科では、2, 3年生の発表を見て、今後の自分の高校生活をはっきりとイメージできることをはじめとして、上級生の姿があるべきモデルとなる効果があった。普通科でも商業科と同様、2年生がモデルとなり、来年度の自分が到達する明確な目標としてイメージできたことが大きな収穫となった。生徒の感想は以下の通り（一部抜粋）。



- ・2年生の発表はすごいクオリティの差があったと思います。動きや喋りも自然でびっくりしました。パワーポイントの作り方もすごい分かりやすくして声も聞き取りやすくして、内容も難しい言葉がなくて、かみくだいて話してくれているのですごく良かったです。
- ・とても上手に発表できていたと思いました。大きな声で発表できていたし、内容も前に比べるとよく調べていると思いました。職業だけは聞いたことがあるけど、全然知らないようなことを調べていたし、パワーポイントもわかりやすかったです。インタビュー形式や、「3Y」という自分たちで考えたようなことも入っていてすごいと思いました。

- ・1年生に比べるとパワーポイントの字が大きくわかりやすかったですし、説明も上手だと思いました。2年生には私たちと同じように裁判员制度についてまとめていたグループがありました。私達が調べきれなかった所も調べていたし、実際の法廷の様子を再現するなど私達では思いつかないようなこともされていて本当にすごいと思いました。
- ・司会もプレゼンも発表もよく考えていて、笑えて楽しくてひきこまれた。さすがだと思った。楽しく学べた。



まとめ

「高校生になる」取り組み

宿泊研修で先輩の講話を聴いたり高校での学習方法の学んだり、高校卒業後への進路意識の涵養など、中学生から高校生になる取組をさらに一層進めていかなければならない。

交流

今回、国語総合や現代社会という科目の内容を一部取り込んだように、総合的な学習の成果をより高めるために他教科科目との交流がより進むと良いと考える。また、他学年との交流や普通科と商業科との交流によって生徒の感性や知識がより育まれるであろう。

繰り返し

年度の終わりに向けて大きな場が設けられていることは一つの目標となり、それへ向けての対策はしやすい。1学期から何度か繰り返し行えば、生徒の知識は、さらに深まり広がっていくはずであり、よりよい進路実現の一助となるであろう。

「総合的な学習の時間 分野別研究・職業調べ」 1・2年合同発表会 について

1・2年団

1 目的

キャリア教育の一環として、「総合的な学習の時間」の中で自分の進路に関わる職業・分野について調査研究し、その基本的な知識を蓄えるとともに、研究結果をまとめてわかりやすく発表する技能を身につける。

2 日時 2月20日(金) 5～7校時

3 場所 勝山文化センター ポンテホール

4 参加者 普通科 1・2年生全員

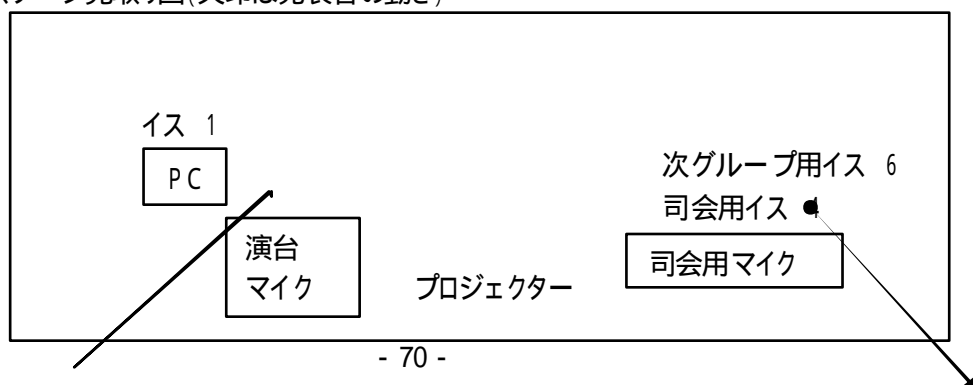
5 日程と内容

- 12:45 移動開始
- 13:00 移動完了・点呼
- 13:10 開会式あいさつ
- 13:15 発表 8グループ(各10分程度)
1年生3グループ、2年生5グループ、途中休憩を含む
- 14:45 指導講評、成績発表、表彰
安藤 理(あんど う さとる)先生
東京大学大学院 教育学科研究科
比較教育社会学コース事務室、博士課程
優秀賞2グループ、最優秀賞1グループに表彰
最優秀グループにインタビュー
- 15:15 閉会あいさつ
解散・移動
- 15:30 帰校後点呼、アンケート記入

6 その他

担任で会場集合時、帰校後の出欠確認をお願いします。
移動中事故がないよう、副担任・学年団でご配慮願います。
会場座席割りについては後日配布します。
可能ならば前日にリハーサルを会場で行います。

ステージ見取り図(矢印は発表者の動き)



総合的な学習の時間 職業・分野別研究 プレゼンコンテスト プログラム

日時：平成 21 年 2 月 20 日（金）13：05～

場所：勝山文化センター ポンテホール

日程：12：45 移動、会場にて点呼

13：10 開会式挨拶

13：15 発表開始 裏面にメンバー表があります

チーム名	発表テーマ	開始予定時刻
M & K	感染症	13：15
駄菓子屋	知られざる事実	13：25
3 Y	人とデザインの間わり	13：35
Team the Kinoshita	性格と人間関係	13：55
グループ 国III	グローバル時代を生きる	14：05
チーム ふたり	裁判員制度	14：15
リハビリーズ	the 身体回復	14：25
Poi-kzSO ₄	建物と風土	14：35

14：45 指導講評、成績発表、表彰

安藤 理先生 東京大学社会科学研究所学術支援専門職員

15：15 閉会式、解散、移動

講師 安藤 理 (あんど う さとる) 先生
略歴

東京大学法学部卒、東京大学大学院教育学研究科博士課程在学中にて博士論文を執筆しながら
東京大学社会科学研究所学術支援専門職員。専攻は教育社会学、社会移動と福祉国家への態度
のほか、高校教育と卒業後の生活、教育委員会の研究、全国学カサストの分析、論文の書き方
など幅広く研究を進めている。

主著 菊谷剛彦・安藤理他著『教育改革を評価する～大山市教育委員会の長戦～』岩波ブックレット
主要論文 『世代間学歴移動の社会的効果～再配分政策への賛否に着目して～』

『教育社会学研究』第79集 47・65

発表チーム メンバー表

チーム	テーマ	メンバー
M & K [11HR]	感染症	岡田颯佳 笹井奈都美 柴原亜祐 竹井えり 藤波里佳 初岡佑季 松崎友香
駄菓子屋 [12HR]	知られざる事実	小倉康平 横山聖 新谷幸菜 丸山実里 三村安佳里 吉田彩花
3 Y [13HR]	人とデザインの間わり	植田つかさ 桑田真理 小森真織 手島風 戸田麻理香
Team the kinoshita (人文分野)	性格と人間関係	木下輝彦 鈴木貴雅 古山さおり 山本麻衣 磯田尚子 森脇知里
グループ 国III (国際分野)	グローバル時代を生きる	庄司有理沙 片山智絵 金平桃子 大月真緒 井上佳奈恵 和田沙也加
チーム ふたり。 (法律分野)	裁判員制度	中尾咲未 下野知恵
リハビリーズ (医療分野)	the 身体回復	小樽千紘 中尾果歩 古谷篤季 富坂恵子 木崎大輔
Poi-kzSO ₄ (建築分野)	建物と風土	金定宏奈 押目あずさ 白石安季 島村 廉 金平大河



**勉強は
小論文から 始めよう**

東京大学社会科学研究所
学術支援専門職員 安藤 理

問題状況①

✦ 高校生の問題

- ✦ 「受験勉強って何のためにやるの？
大学に入って役に立つの？」
- ✦ 「あんまり勉強する気が起きないんですけれど」
- ✦ 「分野別研究・職業調べと受験勉強ってどういう関係？」 「分野別研究は社会に出てどういふふう役に立つの？」
- ✦ 「そもそも分野別研究って、何をどう発表すればいいの？」

2

問題状況②

✦ 大学生の問題

- ✦ 「いきなり論述式のテストを出されて困った」
- ✦ 「レポートの書き方がわからない」
- ✦ 「とりあえず文字数を埋めました！」
- ✦ 「大学に通ってる意味って・・・？」

3

大学のテスト（たとえば）

- ✦ 2007年冬学期 社会2 山脇直司
 - ✦ 下記の用語をそれぞれ少なくとも一度は用いて（使う順番は自由だが、用語の下にアンダーラインすること）、「個人と社会」のあり方を、18行以内で論じなさい。（35点）
 - ✦ 減私奉公、滅私奉私、活私開公、コミュニケーション、グローバル、「ある」論、「べき」論、「できる」論
- ✦ 2007年夏学期 政治1 高橋直樹
 - ✦ 「民主主義とは手続きである」と述べた政治学者がいた。これについて以下の問いに答えなさい。（40点）
 - ✦ (1)この見解はどのように解釈できるかを簡単に述べなさい。
 - ✦ (2)この見解に対する賛意や批判を自由に述べなさい。

4

問題状況③

✦ 総合学習の失敗

- ✦ 「通常の授業のほかに準備している時間がない。しかも、毎年新しいネタを仕入れないといけない」
- ✦ 「専門外のことをやらされても困る」
- ✦ 「レポートをどう評価してよいかわからない」

5

原因の探求と解決策① 高校生

✦ なぜ勉強のやる気が起きないのか？

- ✦ 受験勉強も総合学習も含めて、高校の勉強が、大学進学後など、その後の人生でどう役に立つかがわからないから。


→その後の人生でどう役に立つかをわかりやすく説明すればよい。

6

原因の探求と解決策② 大学生

なぜ大学生はテストやレポートで困ってしまうのか？

- 知識の書き方、レポートの書き方を教わってこなかったから。
- 書き方を教えてしまえばいい。




7

原因の探求と解決策③ 総合学習

なぜ総合学習で先生方は困ってしまったのか？

- 知識の「内容」を教えようとしてしまったから。
- 知識の「内容」ではなく、「形式・方法」を教えればよい。




8

解決策の具体化①

小論文の書き方を教える

- 知識の「形式・方法」
- 小論文 = 主張 + 根拠
- 主張 ~と考えるべきだ。
- 根拠 なぜなら~。
- この「根拠」を知識で穴埋めしていくのが、だんの勉強



9

解決策の具体化②


小論文を「主張+根拠」と定義すると、世の中なんでも小論文

Ex. 裁判の判決、カルテ、企画書、分野別研究・職業調べのプレゼンテーション、「勉強は小論文からはじめたほうがよい」

解決策の具体化③

小論文は穴埋め

- なぜなら、「小」の付かない「論文」も穴埋めだから。
- ①問題設定②先行研究③アプローチと対象④分析⑤考察⑥結論
- ①⑥が主張で、②から⑤までが「根拠」



10

あんどろメモ (フォーマット)

あんどろメモ-小論文の構成-

小論文の問題 試験名(平成 年)

〇問い [] か。

〇答え [] と考えるべきである。

〇根拠

- 理論的根拠 [] からである。
- 具体的根拠 [] ということである。


〇予想される反論 [] かもしれない。

〇再反論 [] である。

〇結論 [] と考えるべきである。

使い方

- 第一志望大学の問題を5問写す。
- よりあえず穴埋めしてみる。
- 勉強するときにいつも持ち歩き、アイデアがひらめくごとに修正していく。



11

あんどろメモ (たとえば)

あんどろメモ-小論文の構成-

小論文の問題 試験名(平成 年)

勉強のやる気を出させるにはどうすればよいか。あなたの考えを述べなさい。

〇問い [] か。

〇答え [] と考えるべきである。

〇根拠

- 理論的根拠 [] からである。
- 具体的根拠 [] ということである。


〇予想される反論 [] かもしれない。

〇再反論 [] である。

〇結論 [] と考えるべきである。

使い方

- 第一志望大学の問題を5問写す。
- よりあえず穴埋めしてみる。
- 勉強するときにいつも持ち歩き、アイデアがひらめくごとに修正していく。



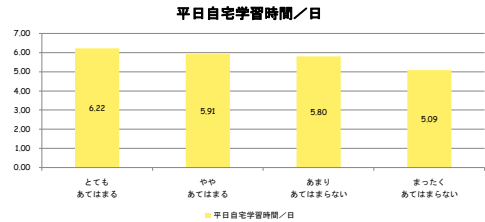
12

解決された状態① 高校生

- 勉強する意義は、具体的には、「主張」の「根拠」を探すということ。
- 勉強のやる気が起こってこないなら、とりあえず一回小論文を書いてみる。
- 総合学習のプレゼンをやってみれば、「根拠」を探すための勉強の意義がわかる。

13

具体的根拠（たとえば）：
受験勉強の意義
（受験勉強は大学で役に立つ）と
学習時間



14

解決された状態②大学生

- 論述式のテストやレポートも「主張」と「根拠」だから、小論文。
→「あんどろメモ」にしたがって書けばいい。

15

たしかに、

- あんどろメモのフォーマットでは文字数が足りない場合があるかもしれない。
- しかし、
 - 「つまり」「たとえば」で文を増やせばいい。
 - あんどろメモも「フォーマット」だけを出すだけでなく、具体例（たとえば）を出したからわかりやすくなった。

16

解決された状態③ 総合学習

- 「あんどろメモ」を教えて小論文を書かせ、それにしたがってプレゼンテーションをさせればよい。「たしかに」にすべて答え切れるまで書き直させる。
- 「たしかに」のあとに入る予想される反論を考えるのは友だちでよい。ふだんの添削の必要もない。楽。
- 「あんどろメモ」というフォーマットを教えるだけだから、毎年新しいネタを仕入れる必要がなくて楽。

17

解決された状態③ 総合学習

- 「主張」と「根拠」は、専門に関係ない。
- 実は、フォーマットを決めてしまったほうがいろいろな根拠が出てきて、それをたまに読んでみると楽しい。
- しかも、受験でも（国立後期、AO）、大学でも、専門学校でも、社会でも「主張+根拠」は役に立つ。
Ex. 公務員試験、エントリーシート、研究助成申請書など

18

2月20日(金)、勝山文化センターを会場に商業科学習発表会を開催しました。商業科で学んだ内容をまとめ、発表することで、学習の深化やプレゼンテーションの力を身につけることを目的としています。また、後輩に、商業科で学習することの内容・意義を伝える場でもあります。

一年生は、もみじまつりでの販売実習と事業所訪問の報告を行いました。販売実習では準備段階の取り組みの様子、当日のお客様との対応、会計報告が行われました。商品を購入していただく難しさを知り、接客などの良い体験ができたことと思います。事業所訪問では、始めて見る工場の中や、ホテル・小売店の内側に驚いたようです。「働く」ことをしっかりと考える機会だったと思います。来年度のインターンシップ(就業体験学習)に繋げてもらいたいです。



そのときの体験談を発表しました。参加された方に大変好評で、来年度以降も引き継いで実施してくれる多くの二年生を希望します。「日商簿記検定2級合格のために」の班は、難しい取り引きをわかりやすく、実例を用いて解説しました。これを聞いて、多くの一、二年生がこの検定に挑戦してくれることを期待します。「資格取得の取り組み」の班は、簿記・電卓・情報処理・ワープロ・販売士検定に向けての取り組みの様子を、自分達の体験をもとに発表してくれました。一、二年生はこれからどのように学習を進めたらよいのか参考になったと思います。また、文書デザイン選択者が昨年に続き「中庭を憩いの場に」と題して、「UDを活用した憩いの場を中庭につくりたい。」という思いを発表しました。ビジネス情報選択者が昨年に続き「おひな日和」と題して、「勝山お雛まつり」にあわせて携帯サイトでの案内Webページを制作した取り組みを発表しました。一度ご利用いただければと思います。

今年度も多くの保護者の方々に参加いただきました。大変感謝しています。数名の保護者の方と話をしたのですが、「よい発表しているのもっと多くの方に来てもらいたいですね。」という暖かいお言葉をいただきました。そのためにはプレゼンテーションの方法をもう一度考える必要があると思います。そして生徒一人ひとりが、これからも多くの情報を発信できるようにしていきたいと考えています。

来年度以降も、商業科で学んだ内容を多くの方に知っていただくために学習発表会を実施いたします。昨年の経験を踏まえ、今年はスケジュール通りに進めました。来年は今年以上の発表にしたいと思います。ご期待ください。



二年生は、7月に行ったインターンシップの報告を「ポスターセッション」というスタイルで全員が行いました。初めて体験するスタイルで戸惑うこともあったと思いますが、全員が時間一杯発表できました。聞き手からの質問にもしっかりと答えられていたと思います。今後も二年生の発表は「ポスターセッション」というスタイルをとりたいと考えています。

三年生は、3年間の学習の集大成として「課題研究」の発表を三班に分かれ行いました。「プロジェクトチームの足跡」の班は、バイオマスツアーを真庭観光連盟の方と考えました。11月29日に実施し、



インターンシップ

商業科 奥埜貴之

商業科2年生が、夏にインターンシップに行くようになって、今年で4年目となりました。教員の方も手慣れてきました。

生徒の方は高校生としては初めてのものの、中学生時代に全員が経験しており、とまどいも少なかったように思います。



中学生時代と違うのは、自らが受け入れ先を探し、交渉するということです。

他校の例では、教員が受け入れ先をリストアップし、その中から生徒が選ぶといった形態も少なくないようですが、本校商業科としましては、そこからが実習の始まりであるという信念をもって、指導しています。



今年度は7月10日から1週間の間の3日間で行いました。

実習先は、

- 「マルイ勝山店」(3名)
- 「ローソン落合インター店」(2名)
- 「デンソー勝山」(3名)
- 「JR新見駅」(1名)



- 「ヘアメイクサロンM2」(1名)
- 「オーティス久世工場」(1名)
- 「大佐ボンエース」(1名)
- 「名和香美堂」(1名)
- 「したみストア」(1名)

- 「真庭リバーサイドホテル」(3名)
- 「近藤病院」(2名)
- 「美作県民局」(2名)
- 「勝山図書館」(2名)
- 「河内保育園」(2名)



- 「蒜山山菜茶屋」(1名)
- 「ひるぜんジャージーランド」(1名)
- 「久世図書館」(1名)
- 「真庭市役所」(1名)

- 「近藤美容室勝山店」(1名)
- 「介護老人保健施設ゆうあい」(1名)
- 「川上保育園」(2名)
- 「ル・ペシュ・ミニヨン」(1名)



- 「温もりの宿ほのか」(3名)
- 「山陽新聞勝山支局」(1名)
- 「久世税務署」(1名)

でした。

それぞれ、貴重な体験ができ、将来の進路
 選択の一助となったことは間違いありません。

『ふるさと勝山もみじまつり』プロジェクト報告

商業科 教諭 難波 範行

商業科が、もみじまつりに参加するようになって、今回で5回目。1年生商業科が学校行事として、昨年度より引き続き参加している「ふるさと勝山もみじまつり」プロジェクトの報告を『事前指導 もみじ祭り当日 事後指導』という形式で報告します。

事前指導

最初に「日頃よりお世話になっている勝山のために『ふるさと勝山もみじまつり』に参加する」という目的を確認し、「K.C.(勝山コーポレーション)」という名前の模擬店を出店することとした。準備等の時間は総合的な学習の時間やビジネス基礎の授業、放課後を利用し、プロジェクトを進めることとした。

これまでの販売実習と同様に、当日の販売はもちろん、商品の仕入れ交渉も、生徒が電話をするなど、極力、生徒主体で準備をさせた。理由は、

- ・準備にどれくらい時間がかかるかを生徒が知らない
 - ・準備をしていないのでどう動けば良いかわからない
 - ・準備段階の苦労を知らないので当日どうしても消極的になってしまう
- などの理由である。

役割分担を決定する際には、生徒同士相談させるのではなく、自分の考えで「何がしたいか？」を決めさせた。自分で担当する仕事を決めたので、それぞれが前向きに準備段階から取り組めた。

当日のシミュレーションをさせた。当日の天候やもみじまつりの内容、前年度来客数、出店状況、過去の販売実績などデータを元に。これにより、「当日、何が売れるか」「困ることは何か」がわかり、当日の思わぬ出来事にも柔軟に対応できた。

なお、教員は、適切な指導ができるよう、常に生徒の動きや変化を観察することが必要であると感じた。

もみじ祭り当日

統一感と身を正すという意味合いで、生徒全員に名札をつけさせた。遊びでなく、授業の一環として参加していると認識させるのに効果的であった。

ほとんどの生徒に1度は販売をさせてみた。その場の状況に応じて動くことができる子、動くことができない子との差が出てきたところである。この体験を契機に、「販売・サービス業に適しているかどうか」を自覚し、進路決定に役立てる生徒もいた。

教員は、お客様がいるところで生徒が困っている時は、お客様のご迷惑になるので、すぐに援助するようにしたが、準備等で困っている時は、報告があるまでは手を出さな

「もみじ祭り準備風景」



店の顔、看板の作成中です



POP広告はパソコンで作成



全員の名札の作成中です

『もみじ祭り当日の風景』



開店前、販売価格を確認中

った。そうすることで、生徒は自然と周りの状況を把握せざるを得なくなり、「どこで、何をしているのか」が自ずとわかるようになってきた。

解散時に今日の出来事を、記憶が鮮明に残っているうちに、メモするように指導した。当日は晴天に恵まれ、飲み物（ソフトドリンク）の出店が他にほとんどなかったこともあり、冷たい飲み物やコーヒーの売り上げが伸びた。また、果物は特に有田みかんの売り上げが好調だった。

事後指導

事前に指導していたメモを元に、「もみじ祭りのまとめ」というワークシートにまとめた。当日の状況や気持ちを記入させていたこともあり、指導がスムーズにできた。

「もみじ祭りのまとめ」を元に、KJ法によるまとめ作業を販売した商品ごとに行った。作業をしてみると、販売する喜びや努力したことが共通だったり、商品によって販売する時の苦労が違うなどが分かった。

KJ法によってまとめた資料を元に、模造紙にまとめをさせた。「このまとめは、来年度もみじ祭りに参加する後輩のために作成する」というミッション（使命）を持たせてからまとめをさせた。作業の様子を見てみると、自らの経験を後輩へ伝えようと熱心に作業していた。

今後はグループ発表をし、グループ間での相互評価をさせたのち、商業科学習発表会へ向けての資料としてパワーポイントによる資料作成をさせる計画である。

最後に、生徒主体での参加を主眼とすることによって、生徒自身が積極的に取り組んでいた。事前準備等も生徒が主体となり、教員が手を出すことがあまりなかったため、段取り等に時間がかかるなど、援助に以前より時間がかかり大変苦労したが、すすんで大きな声を出し、お客さんを集める生徒の姿や、さりげなく気をきかし、他の生徒の気がつかないような仕事をしている生徒の姿など意外な一面を見ることができ、大変有意義であった。「来年度以降も参加し、もみじ祭りに参加することを勝山高校の伝統にしてほしい。」という生徒からの意見もあり、教員の期待した以上の成果が得られたようである。



「勝山コーポレーション」看板



POP広告を背中に貼って



果物類はよく売れました



お客様に試食販売しています



女子は店頭販売で、



男子は移動販売で奮闘中



ジャガイモの袋つめ放題

勝高プロジェクトK - 仕事の達人講座

学力向上拠点形成事業
プロジェクトチームリーダー
竹内 成長

□ 概要

学力向上拠点形成事業の指定を受けた平成18年度からキャリア教育の一環として実施しており、本年度で3回目の開催となります。本年度は11月12日(水)5限～7限で総合的な学習の時間を活用し実施しました。1・2年生、合計約320名が希望により11講座に分かれて、前半(50分)・後半(50分)とで一人2講座を受講しました。11人の達人から仕事の概要、苦労、やりがいなど、情報誌やネット等を見ただけでは感じ取ることのできない生の声を聴きました。大人になり仕事をしていくことは大変なこと・辛いことばかりではなく、やりがいや楽しみがあるということ、「頑張っている大人」・「かっこいい大人」から感じ取ってもらうのです。

また、進路指導課が年3回実施する進路希望調査によると本校生徒の進路希望は教育系や医療系を希望する生徒が多くいます。岡山県北という地理的な環境から、企業も少なく、生徒が希望する職種にどうしても偏りがでてくるようです。そこで、この仕事の達人講座を通して、職種に関する知識を少しでも広げ、幅広い職種から進路を考えていけるようにしたいと考えています。



アナウンサー



美容師



税務署職員



電子部品開発者



小学校教諭



自動車部品開発者



行政書士



社会福祉士



電子部品営業職



留学経営者



看護師

反省点

1学期からプロジェクト会議を開催し、11名の講師の方を探しました。4名の方が前年度からの継続で、7名の方が新規に依頼した方でした。特に理工系の講師の方がなかなか見つからず、直前になって決定するといった状況でした。講師リストを作成し、依頼できる話しの上手な講師の方を各分野、何名かずつストックしておいて、2年～3年ごとにローテーションしていく必要があると思います。講師の条件としては仕事の専門性が高いことは言うまでもないことですが、高校生に即した話ができるかどうか、講師を依頼できるかどうかにかかっています。

当日、講師の方の誘導は玄関での受付から全て生徒がしました。講師の方にも大変好評ですし、生徒にとっても良い経験となるようです。

講師と担当教員とで講演内容についてしっかり打合せをしておく必要があると思います。依頼文書等で講演内容について大まかに記載していただいただけであったので講師の先生も、どういった話をすればよいのか戸惑われるようです。学校側から、要望を明確にお伝えした方が話しやすいようです。

当日も、使用教室等の配置など、担当教員との事前打合せをする時間をしっかり確保しておく必要があると思います。開会行事の後、慌ただしく移動して、講演していただくのは無理があります。

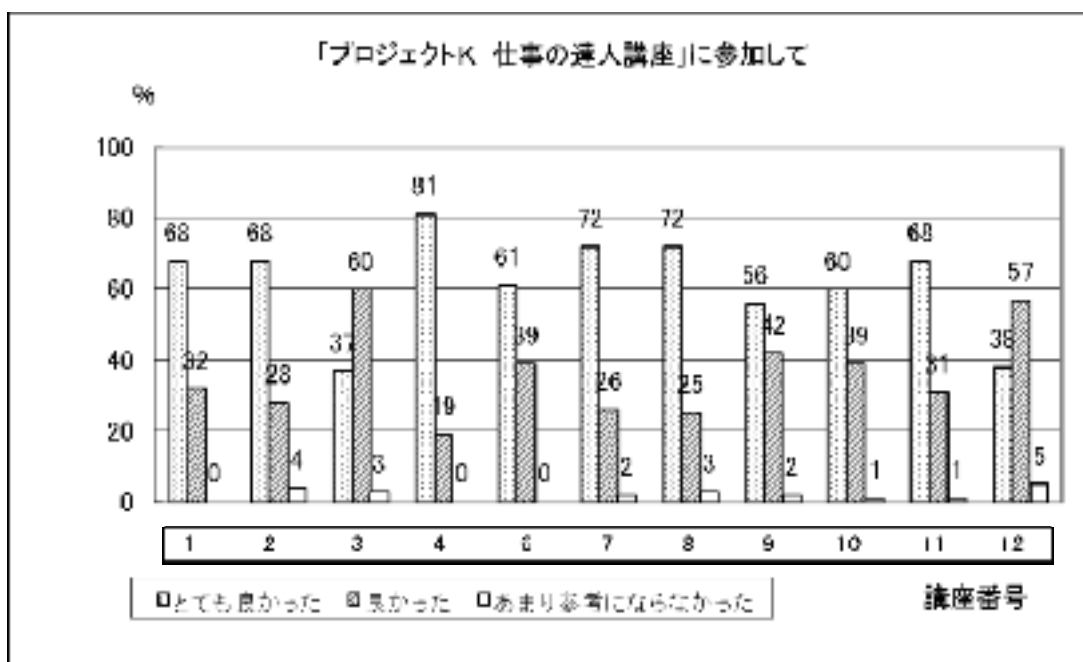
仕事内容も大切ですが、講師の先生自身がいかに、活気に満ちた生活をされているかが生徒にインパクトを与える要因となるようです。仕事内容が、その生徒の

希望とは異なっても話しに力があれば生徒にとっては大変参考になるようです。

□ まとめ

生徒のキャリア意識・進路実現への意欲の向上に関する取組の一環として実施してきました本年度で3回目の開催となりました。下記のアンケート結果からもわかる通り、「プロジェクトK 仕事の達人講座に参加してどうですか」の質問に対して、いずれの講座においても「とても良かった」「良かった」と9割以上の生徒が回答しています。冒頭でも述べましたが、本校生徒は岡山県北という地理的な環境から刺激が少なく、あらゆることで情報が不足しがちです。こういう環境だからこそ、このような企画が、外へ目を向ける良いきっかけとなるのではないのでしょうか。今後は、講師の充実化を図り是非、継続していきたい企画です。

【プロジェクトK 仕事の達人講座アンケートより】



講座番号 1	富松拓也先生	「高性能なエンジンを目指して」	自動車部品開発
講座番号 2	宮本和幸先生	「ザ、税務職人」	久世税務署職員
講座番号 3	牧野典子先生	「製造業について」	電子部品会社管理業務
講座番号 4	小幡陽子先生	「知られざる看護の世界」	看護学校教員
講座番号 6	三輪和也先生	「こんにちは、代書屋です」	行政書士
講座番号 7	村松美保先生	「演劇部、日本文学科、そしてアナウンサー」	アナウンサー
講座番号 8	小谷祐子先生	「社会福祉士について」	社会福祉士
講座番号 9	井上直美先生	「英語のプロフェッショナルとは」	留学関係会社経営
講座番号 10	御藤善子先生	「明日をつくる、未来をつくる～豊かな学びを求めて」	教育行政
講座番号 11	山奥 豊 先生	「一生現役、挑戦し続ける45歳」	美容店経営
講座番号 12	影山将来先生	「私、スイッチつくっています」	電子部品開発

後半

70歳 最尖端の人って印象が"よく、おもしろ、授業の面白さの立場のときの下切なこと、教えてもらいました。それをして英語をつかって仕事することはものすごく険山あるということ、英語は"ルール"であるということ、英語力を活かしたキャリアアップ、何でも"チャレンジ"するぞうするぞう、英語の70歳は可能ということ、目標が"見つかる"が努力でできる、Yes, we can の気持ち、たぶん教えてもらったので未来を夢見た人が人として将来に向けて頑張りたいと思いはした。

前半

私は将来 小学校の先生を目指しています。なので今の様な人材が求められているのを知り、人間的な成長がとて必要なことを知りました。教員としての苦勞、喜び、その他についても教えて頂いてやりがいのある仕事だということもとても分かり、更に教員になりたいという気持ちが強まりました。様々な写真や文集なども見せてもらい、御藤さんは、真摯にこの仕事をしていられたことが分かり、私も同じように子供たちにしっかりと親身になり、頼ってもらえる先生になるために、もっと自分を磨こうと思えました。夢に向かって頑張ろうと思いはしました。

後半

美容師の仕事はただ髪を切るだけでなく、お客さんとのコミュニケーションが大得意だとわかりました。実際生徒が髪を切ってもらっていたけど人が髪を切られるのを直近で見たのは初めてだったので、何か...ずこかったです。山奥先生は何年もコンテストに出場し、日本一を目指しているそうです。日本一になった人が"夢は逃げない、自分が逃げていただけ"、という言葉とぶつかったそうです。山奥先生はその言葉と自分に当てはめて頑張っていました。だから私も将来何かになりたいときは"逃げないで頑張ろう"と思った。

前半

車のエアコン内部や、ケイタイの内部など 普通では見えないものが見えた。世界を視野に入れた話が聞けて夢が持てた。特にケイタイの内部の部品が"人な"のようになってるんだ...と、とても興味深かった。大学の研究は、分からない所がたくさんあったが、見ていると楽しかった。自分は、大学には行かないが大学には興味があったので聞けてよかった。IPタニツクの仕事の内容など、知れて、また面談のことを聞けてとても、将来のためになった。

後半

一番心に残ったのは仕事の世界の厳しさです。どの仕事にもせりべいや楽しさはあると思います。ですが必ず厳しさやつらさを感じる時期はあるのです。"つらいことや楽しいことは必要なときに必要なだけおとすれる"。その言葉は本当に心に残りました。つらいことはそれを乗り越えた人しかわからない。つらいことから逃れずに常に挑戦していく姿を、村松先生から学びました。あと感謝の気持ちも忘れたいことも教わりました。基本は絶対!! それに自分の"必"を加えるために今を大切にしたい...こう思いました。

前半

社会福祉士の仕事はなるとなくはわかってはいたけど、今日のお話を聞いてくわしくわかりました。お年寄りの方や障害を持っている方などの介言葉をする上での大切なことがわかりました。ライラックR世では言忘れ症の人がほとんどだそう? 自分の意志が伝えられない人がいます。声なき声を提供することで、その人がよりよく生きれるようになる。など、その人が今までどういふふうに住せてきたかを見つけることが大切だと言うことがわかりました。そして、70歳とは"その仕事に関わる専門用語として準備ができてい"、という意の末ということがこの講座でよくわかりました。

教員の感想

先生自身の教員になろうとするきっかけ、教員になるにはどうすればよいか、教員とは、といった、たくさんのテーマで講演していただき話もとてもわかりやすく生徒には、とても有意義な時間となったのではないのでしょうか。「教員は一生、研修しなければならない」という言葉をきき、私も初心にかえりました。

税に関することをわかりやすく説明して下さった。当然、苦労していらっしゃるの、大変さが伝わってきた。生徒には、仕事のおもしろさより、大変さの方がより、伝わったかもしれない。

打ち合わせの段階で去年よりももう少し具体例をいれてもらうように頼んでいました。語学スクールでの生徒の例を紹介していただきましたが、スクールの経営という視点からの話があったら、もっとよかったと思いました。

前半でもものづくりについての考え方、生き方について話をさせていただいたが生徒の反応は今ひとつだったように思われました。後半でビデオをみせながら話をしていた時には集中できていたように思えました。本当のものづくりの楽しさについてのお話をしてもらえたらと思いますが生徒のニーズに合っていたかどうかはわかりません。

日本一になりたい一度も休みたい、やめたいと思ったことはないなど心に響くメッセージを語っていただき生徒も真剣に耳を傾けていた。自分のやりたいことをハッキリとっておられるからこそできる話だと思った。生徒も勉強になったと思うし私自身もとても勉強になった。

入社2年目の若者ということ、あるいはこのような場所で話しをした経験がなかったということなどが理由として挙げられるだろうが、声が小さかった。PCを操作しながらスクリーン見ながらなど、生徒の方に直面して話しをすることがなかったのは良くなかったようです。

カットをしながらのお話だったので、多くは語られませんでした。生徒はよく聴いていました。後半では質問をする生徒がいたので話しが進んで良かったです。(若干お説教っぽく聞こえた所もあったかとは思いますが)

- ・小3から学校を休んだこともないし、仕事も休んだことがない。
- ・素直であれ(素直な子には周囲に教えようと思う人が増える)
- ・親を大切にしろ

というお話だったと思いますが、良かったと思います。

教員では伝えることができないリアルな意見が聞けたので自分自身も大変勉強になった。ありがとうございました。講座が終わったあと生徒がたくさん質問に行っていたので生徒にとっても大変良かったと思う。

話もうまく、おもしろく聞けた。なかなかなじみのない職業だけに「こんな仕事もあるのか」と思える内容だった。法律とうものが生活にかかわっていることを感じる事ができた。行政書士のみならず法律にかかわる仕事について生徒は少し理解できたのではないか。プロを感じた50分でした。

行政書士というものが、どういうものかよくわかった。しかし、具体例を示していただいているのですが、その具体例が難しいものもありました。生徒もなぜ、それが必要なかが理解できていないように感じました。ただ行政書士が必要な仕事であることはよく伝わってきた。後半の講座の方がスムーズに話をされていた。

生徒のイメージと多少のズレがあったかもしれないです。小学校の現場にしばったほうが良かったのではと思います。

「知られざる看護の世界」

- ・人は生きてきたように死んでいく。
- ・今日の夜勤は誰なら
- ・白うさぎと黒うさぎ

きちんとしていて、よいお話だったようです。

気づかれた点・改善点

事前準備でもう少し教務課がもう少し入ってやってもいいのかなと思います。

医療（福祉ではなく）や建築の話が聴きたいという生徒の声もありました。

後半の講座に一般の方も参加されていた。ある程度わかっていたら資料も用意できたのですが、不足し配布できない資料もでた。

カットモデルを探すのが大変でした。感想を書く時間は結構多くあったので、開始はもっと遅くてもよいのでは。案内役の生徒、カットモデルの子はお昼を食べる時間が少なかつたと思います。

今回のような初めての方にし具体的な項目を挙げて話しをしてもらうよう指示しておいた方が良かった。

聴講する生徒に前もって「聴きたいこと」「質問したこと」をある程度まとめさせていたらどうか。質疑応答を活発にしたい。

前後半の移動経路をある程度決めておけばスムーズに移動できるのではないのでしょうか。

新しい講師の人を探すのは大変ですが、心がけておくべきだと感じています。いい人材がいても、なかなか勝山の地までくるのが大変そうです。また今回のようにキャンセルも考えられるので予備の講師リストがあつたらいいと思いました。

講師に対する開会行事は必要ないのではないか、はじめて来ていただく方に教室内の配置やプロジェクターの確認をしていただく時間や落ち着いて準備していただく時間がとれなかった。講師の先生にはどんな話をしていただくかのコンセプトを全体で確認する必要があったのではないか、生徒にとって「あの先生の話はおもしろかった」「あの先生の話はたいくつだった」で終わりにしてはいけないと思う。内容を打ち合わせするときに「これでよいのだろうか」ととても不安になりました。原稿まで用意してくださった先生に申し訳ない気がしました。私もプロジェクトのメンバーだったのに何もできずに申し訳ございません。係分担ですが、機材の配分は教育情報課、講座の配分は学年主任というように分担したほうがよいのではと思いました。担当教員の配分については新規の先生に手厚くなるようにしていただけたらありがたかったと思いました。講師の先生も勝高OB以外の人をお願いすることの大変さを感じました。

平成20年度「勝高プロジェクトK（仕事の達人）」の実施要項

- 1 目的：本校の『学力向上拠点形成事業計画』に基づき、社会人講師を招き業務内容を紹介してもらうことで生徒の進路に対する意識および学習意欲の一層の高揚を図る。
- 2 対象：1・2年生合同で実施（1年生160名・2年生158名 合計318名）
- 3 日時：平成20年11月12日（水） 5～7限（総合的な学習の時間等の振替実施）
- 4 場所：3棟を中心に、受講人数や講座内容により特別教室等を使用する。
- 5 準備：（前日～当日）

- （1）11日（火）までに朝SHR等で名札を準備しておく
生徒 - 名札用紙に生徒番号、氏名を記入し名札を準備させておく。配布は12日（水）の朝のSHRで感想の用紙とともに配布
先生 - オ・ブンスクールのネ・ムタグ（赤色）
- （2）11日（火）前日放課後準備（場所によっては当日の午前中に準備）
各講座担当で各会場の準備
出入口に講座番号、講師名の掲示（ワ・プロで打ったもの）
教室黒板右横に演題を掲示（福永先生手書き - 講座終了後、講師の先生へさし上げてください。）
黒板左横に下記の生徒用日程の板書
受講生徒数にあわせて机、椅子等の配置換え、座席の決定（担当者におまかせします）
配布資料等があれば印刷等の準備
プロジェクター・スクリーン（本部より貸出）
パソコン（各先生のものでお願いいたします）等の準備

15時50分～会議室で案内係・謝辞（ ）への指導（竹内）

- （3）当日準備
 - 11月12日（水）の朝のSHRでの指示
名札の配布
感想用紙を配布し表面を記入するよう指示
 - 11月12日（水）の12時45分からのHRでの指示
名札をつけさせる
感想用紙と筆記用具の準備
日程と講座場所を確認させる（感想用紙表面の記入）
講座をきく上での注意
 - ・講師の先生は本業があるなか本校のために講演して下さること
 - ・興味の有無や、おもしろさに関係なく、自分に生かせるところを探し出すという姿勢できくこと
 - 11月12日（水）講座終了後15時05分からのHRでの指示
名札の回収
感想用紙の裏面をしっかりとらせてください

回収した名札と感想用紙は竹内へ提出してください。

6 当日日程：

生徒の動き	講師の動き
	～12:40 講師来校 案内係生徒により玄関から会議室へ誘導
12:45～12:55 HRで講座の確認とアンケートの配付と諸注意、各講座場所へ移動	12:45～12:55 開会行事 会議室 (校長挨拶、事務連絡)
13:00～13:50 前半 - 講座	12:55～13:00 案内係生徒 会議室から各講座場所へ誘導
13:50～14:05 休憩および場所移動	13:00～13:50 前半 - 講座
14:05～14:55 後半 - 講座	13:50～14:05 休憩および場所移動
14:55～15:05 各HRへ移動	14:05～14:55 後半 - 講座
15:05～15:30 感想記入	14:55～15:05 案内係生徒 各講座場所から会議室へ誘導
	15:05～ 閉会行事 (生徒代表挨拶、事務連絡)

3年生で進路に関わって希望（担任判断）があれば参加も可

7 本部 - 会議室 竹内、吉原、教頭

8 講師：経費の欄 社 社会人講師活用事業 学 学力向上拠点形成事業 から支出

講座番号	経費	旅費	謝金	講師氏名	所属	職種 担当教員
1 第2 講義	社			(株)オーエス技研 富松拓也	〒702-8001 岡山県岡山市沖元464 (株)オーエス技研	自動車部品開発 片岡学
2 3A 講義	社	不要	不要	総務係長 宮本和幸	〒719-3291 真庭市鍋屋8-1 TEL 0867-42-0450 久世税務署	税務署職員 寺元 難波
3 3C 講義	社			管理部人事課 課長 牧野典子	〒719-3225 真庭市中原202-13 TEL 0867-42-3690 オ・ティス(株)	電子部品会社 管理業務 奥埜 高森
4 被服 教室	学			専任教員 小幡陽子	〒708-0841 津山市川崎1760 TEL 0868-21-8230 津山中央看護専門学校	看護学校教員 大久保 森山
5 化学 教室	社			インダストリアル事業 第二 AUTO ソリューション ・サ・ビス開発部主任プロ ジェクト・スペシャリスト 高谷和宏	〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21 TEL 03-3808-3489 日本アイ・ピー・エム(株)	コンピュータ 会社 - 開発 山谷 赤岩

講座 番号	経 費	旅 費	謝 金	講 師 氏 名	所 属	職 種 担当教員
6 1 B 講義	社			行政書士 三 輪 和 也	〒 719-3115 真庭市中町 398 TEL 0867-42-7248 岡山県行政書士会 理事	行政書士 棕代 桑元
7 同窓 会館	社			村 松 美 保	〒 700-0971 岡山市野田 5-8-11 TEL 086-805-8707 グル - プトーキング・アイ	アナウンサー 黒瀬
8 1 A 講義	学			社会福祉士 小 谷 祐 子	〒 719-3201 真庭市久世 5 4 0 - 3 TEL 0867-42-7550 ライラック久世	社会福祉士 梶原 武村
9 L L 教室	社			代表取締役 井 上 直 美	〒 700-0011 岡山市学南町 1-9-25 TEL 086-251-0203 (株)井上直美留学研究所	留学関係会社 経営 坂手 中島
10 視聴 覚	社		不 要	岡山県総合教育センター 教育経営部 御 藤 善 子	〒 716-1241 加賀郡吉備中央町吉川 7545-11 TEL 0866-56-9101 岡山県総合教育センター	教育行政 (小学校教諭) 高木 水島
11 商事 実習	学			Y U T A K A A N N E X 代表 山 奥 豊	〒 708-0824 津山市沼 6-8 TEL 0868-22-8882 Y U T A K A A N N E X	美容師 (美容店経営) 内田 野島
12 物理 教室	社			影 山 将 来	〒 708-8517 津山市河辺字下門 1111-1 TEL 0868-26-1285 パナソニックエレクトロニックデバイ スジャパン株式会社 津山ディビジョン	電子部品開発 日笠

本事業は学力向上拠点形成事業として実施する。

ただし旅費・謝金については

講座番号 4・8・11 については学力向上拠点形成事業の経費から支払う。

その他の講座については社会人講師活用事業の経費から支払う。

9 その他

印刷物，講師名札等の準備 - 竹内，吉原

演題等の準備 - 書道部（福永）

旅費等の準備 - 事務室（坂口）

湯茶の準備 - 小野

写真撮影 - 竹内，吉原，神戸

10月30日（木）生徒へ講座連絡

11月4日（火）～11月5日（水）で希望講座の調査（生徒）

11月6日（木）希望講座の調整・案内係生徒の決定 - 竹内

マスコミ等連絡

竹内へ

バイオマスツアーの開催 ~地域連携事業~ 商業科・学力向上PT 片岡 和昌

平成20年度は、真庭市、財団法人真庭観光連盟との協働事業としてバイオマスツアー「勝高生と行く 見て、聞いて、触って楽しむバイオマスツアー IN 真庭」を開催しました。

3年間、私たちの町真庭市について理解を深めることを目的の一つとして、バイオマスについて学習してきました。平成18年度は「バイオマスツアー」、「ゼロエミッションフォーラム・イン・真庭」に参加し、平成19年度は真庭市が将来どのようにあって欲しいのか、私たちはどのような暮らしを求めたらよいのかを考え、バイオマスタウンシンポジウムに取り組み、推進キャラクター「まにONE」を提案しました。これらの学習過程で、二点の課題を見つけました。一点目は真庭市のバイオマスについての取り組みについて、市民の認知度が低いこと。二点目は日常生活の中でどのようなことがエコ活動につながるのか気づいていない人が多いことです。そこで、今年度は、真庭市、(社)真庭観光連盟の協力を得て、市民の皆様を対象としたバイオマスツアーを企画しました。商業科3年生、課題研究で取り組んでいる生徒6名が説明・案内をし、いっしょに体験活動を行うことで、多くの方に真庭の取り組みを理解していただくことをねらいとしました。

11月29日、募集人員を上回るツアー申込者41名が勝山文化センターに集合。9時30分より、木材ふれあい会館において「バイオマスについての勝山高校生および保護者の意識調査」「バイオマスタウン真庭の紹介」を行い、「今できること」の紙芝居を行いました。その後、生徒が案内係を務め、バスの中でも楽しくバイオマスについての学習をしながら有限会社エコライフ商友、ランデス株式会社へと移動。久世エスパスで昼食、旧遷喬小学校校舎を見学したのち、銘建工業株式会社に移動しました。最後に勝山高校に戻り、使用済みのてんぷら油を利用したキャンドル作りに全員で挑戦していただきました。家庭でもできるエコ活動として、気軽に取り組んでもらえるよう紹介しました。お土産として、できあがったキャンドルと「まにONE」コースター、マグネットを持ち帰りいただきました。

ツアーをとおして、「わかりやすい説明でよかった。」と多くの方に励ましていただき、生徒も充実した一日を過ごすことができました。課題もたくさんいただきましたが、来年度も引き続きツアーを計画したいと思います。

《スケジュール》

- 【6月】 商品開発について検討
まにONEキャラクター商品についての予備調査を実施
- 【7月】 真庭市・真庭観光連盟と企画の検討 バイオマスツアー実施の決定
- 【8月】 ツアー内容の検討 エコキャンドル作成体験
- 【9月】 ツアー開催日 内容の決定
- 【10月】 訪問事業所インタビュー レクチャー内容の検討
真庭市広報等で募集開始
- 【11月】 現地での実習 ガイド研修 11/29 ツアー実施
- 【12月】 ツアーまとめ

《アンケート集計結果(抜粋)》 アンケート数…35

Q1. ツアーに参加して、「バイオマス」について

ア よくわかった	… 29	イ なんとなくわかった	… 6
ウ あまりわからなかった	… 0	エ 全然わからなかった	… 0

Q2 . 今日ツアーの中で意義や成果があったもの

- | | |
|------------------------------------|--------------------|
| ア 高校生によるバイオマスタウン説明 … 28 | イ バイオディーゼル … 15 |
| ウ 木片コンクリート … 17 | エ パレット … 16 |
| オ 発電 … 12 | カ エコキャンドル作り体験 … 15 |
| キ バスの中の高校生による案内 … 20 | |
| ク その他 (説明がとても爽やかだったので、私も誇りに思いました。) | |

Q3 . 参加された動機について教えてください

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ア 環境問題やバイオマスについて知りたい … 13 | イ 勝山高校出身である … 3 |
| ウ 今回の企画に共感がもてた … 19 | エ 参加費が適当 … 5 |
| オ その他 | |

(・ 資料などでしか知っていなかったの、見て感じる重要さを知る為。 ・ 友人に誘われた。
・ 市職員・研修として。 ・ 荒れた山野との取り組みについて知りたく思ったから。)

《生徒の反応》(感想)

- ・ ちょうどよい速さで話すことに集中した。声の大きさは練習どおりできた。
- ・ バスの中での会話では話す材料を十分に持つ必要がある。
- ・ お金をいただいてサービスをすることの難しさがよくわかった。
- ・ 自分たちが考えたことに、喜んでもらえて嬉しい。
- ・ レクチャーする時、調べた内容をつなぎ合わせて文章にしても理解してもらえない。自分の言葉で表すことが必要だとわかった。
- ・ 一つのツアーでも多くの人の協力があってこそできるんだとわかった。
- ・ 多くの人が参加してくれて嬉しかった。来年も引き継いで欲しい。

「写真」



「バイオマスタウン真庭についてのレクチャー」



紙芝居「今できること」



「バスの中でのガイド」



「エコキャンドル作り」体験

事業所見学実施報告

商業科 野島慎吾

平成 21 年 2 月 13 日、本校商業科の 1 年生と 2 年生が 4 つのコースに分かれ、真庭市内の各事業所を見学した。

目的

- ・真庭市内の産業について考え、進路について考える機会とする。
- ・社会でのマナーを身に付ける機会とする。
- ・キャリア教育の一環として捉え、勤労観・職業観を養う。
- ・金融教育の一環として税の確定申告について学ぶ。

4 つの見学コース

- A 金融学習コース・・・久世税務署を訪問し、税金の仕組みや確定申告について学ぶ。
- B 事業所見学コース・・・真庭リバーサイドホテル・YKK AP株式会社を訪問し、接客や製造業について学ぶ。
- C 事業所見学コース・・・協同組合落合ショッピングセンター(サンプラザ)・オーティス株式会社を訪問し、小売業や製造業について学ぶ。
- D バイオマス学習コース・・・銘建工業株式会社・勝山健康増進施設水夢の訪問、エコライフ商友による出張講座を通して、バイオマスタウン真庭について見識を深める。

私が引率したCコースの内容について詳しく紹介していく。

本コースは、前述したとおり、協同組合落合ショッピングセンター(サンプラザ)・オーティス株式会社を訪問し、小売業や製造業について学ぶコースである。



肉や魚の加工現場

サンプラザでは、開店前の約1時間、ショッピングセンターの概要の説明を受け、食品売り場を見学させていただいた。特に、肉や魚の処理をする場所・惣菜を作る場所は普段見ることのできないところであり、生徒にとって貴重な経験となった。また、鮮度を保つための工夫や、肉の種類によってまな板を使い分けるなど衛生面についても詳細な説明受け、真剣にメモを取る様子が伺えた。



美しく陳列された商品群

また、売り場では実際に商品陳列をしている場面を見たり、売れ残りが出ないようにするための工夫などを聞くことができた。また、開店直前の朝礼で接客の練習をする様子も見学させていただいた。小売業の現場で行われている消費者に気持ちよく買い物を楽しんでもらうための活動について理解を深めることができたと思う。



オーティス株式会社では、クリーンな環境作りに常に気を配っていることや、社長の仕事に対する考え方を聞くなどして興味を持つ生徒が多くいた。（左の写真にある通り、見学は帽子を着用して行った。）オーティス株式会社で伺った話の中で特に印象的だったものをここで紹介したい。オーティス株式会社は、「できません」とは絶対に言わないということである。どんなに困難なことであっても、できる限りの

ことに取り組み、とにかくできる方法を考えるそうだ。この考え方は、どのような職業に就いても役立つと思う。もちろん、学校生活においても役立つであろう。



オーティス株式会社の食堂

オーティス株式会社では、地域に貢献するという立場から、コスト的には高くつくが、地元真庭の木材を使用したテーブルと椅子を食堂に置いている。また、不景気であっても雇用を維持している。地元就職しようと考えている生徒にとって、地域に貢献するという考え方は非常に印象的だったようである。

生徒の感想

- ・ 私たちが普段食べたり使ったりしているものの裏には、たくさんの苦労があることがわかった。
- ・ 今まで知らなかった会社の開店前の様子を見ることができて、とても勉強になった。
- ・ 仕事は違ってもお客様のためにやっているということは一緒なので、会社は違ってもつながりがあることを知った。
- ・ 「会社を愛する心」が一番大切だと思った。
- ・ 企業にとっては、お客様が第一であることがわかった。
- ・ あいさつの大切さがわかった。

まとめ

今回の事業所見学を通して、生徒は普段の生活あるいは授業からは学ぶことのできない貴重な学習をすることができたと思う。企業の取り組みや採用に関する情報も知ることができ、満足した様子であった。見学後に記入させた感想の中にも、前向きな内容のものが多かった。就職希望の生徒は、1年後あるいは2年後には実際に社会人として働くことになる。職業に関して十分な知識がない状況で就職すると、理想と現実の乖離に耐えられず、早期離職につながる可能性がある。そのようなことを防ぐため、事業所見学を通して企業の現場を知り、勤労観・職業観の養成することは極めて重要である。

今回の事業所見学で学んだことは、その日のうちにまとめ、翌週の商業科学習発表会において披露した。発表会では、事業所の方に説明していただいたことのほか、前向きな感想、就職に対する考えなどを発表し、よい経験になったと思う。

どのような進路をとるにしろ、自分のやりたいことを明確にもち、それに向かって努力する姿勢が何よりも大切である。今回の事業所見学が、生徒のキャリア意識の高揚につながり、進路決定の一助となることを期待している。

2008 岡山大学ミニオープンスクール

進路指導課・学力向上PT 内田 真理子

- 1 期 日 平成20年 7月 9日(水) 14:00~16:00
- 2 場 所 勝山文化センター
- 3 内 容 岡山大学の教育研究の特色について
平成21年度入試について
文系・理系・医歯薬系学部紹介
個別相談

2008 岡山大学 ミニオープンスクールが 勝山にやってくる!

今年、岡山大学学外オープンスクールが勝山文化センターにやってきました!

こんなに手軽に参加できるチャンスはなかなかありません。

岡山大学とはどういうところなのか?どんな研究を行っているのか?
どうすれば入学できるのか?!

などなど、あなたの疑問を解決するべく、ぜひ足を運びましょう!!

日時 平成20年7月9日(水)(期末考査最終日) 14:00~16:00

場所 勝山文化センター


プログラム

- ① 岡山大学の教育研究の特色について
- ② 平成21年度入試について
- ③ 文系・理系・医歯薬系学部紹介
- ④ 個別相談

申込方法・期限

生徒は6月23日(月)までに掲示されている名票に○をつけること。

保護者の方の参加もOKです。昨今の多様化する入試制度について最新の情報を得ることは今後のお子様の進路決定の際に役に立つことと思います。
参加希望の方は、当日参加ができますので、直接会場へお越しください。



4 まとめ

本校参加人数は、1年生30名、2年生28名、3年生37名、合計95名であり、5名の保護者の参加(他校含む)があった。今年度は勝山文化センターで開催されたことで、生徒・保護者にとって非常に参加しやすくなったと思われる。

最初に大学全体の説明があった後、学部別にブースを設けての説明があり、生徒達は熱心に耳を傾けていた。生徒の感想も「非常に良かった」との声が多く、意義のある時間となった。

平成20年度 広島大学オープンキャンパスに参加して

教諭 坂手祐子

(1) 本行事の目的と概略

1 目的 広島大学の施設を実際に見学し、学部・学科の説明を受けることにより、大学についての理解を深め、主体的な進路選択のきっかけとする。

2 実施日及び参加者予定者数

8月8日(金) 引率教員 2名 生徒 40名 (1年生3名、2年生37名)

3 参加費 貸切バス代は生徒2000円程度、(後日学年集金より徴収)

昼食代(広島大学構内の学食が利用できる予定。弁当持参も可。)

4 当日の日程

8:20 ボンエース勝山店駐車場集合・出発(貸切バス)

11:20 広島大学(貸切バス駐車場)着 各自昼食・休憩・移動

12:30 各学部にて受付(総合科学部・文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部
工学部・生物生産学部)

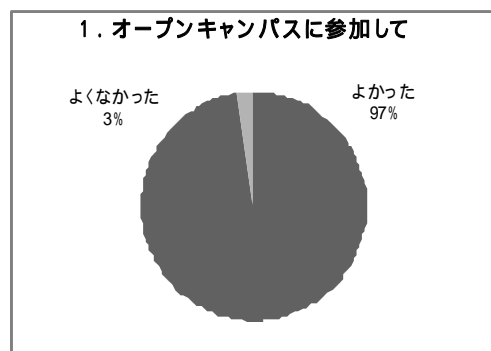
13:00 各学部にて説明会開始

16:00 説明会終了

16:20 貸切バス駐車場でバス乗車・広島大学出発

19:20 勝山高校到着

5 生徒の感想



1. 自分の進路決定に

参考になった(95%)

あまり参考にならなかった(5%)

2. オープンキャンパスを体験後、学習や生活などの面ではがんばろうと思うことは？

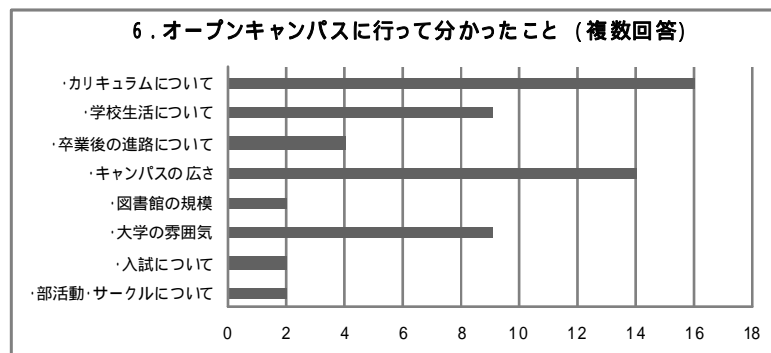
今の勉強を大事にし、基礎力をしっかりつける。

いろんなことに興味を持ち、視野を広げる。

実際の大学に行って雰囲気を感じることも大切。

早く目標の大学を見つける。

3. 今回のオープンキャンパスに参加してみて分かったことは？



* 昼休みにはボランティアの大学生たちがキャンパスツアーを行っており、大学の生の雰囲気が感じられるように工夫されていた。

6 まとめ

生徒の感想を見ると、参加者の9割が非常に満足している。特に広島大学はキャンパスも広く、実際に施設設備を自分の目で見たことは貴重な体験となった。学生食堂では多くの留学生の姿が見受けられ、生徒にとってとても良い刺激となった。

1 現状の分析, 課題

本校生徒の学習面での課題として、家庭学習習慣が十分に確立されていない生徒がいること、家庭学習習慣を身に付けている生徒でも学習時間が少ないことが挙げられる。昨年度はこの課題を克服するために、生活や学習の実態を記録させる「夢かな手帳」(ディスカヴァー刊『夢をかなえる人の魔法の手帳』)を活用することを試み、一定の成果を得るとともに、新たな課題も見つかった。それは、手帳の習慣化が生徒によってまちまちであり、一度「手帳をつけない習慣」がついてしまうとなかなか改善できない点と、教員間の「夢かな手帳」に対する共通認識が不足していたため、生徒への働きかけやチェック、面談での活用方法に温度差を生じさせていた点である。

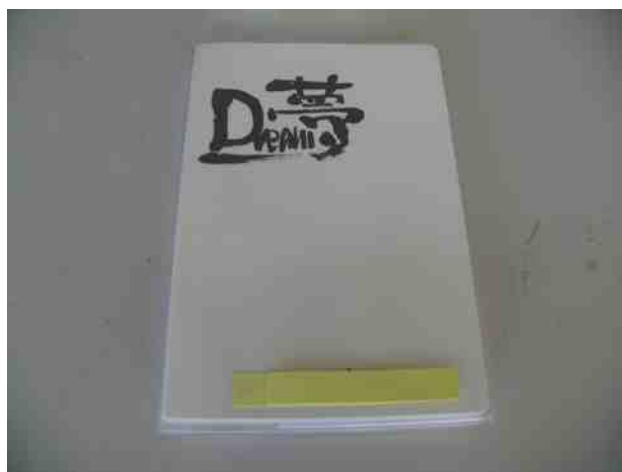
2 今年度の取組

昨年度の課題を踏まえ、今年度は生徒手帳と「夢かな手帳」を一体化させた本校オリジナルの『夢手帳』を作成し、導入した。また、教員間の共通認識を持つため、年度当初の職員会議で資料(平成20年度『夢手帳』(通称:夢かな手帳)の活用について)の通り提案した。

生徒への働きかけとしては、年度当初、「『夢手帳』の記入について」を配布し、説明した。クラスでの活用の仕方は、職員会議での資料をベースに各クラスで工夫してもらうこととした。

私の担任しているクラスでは、毎朝手帳のチェックを行った。これは週2回のチェックより効果的に手帳を使う習慣をつけられると考えたためである。手帳の回収は月1回程度行い、簡単なコメントを付けて返却した。個人面談の際には持参させ、手帳を見ながら生徒自身に振り返りをさせ、改善できるところを考えさせるようにした。また、それぞれの生徒に合った手帳の使い方を面談の中で提案し、手帳をより効果的に活用できるよう働きかけた。

また、学年団(2年団)の取組として、「Over 24プロジェクト」を数回行った。これは、一週間の家庭学習時間の目標を24時間とし、それを超えるようにそれぞれの生徒が学習計画を立て、実行し、記録し、振り返るというものである。その際に『夢手帳』の当該週のページをコピーしたものを配布し、家庭学習開始予定時刻と予定時間を記入させた。これは生徒に手帳の活用方法の一つの例を提示するという意味も込めている。



本校オリジナルの『夢手帳』 表紙の字は書道部

3 成果と課題

『夢手帳』の活用状況についてのアンケートを行ったところ、2年生普通科では以下のような結果となった。「『夢手帳』をどの程度活用していますか」の質問に対しては、64%の生徒が「活用している」と答えた。「少し活用している」生徒も含めると、93%の生徒が何らかの形で活用できていることが

わかる。私の担任しているクラスでは、「活用していない」と回答した生徒は1名であった。昨年度は活用頻度についてのアンケートを行っていないので正確な人数は分からないが、昨年度と比較して手帳を活用している生徒が増加したという感覚がある。生徒手帳と一体化した本校オリジナルの『夢手帳』となったことで手帳を携帯する必要性が高まったこと、学校全体で『夢手帳』を活用しようという雰囲気を作れていること、担任・副担任の週2回のチェック及び月1回の回収等で手帳を介して良好なコミュニケーションが取れていることがその要因ではないかと考えられる。また、手帳の書き方にもそれぞれの生徒に工夫が見られ、友人の書き方を参考にして自分に合った書き方を工夫する生徒も見られた。

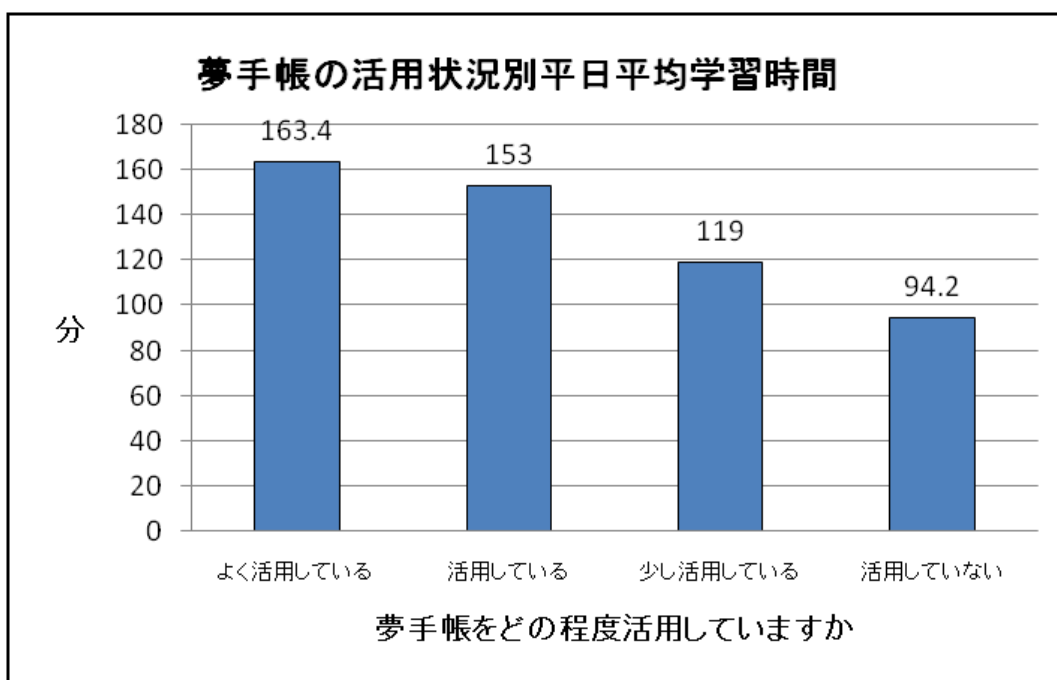
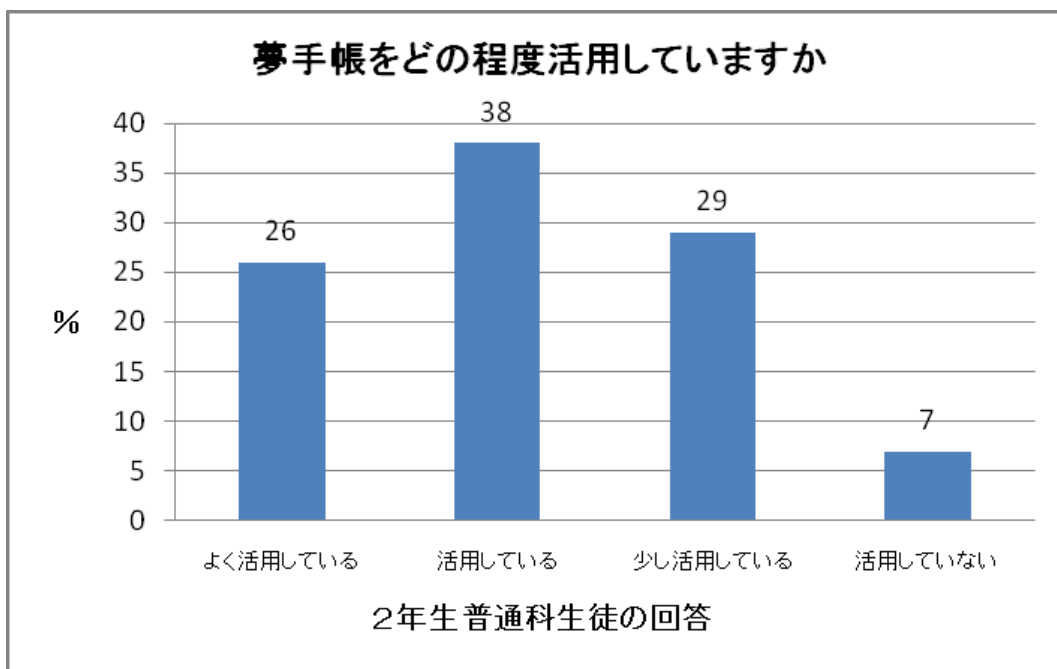
『夢手帳』の活用状況と平日の平均家庭学習時間を比べて見ると、「よく活用している」生徒の学習時間は平均163.4分、「活用していない」生徒は平均94.2分と、大きな差が見られた。『夢手帳』導入の第一の目的として「授業変更や連絡、週末課題等をメモさせ、一週間の家庭学習計画を立てさせることで、ムラのない学習時間を確保させる」ことを挙げているが、手帳の活用により学習時間の確保が達成されることが実証されたと言える。

課題としては、手帳を活用していない生徒をどのようにして活用できるようにしていくかという点と、教員側に手帳をチェックすることへの抵抗感があるという点である。前者については、昨年度から実感しているが、生徒自身が手帳の有用性を実感しなければ手帳をつけること自体が義務的なものになり、苦痛すら感じさせることになるという恐れがあるように思う。生徒が必要性を感じた時に初めて手帳が活用できたと言える。今後も、いかに手帳の活用が役に立つものであるかを生徒に実感させられるような働きかけが必要であると思われる。また、後者については、当然の感覚ではないかと思う。私自身も生徒のプライベートな部分に踏み込むということについて躊躇を感じる部分がある。そこで、私の担任しているクラスでは、年度当初に「手帳のチェックは、手帳を毎日つけるという習慣をつけるためと、面談等で勉強のやり方や時間の使い方をより効果的にするアドバイスをするために行う」「手帳は自分の書きやすいように工夫して楽しく使ってほしい」「私に見られたら困るようなことは書かないでほしい」と断っておいて、生徒が手帳を見られることに不安や抵抗をできるだけ感じないようにしている。生徒と教員のお互いに了解があってこそ手帳の効果も得られるのではないかと考えている。生徒との信頼関係を築く上でも、お互いに納得のできる対話が必要ではないかと思われる。

『夢手帳』生徒は工夫して使っています。



『夢手帳』の活用状況についてのアンケート結果



職員会議資料

平成20年度 『夢手帳』(通称：夢かな手帳)の活用について

1. 目的

授業変更や連絡，週末課題等をメモさせ，一週間の家庭学習計画を立てさせることで，ムラのない学習時間(本年度重点目標 平日 1年 - 2.5時間，2，3年 - 3時間)を確保させる。

生徒自身に生活の現状を把握させるとともに問題点を発見させ，これからどうすればよいかを自ら考えさせる機会を作る。

自分が勉強した内容，時間を毎日記録させることで，これだけのことをやったのだという自信を持たせる。

将来社会人になるにあたって必要とされる時間管理能力・情報管理能力を高校生のうちから訓練し身につけさせる。

2. 手帳の記入方法

表紙に「1145 勝山花子」のように生徒番号・氏名を記入させる。

「スケジュール貼付欄」に学期毎の行事予定表を貼付させる。

資料1，2を参考に，学習計画を立てさせ，実行した内容・時間を記入させる。

資料はあくまで参考であり，生徒各自が工夫し，楽しくつけられればよい。

3. 運用方法

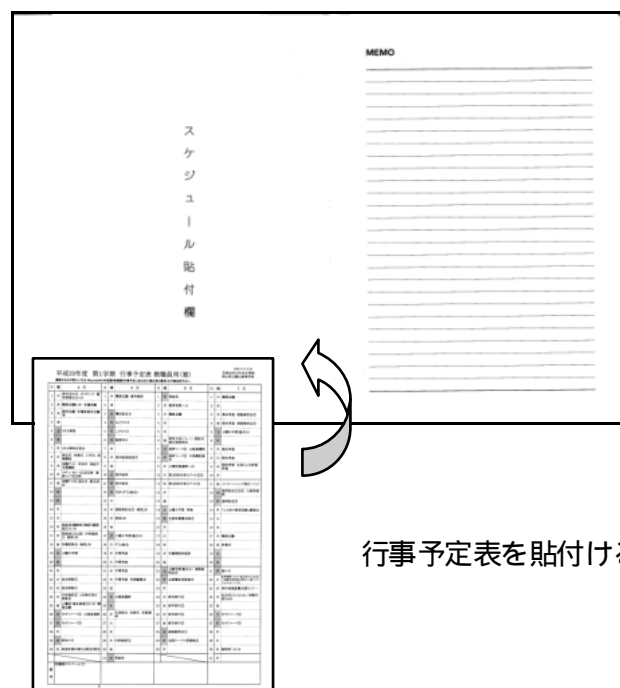
朝礼のない火・木曜日に，担任・副担任でチェックをし，声かけをする。

月に一度(主に漢字テストの日)回収し，コメントを書く。

個人面接の際に持参させ，生活・学習状況についてコメント・アドバイスする。



生徒番号・氏名を記入



平成20年度学力拠点形成事業
新入生宿泊研修 報告書 1学年主任・学力PT 黒瀬大亮

報告者	黒瀬 大亮
実施期間	平成20年4月22日(火)～23日(水)
実施場所	国立吉備青少年自然の家

普通科3クラス119名(1名欠席)商業科1クラス40名参加

引率教員 各クラス担任・副担任 学年主任 計9名
 その他出張教員 2名(教科指導・卒業生派遣対応)

1. 宿泊研修全般について

- ・当日欠席した生徒1名、1日目に気分が悪くなった生徒1名があったものの、参加した生徒は行事を全行程滞りなく実施することができた。
- ・施設間の移動が大きく、時間的に厳しい日程であった。
- ・入浴の時間が短く、全体的に時間が足りなかったようだ。
- ・食事は、バイキング形式であったが生徒はバランスを考えて食べており、量とともにたいへん充実していた。
- ・準備段階で1年団の関わりが少なく、場面場面で日程の微調整を行った。進路課行事として行うならば、引率教員を1年団+進路課(打ち合わせをした教員)で行うほうがよい。
- ・情報が少なく「何が起こるか?」がわからなく大変であったが、生徒は充実した研修していたのでよかったと思う。
- ・日程、時期はよかった。
- ・必ずシュミレーション行うべきである。少なくとも研修担当になる2名は事前に現場に行き、生徒の動きと時間をシュミレートしておくべきである。今年度の場合、現場で対応を迫られる場面が多々あり、そのたびにこちらの危機対応能力が試験されているように感じた。

2. 研修の目的とその成果について

- ・研修でお互いにうちとけ、その後クラスがよい雰囲気になった。生徒同士が親しくなれたことで効果、成果は十分であった。
- ・今後は進路課ではなく、生活習慣を確立させる意味でも、生徒課中心でのものを考えてもよいと思う。
- ・研修の目的の柱は「英・数・国の学習の方法」であるが、3教科の担当者が出張等で講座を埋めることができず中途半端であった。
- ・学習面、生活面を、その年度の実施時期にあわせて比重を変えていけばよいと思う。

3. 日程、研修場所について

- ・移動は長い場所がよい。
- ・仕方がないと思う。日程は中間後にされている学校もありますが・・・
- ・日程については入学式から10～14日後に行えればよい。
- ・学校から1時間少々で施設面においても十分だと思う。あとはこちらのやり方を工夫していくことだと思う。

4. 各研修内容について効果が大きいと思われるものとその理由について

- ・クラス対抗レクリエーション。クラスがひとつになるという感覚
- ・野外炊事と合同レク。クラス全体で動くことができる。
- ・卒業生の講演。年の近い先輩に話してもらうことで説得力がある。
- ・集団遊びは、新しい集団を次々に組み替えることで、その集団における自分の立場や役割を感じとり社会性を身に付けるものである。従って、遊びそのものよりは、その前段階での作戦会議の場面が重要になる。しかし、今回時間の都合でこれが不十分となった。

生徒はほおっておくと、自然に”群れ”をつくり”ボス”をつくる。せっかくいろいろな中学校から集まったばかりの生徒たちだから、こちらが群れになる前にことごとくつぶして”社会”を意識させる。

宿泊研修は、自分のいごちのいい方向に群れようとするその性質をつぶしながら社会を意識させる場面を多く企画するべきだと考える。

- ・卒業生からのメッセージが、身近な存在と感ずることができ、また内容もすばらしいものであった。生徒も先輩の言葉に聞き入っており、今後の高校生活に希望を膨らませたようだ。
- ・活動内容については、野外炊事・クラス対抗レクリエーションに積極的な活動が見られこれらの活動を通してクラスの団結力が高まった。ただし、野外炊事の時間とその後の移動時間が大きく、クラス対抗レクリエーションの時間が削られたのが残念である。
- ・家庭から切り離し、クラス・学年全員で1泊の研修をすることそのものが集団づくりに大きく役立っていると思う。
- ・卒業生からのメッセージ。先輩の声、アドバイスは生徒の心にもよく響く。3年間の学びのイメージがつかみやすいと思う。

5 来年の宿泊研修についての意見

- ・集団づくり、人間関係づくりに重点をおく。
- ・学習については、大人数での自習形式(セミナー形式)に慣れさせるような指導がよい。(ただし、予習のしかたを教える必要がある)
- ・余裕を持った時間設定をする。移動などもゆっくりしても、必ず5分前には集合できるようにする。
- ・もう一度、いろんな意味で考え直す必要がある。
- ・集団づくりや教員生徒間の距離を近くする等を大きな目標としていけばよいと思う。
- ・学習方法も教科色をうすめて、高校の学習スタイル全般についてなどを行う。

6 学習指導について

- ・自習で教科書の予習をさせた。その結果、予習が先に進んでおり全員が予習した状態で学校に帰って授業ができた。よかったと思う。



【卒業生からのメッセージ】



【学習指導】

【野外炊事】

平成20年度夏季セミナー

3 学年主任・学力P T 吉原啓之

1 目 的

長時間の学習に耐えうる集中力の養成。
規則正しい生活の確立。また、それにのっとったメリハリのある学習態度の確立。
それぞれの目標にあった学力の向上。
集団で勉強する中で得られる、切磋琢磨しあう姿勢の養成。

- 2 期 間 平成20年8月5日(火)～8月8日(金) 3泊4日
- 3 場 所 『森のホテルロシュフォール』 真庭市社128-14 TEL 0867-62-3939
- 4 費 用 21,000円(1日3食付き、交通費、会議室使用料等 税別)
- 5 参加者 3年生 67名
- 6 実施形態 『1 目的』の主旨に従い、特別な教材を与えたり、講義をすることはせずあくまで自学自習である。ただし指導教員に質問をすることはできる。
- 7 指導教員 3年生教科担当者
- 8 日程の詳細

8月5日(火)	8月6日(水)・7日(木)	8月8日(金)
7:50 送迎バス第1便出発	6:30 起床	6:30 起床
8:50 " 第2便出発	6:50 朝食	6:50 朝食
9:40 開講式・注意	8:00 第1ラウンド学習	8:00 第1ラウンド学習
10:00 第1ラウンド学習	10:20 第2ラウンド学習	12:20 第2ラウンド学習
12:45 昼食・休憩	12:00 昼食・休憩	12:00 昼食・休憩
13:00 第2ラウンド学習	13:00 第3ラウンド学習	13:00 第3ラウンド学習
15:00 第3ラウンド学習	15:00 第4ラウンド学習	14:10 感想記入・就寝準備
17:00 夕食・入浴・休憩	17:00 夕食・入浴・休憩	14:40 閉校式
19:00 第4ラウンド学習	19:00 第5ラウンド学習	15:20 送迎バス出発
20:40 第5ラウンド学習	20:40 第6ラウンド学習	
22:00 反省記入・就寝準備	22:00 反省記入・就寝準備	
23:00 消灯・就寝	23:00 消灯・就寝	

- 9 不参加生徒で学校で自主学習を希望する生徒への対応
同窓会館等を使用し上記のセミナーの時間(第1ラウンドから第4ラウンド)で自学自習させる。
監督として教員1～2名をあてる。

10 成果

進路指導課長の「受験は団体戦だ!」の掛け声の下、60名を超える生徒が一堂に会して一心不乱に机に向かう姿はある種の感動すら覚えた。この学習態度を合宿期間だけでなく、その後の家庭や学校に持ち帰ることがポイントであることをしっかりと指導した。地域に進学塾や予備校などがなく、受験に関する情報源を学校に頼るしかない本校生徒にとって、普段と異なる環境で長時間学習に取り組む合宿に参加することは、真剣かつ本格的に受験勉強を開始するよいきっかけとなったと思われる。セミナーに参加した生徒が普通科の約6割であるのに対し、国公立大学AO・推薦合格者18名のうち14名がセミナー参加者だったことから、この企画が有意義なものであったと言えるだろう。

1 1 生徒の感想

文系男子

全員が集中して取り組めていたので、自分もやる気をだして集中して取り組むことができた。家でやるとどうしてもテレビなどを見たり休憩が多くなったりするけど、セミナーではそういうことができないので効果的だった。100分や120分集中して取り組むことや問題を解くペース配分、どの時間帯にどの教科をやれば自分が集中できるのかなど新たな発見ができた。なにより長い時間机について勉強ですというものがどんなものかをしっかり感じれたので、そのことをこれからの学習に生かそうと思う。充実した4日間を過ごせた。



理系男子

セミナーを通してまず思ったのは、集団の力はすごいということです。家で一人でやろうと思ったら、どうしてもどこか集中力が切れやすく、長続きしにくいと思います。しかしこのセミナーでは、やる気になってしている人がたくさんいるので、自分もやってやろうという気が起り、集中がよく続きます。ただ勉強時間をだらだらと過ごすのではなく、少々短い時間でも集中してやるのが大事だと強く感じました。あと勉強時間を確保するために、生活リズムを整えることも大切だと思いました。起床、就寝時間を固定しようと思います。

文系女子

私はこの4日間夏季セミナーに参加してみても良かったです。3年生ということで、みんなで一緒に団結して勉強するのはとても良いことで自分が初めから計画していたことがこなしていけるということは自分のためにもなるし、わからない所は先生に質問してみるということが出来る環境だということがとても良いと思いました。また、4日間というのは、とても長いけれど同じ席でずっとしているわけではなくラウンドごとにくじをひいて席替えをするというアイデアがとても良かったです。これからも自分の行きたい大学へ行けるように頑張りたいです。



文系女子

私は今回でセミナーに参加したのは2回目でしたが、春季セミナーに参加したときより学習時間や宿泊する日数が長かったので、最後まで頑張れるか少し不安に思っていました。けれど、3年生になってからの数か月で、受験に対する思いが少し変わったので、1つのラウンドごとに気持ちを入れなおして頑張ることができました。夏休みに入ってからなかなか思うように勉強できない日が多かったけれど、夏季セミナーに参加して、みんなの頑張る姿や先生方が応援してくださっているのを見てもっと頑張ろうと思えました。今日家に帰ってからもセミナーで得たことを活用して納得できる進路に進みたいです。

4 本年度及び3年間のまとめ

学力向上拠点形成事業プロジェクト
チームリーダー 竹内 成長

数値目標達成状況について

【 】平成20年度数値目標

本年度、学力向上拠点形成事業の事業計画で設定した数値目標は次の(1)～(5)である。学力向上拠点形成事業プロジェクトチームでこれまでの本校の進路実績及び本年度3年生の進路希望、活動実績、学力等を分析し年度当初、設定したものである。また一部、学校経営計画ともリンクしている。

(1) 国公立大学合格者	60名以上
(2) 東京・京都大学合格者	1名以上
(3) 商業科国公立大学合格者	1名以上
(4) 就職率(地元就職率)	100%(50%以上)
(5) 卒業生進路希望実現満足度アンケート	80%以上

【 】 達成状況

(1) 国公立大学合格者 60名以上 について

国公立大学合格者数(含既卒生)過年度比較

入試種別		H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度
AO入試	CTなし	0	3	2	1	2
	CTあり	0	1	4	0	1
推薦入試	CTなし	6	6	6	13	9
	CTあり	9	11	4	8	7
小計		15	21	16	22	19
一般入試	前期	28	30	24	34	24
	中期	0	2	1	1	
	後期	8	8	6	5	
小計		36	40	31	40	24
合計		51	61	47	62	43

平成21年3月12日現在、国公立大学合格者43名(含既卒者)である。合格者60名以上という数値目標の達成は極めて厳しい状況にある。本年度3年生の入学時からこれまでの学力推移を考えると国公立大学50名以上が実質的な数値目標と考えている。どの学校においても、新入生の学力は年度によって多少の上下はある、まして本校のような中規模校であれば他校からの影響を受けがちである。しかし、学力的に厳しい年度においても、一定の進路実績を出していくのが我々、プロとしての使命であると考えている。なんとしても50名以上の合格者を出し60名にどこまで近づけるかが本年度の実質的な目標である。本年度、AO・推薦入試の合格者は19名であった。センター試験を利用しない

入試で11名の合格を勝ち取った。本年度の大きな特徴として、センター試験で得点するには厳しいと思われる生徒が推薦入試で合格したことである。本年度の3年生は本事業の中心的な取組学年である。1～2年次の総合的な学習の時間等を活用し、町おこしや真庭市バイオスタウン構想に関する学習をするなど地域との連携に意欲的に取り組んできた。また、普通科1・2年生合同発表会や商業科学習発表会等も実施してきた。それらの経験を通して、知識を蓄えプレゼン能力を高め、志望理由書や面接、小論文に生かせることが大きな成果に結びついたと考えている。本校のAO・推薦入試に関するノウハウの蓄積及び進路指導体制のスタイルが確立されてきたと考えている。一般入試では理系はセンター試験で実力を発揮し順当に得点し、合格者も現時点で25名となっている。一方、文系はセンター試験で理数系教科でおもように得点できず2次出願も志望変更せざるを得ない生徒が多数であった。またセンター得点での業者判定がA～Bで前期合格を見込んでいたにもかかわらず2次試験で逆転され不合格となった生徒がいる。一方で、C判定であったが2次試験で挽回し、見事合格を勝ち取った生徒もいる。2次試験に向け、「合格するぞ」という気力と学習面での対策の重要性を改めて感じた。現在、文系からは18名の合格者がでている。

(2) 東京・京都大学合格者 1名以上 について

理系生徒の中から2名の京都大学受験者を出すことができ、内1名が京都大学工学部に現役合格した。1年次から難関大学現役合格を目標に指導をしてきた生徒である。本事業導入まで、本校には難関大学に対する指導方法は勿論、教員の中に難関大学を薦めていく意識も低かったと思う。しかし平成18年度から指定された本事業に取り組む中で着実に本校からも毎年、難関大学合格者を育てていこうという気運が教員の中に生まれてきた。「(2) 東京・京都大学合格者 1名以上」という数値目標が教員間において共通理解されてきたことが大きな成果である。本年度、京都大学の現役合格者が出たことで、後輩にとっては難関大学進学が現実のものであるという、大きな心の支えとなるであろう。教員にとっても、本校の指導体制で現役合格が可能なんだという大きな自信になったと思う。前任校で難関大学の指導をしてきた教員はいるが本校生徒を指導しての現役合格はなかったので、これまで自信がもてなかったと思う。本校進路指導の大きな一歩となったと考えている。毎年、1名以上の難関大学合格者を出し続けていきたいと考えている。また五校交流会で話題となった難関大学指導についてなんらかの高校間の連携企画を立ち上げていきたいと考えている。

(3) 商業科国公立大学合格者 1名以上 について

商業科からは、昨年の和歌山大学観光学部に引き続き、本年度は鳥取大学地域学部合格した。本年度3年生は1年次から町おこしや真庭バイオスタウン構想とリンクし地域連携に意欲的に取り組んできた学年であった。そういった取組を通して培った知識やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を活かして「地域環境」をテーマにして受験(小論文・面接)し合格を勝ち取った。本校の商業科の目玉である地域との連携から学んだことを、進路決定にどう結びつけていくか一つのスタイルが確立してきたと考えてい

る。今後も毎年，国公立大学への合格者を育てることで教員の指導の感覚・ノウハウを引き継いでいくことが重要であると考えている。

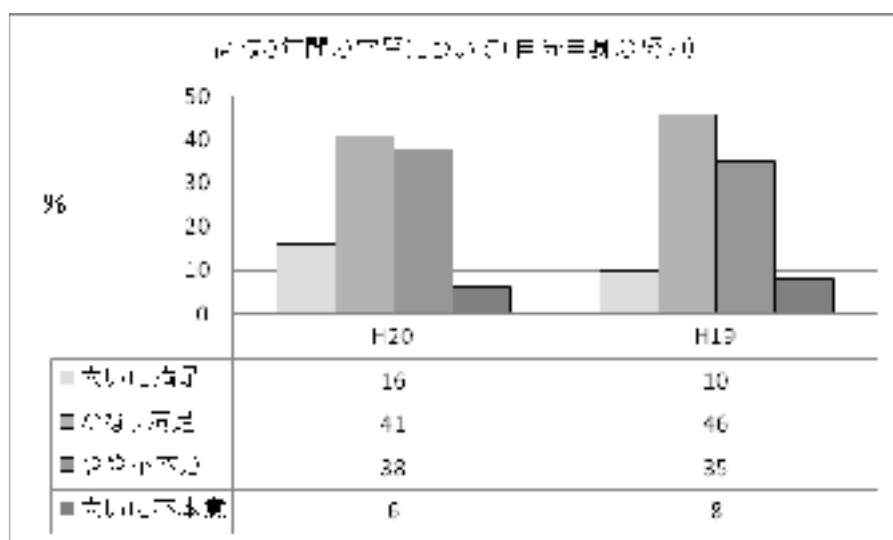
(4) 就職率 100% 地元就職率 50%以上 について

就職希望者普通科4名，商業科15名，合計19名，全員の就職が決定し就職率100%を達成している。また地元就職者は12名で地元就職率63%で数値目標の50%以上も達成している。地元事業所からも本校に対する人材供給への期待は大きく来年度以降も，事業所見学やインターンシップ，社会人活用講座，勝高プロジェクトK-仕事の達人講座等を通して地元貢献への意識を育てていきたいと考えている。

本年度は，国家公務員 種税務の合格者がだせたことも大きな成果であった。公務員の希望者は多いが，なかなか現役合格者をだすことが出来ていなかった。難関大学の指導と同じく毎年，少なくとも1名ずつ合格者を出していくことが大切であると考えている。そうすることで，指導する側も，合格ラインに届く生徒かどうかの見極めができるようになると考えている。

(5) 卒業生進路希望実現満足度アンケート 満足度80%以上 について

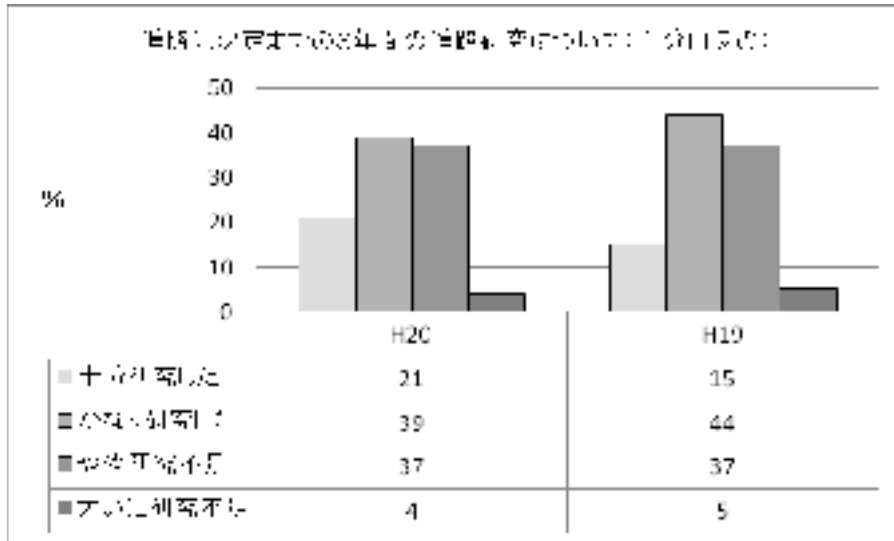
卒業生 進路希望実現満足度アンケート結果より (2009/2/20実施)
【高校3年間の学習について (自分自身の努力)】



昨年の43%とほぼ同じく，44%の生徒が「やや不本意・大いに不本意」と答えている。3年間の努力を振り返った時，3年次の努力から比べると1・2年次に「もっと努力できたのでは」と思うのではないだろうか。本校の置かれた地理的な環境から周囲にライバル校や予備校もなく，また大学生等に出会うこともないので1・2年次はのんびりとした高校生活を送ってしまう。3年次2学期になり就職選考試験や推薦入試等を受験してみても初めて受験というものを知るのである。と同時に1・2年次，如何にのんびりとした生活をおくっていたのか痛切に感じるのではないだろうか。3年生が「もっと早くからやっ

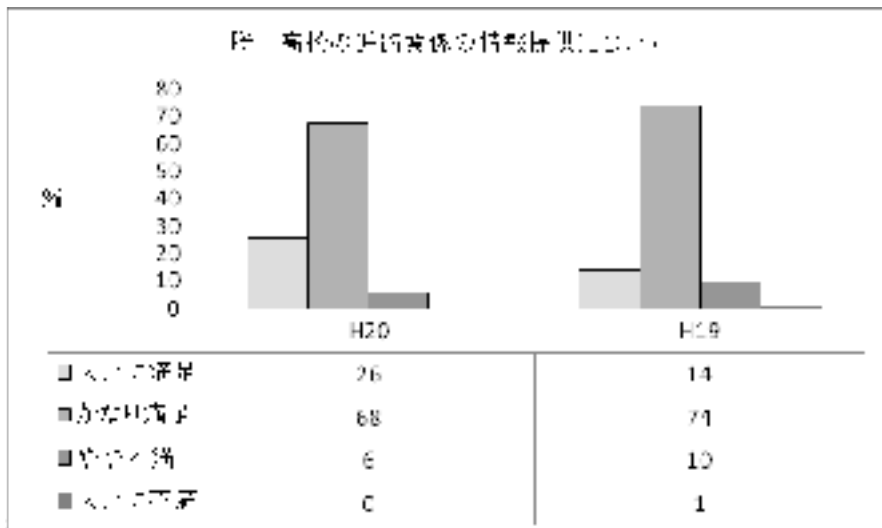
ておけばよかった」とよく言うが、その言葉が今回の結果に反映されている。2年次のいわゆる「中だるみ」は多少の差はあっても必ず生じるものであるが、それを最小限に食い止めることが必要である。特に2年次に生活習慣を大きく崩し、その結果、授業についていけず、特定の教科の学習意欲を大きく失うといった例は3年次の進路決定に大きく影響してくるので十分注意したい点である。1・2年次から進路目標を持たせ、ある程度、受験を意識した学習指導ができるかが重要なポイントである。

【進路決定までの3年間の進路研究について(自分自身の)】



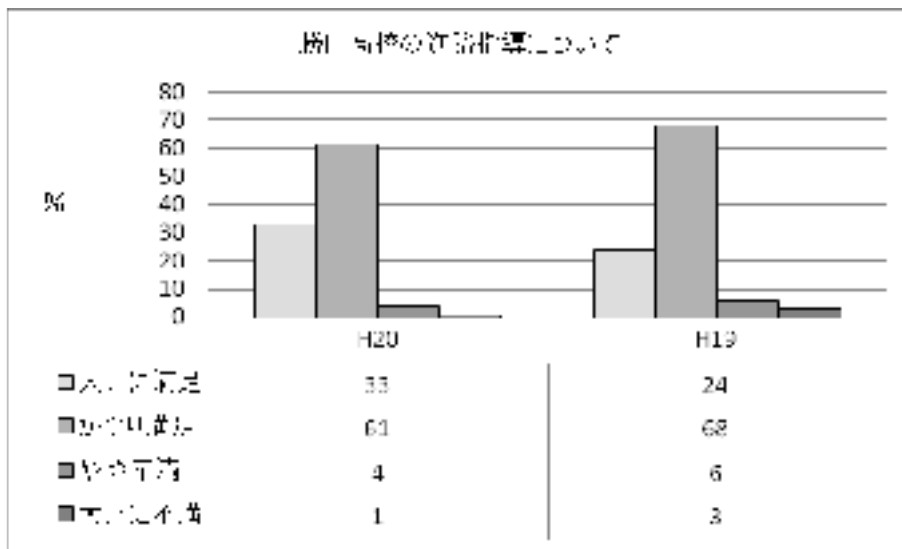
昨年度とほぼ同じ、60%の生徒が「十分研究した・かなり研究した」と回答している。1年次から進路雑誌や資料の配付、進路のホームルーム、面接を通して進路関係の情報をしっかりキャッチし研究した生徒がいる、一方で、40%の生徒が「やや研究不足・大いに研究不足」と答えている。1年次からしっかり進路について考えさせる必要があるが、何か工夫が必要である。例えば面接を担当・副担任だけではなく学年主任や進路課長、進路主任、部活動顧問など人を変えて、異なった視点からアドバイスをするだけでもかなり違ってくるのではないかと思う。進路意識の低い生徒を奮起させる必要がある。質問1と比較的よく似た結果となっている。進路研究することと学習することは比例する。学習意欲の源となる進路研究を充実させていかなくは意欲的な学習につながらない。進路研究の大切さがあらわれている。

【勝山高校の進路関係の情報提供について】



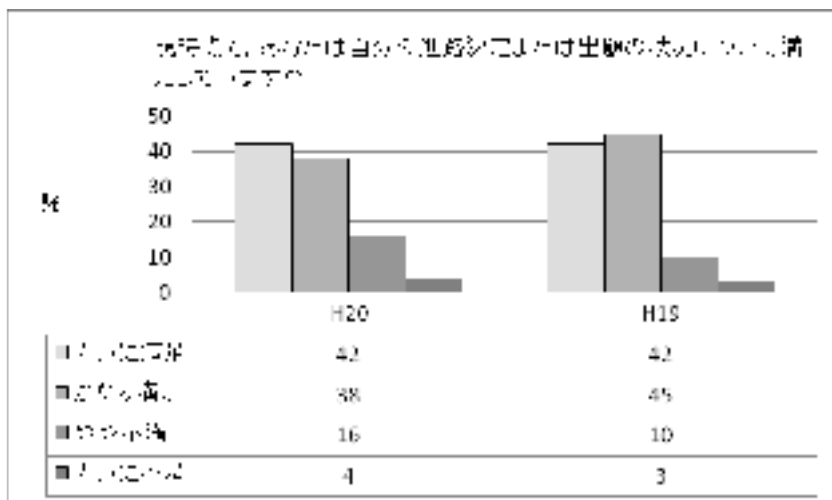
94%の生徒が「大いに満足・かなり満足」と答えており、本校の進路の情報提供について高い評価を得た。一方で6%の生徒が「やや不満・大いに不満」と答えている。その理由に国公立大学指向に偏重しているとの指摘があった。生徒・保護者・地域が本校に期待する進路指導の第一に国公立大学への進路保障があり、その点を踏まえた上で私大等を志望する生徒への的確な情報提供が必要である。周囲に予備校等がないため学校の進路指導に頼らざるを得ない状況にあるだけに本校の果たすべき責任は大きい。生徒・保護者から高い満足度が得られるよう先を見通した的確な情報を提供したいと考えている。また商業科の生徒では「やや不満・大いに不満」と答えた生徒は皆無であった。商業科と普通科の学科併設校のメリットが現れていると思う。つまり、就職情報と進学情報のいずれも偏ることなく提供できる体制が本校には出来ているのである。

【勝山高校の進路指導について】



94%の生徒が「大いに満足・かなり満足」と答えており、本校の進路指導に対して高い評価を得ている。その多くが、きめ細く丁寧な指導をしてもらったと感じている。一方、昨年度の9%から好転したものの5%の生徒が「やや不満・大いに不満」と答えている。その理由に質問3と同様に国公立大学指向に偏重しているとの指摘があった。本校の使命の第一が国公立大学への進路保障であることを認識し、1・2年次の進路に対する考え方をしっかり伝えておくことが大切である。その上で私立大学志望者からも評価される指導をしていく必要がある。

【現時点で、あなたは自分の進路決定または出願の状況について満足していますか】

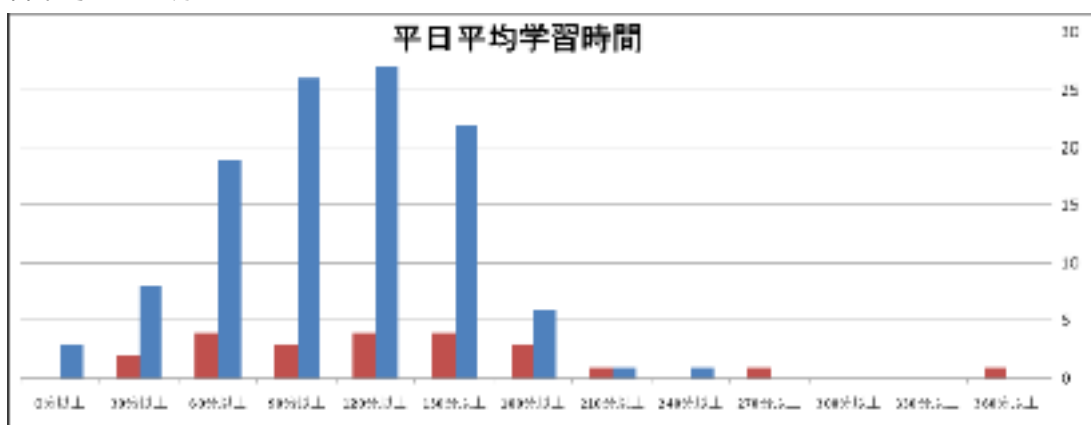


80%の生徒が「大いに満足・かなり満足」と答えている。まずまずの評価が得られていると考えている。「大いに満足」と答えた生徒の中には、第一志望でなくとも本人が全力で受験に取り組み合格を勝ち取った生徒が多い。一方「やや不満・大いに不満」と答えた生徒は20%である。その多くが1・2年次の授業内容が十分理解されていなく、3年次の授業にも十分集中できていない。また受験に際しても「やりつくした」感が十分もてなかった生徒が多い。結局、生徒が満足できるかどうかは第一志望でなくとも本人が「やりつくした」感がもてるかどうかであると思う。我々教員は1・2年次の学習状況が3年次の受験に対する姿勢に大きく影響し、最終的には本人の満足度に繋がっていくことを心に刻み1・2年次の指導にあたらなくてはならない。

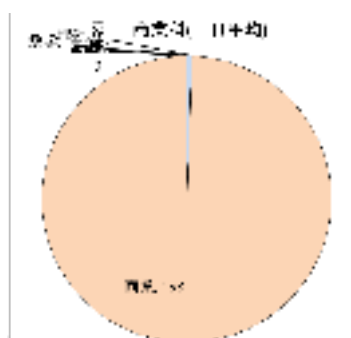
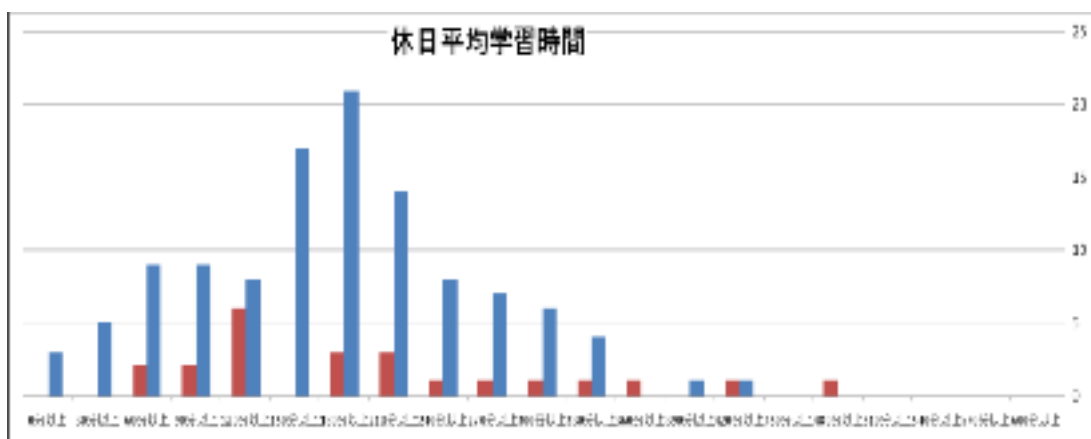
学習時間について

進路指導課が実施している学習実態調査2年生1月のグラフである。

平日平均118分



休日平均182分



2年生で学習時間が平日平均118分、休日平均182分というのは、本校の目標である平日平均が180分、休日平均300分に対しかなり少ない。細かく分析していくと平日は概ね時間割に沿って学習しているようである。つまり数学であれば90分-0分-90分というように翌日、数学の授業があれば前日に学習するが、なければしないというスタイルであり毎日一定時間学習はしていないようである。時間割に関係なく学習時間の固定化が必要であると考えている。また休日については平日に対して学習時間は増加するが300分には遠く及ばない。周囲に競う他校の生徒や塾、予備校も少なく学習に対する刺激は極めて少ない。都市部の生徒であれば塾や予備校等に通り学習時間を確保するであろうが、本校生徒はグラフからわかる通り休日も平日と同じペースで学習しているようである。週末課題の質・量の再検討及び休日の使い方について指導が必要であると考えている。我々教員も教員集団として学習時間を確保させようと指導する意識をもっと持つ必要がある。夢手帳をしっかりと活用して学習時間の確保を強く生徒にせまるといった姿勢が必要であると考えている。1・2年次における学習時間の確保が本校の大きな課題である。

学力向上拠点形成事業で開発した重要な取組（3年間の成果）

（1）夢手帳の活用 について

本事業の取組で最も大きな成果といえるのが本校オリジナル手帳「夢手帳」の導入である。その目的は自己管理のできる人材育成である。生活時間や学習時間の記録をつけることにより、生活スタイルの振り返りや、学習の励みとする。予定を記入することにより計画的に時間を使っていくのである。また、夢手帳の活用と学習状況の相関関係を研究したことで、夢手帳を軸とした本校独自の指導法が開発できた。本校における3年間の指導がクラスや担任、教科担当教員が替わってもぶれることなく、一本の線となる継続的な指導が可能となってきた。この3年間で夢手帳のハード面の開発は出来た。生徒・教員の意見を取り入れながら、本校での高校生活にマッチした仕様に、毎年モデルチェンジしていけばよい。今後はソフト面の開発である。現在は、年度当初の職員会議で夢手帳について、その意義や活用方法について全教員の共通理解を得るようにしている。しかし、現実には学年団や個人によって夢手帳に対する温度差がある。今後は、生徒に夢手帳をどのように活用させるか、そして教員が夢手帳を使ってどのような指導をしていくか、そのために指導体制をどのように確立させていくかが重要なポイントとなる。全教員が夢手帳に対して一定レベル以上の共通理解をし、指導していけるかどうかにかかっている。

（2）普通科1・2年生合同発表会及び商業科学習発表会 について

普通科1・2年生は職業別研究・分野別（学部別）研究について、商業科1～3年生はもみじ祭りやインターンシップ、事業所見学、課題研究等で学んだことを真庭市の文化センターで発表するものである。進路意識・職業意識の高揚、コミュニケーション能力の向上、研究成果・プレゼンテーション技術の共有化を目的としている。また、普通科は1・2年生、商業科は1～3年生の合同発表会とすることで、先輩・後輩で刺激しあい互いに学び、互いに磨くことも目的である。本年度で2回目の開催となる。様々な目的があるがやはり「人前で発表する」ことは将来、社会人となったとき必ず求められることであり、これにより生徒は大きく成長しキャリア意識の醸成にもなっている。最終的には3年次の就職者選考試験やAO・推薦入試での志願理由書や面接等でその成果が発揮され高い合格

率となっており、本校の進路指導の大きな特徴となっている。今後も力を入れて継続したい取組のひとつである。

(3) ICTの活用による授業改善に関する研究 について

全クラス普通教室に、プロジェクターとスクリーンを常設し使用可能な状況を作った。(2年生教室には天吊りプロジェクターを設置した。本年度、全学年普通教室に常設予定である。)わかる授業や心に残る授業の実践及び授業時間の効率的な活用を目標に各教科でICTを活用した授業実践を研究した。国語や英語では本文の読解等の解説に、数学ではグラフや立体図形の解説に、理科や社会では実験の様子や図表・写真等の提示、商業科では図表作成の解説等に活用した。また、授業公開・参観を積極的に行い、他教科の授業におけるICTの活用例からも学び、授業改善に結びつけた。本校では各学年の同一教科担当者は1～2名と少なく、授業の進度や指導方法について新しい工夫が即、実践できる。ICT活用による授業改善では授業が理解しやすいと回答した生徒が85%で授業改善の成果があらわれつつある。また、ICT活用による授業実践の研究を行うことで授業公開・参観が、これまで以上に日常的に行われ、教員のICT活用技術や授業改善に対する意識が高まってきた。今後も引き続きICTの活用による授業改善について取り組んでいきたい。

(4) コーチング研修 について

保護者対象コーチング研修では理論と実践演習を通し、子供とのかかわり方を見直すきっかけとなった。教員対象コーチング研修では、コーチングの基本的な考え方から、生徒面接で役立つ手法といった実践的なものまで幅広く学んだ。特にこれまで進路に関する指導は経験と勘により行われることが多くあったが、生徒対応について理論的・系統的に学ぶことにより、全教員が一定レベルの指導をすることが可能となってきた。保護者対象コーチング研修後のアンケートでは97%の保護者が子供の支援に役立つと回答している。教員対象コーチング研修後のアンケートでは全教員が生徒との対応に役立つと回答している。子供や生徒とのかかわり方を理論的・系統的に学ぶことにより、生徒自身が持っている潜在的な力を引き出すことに繋がっている。今後は予算的な面で研修がどの程度可能か不透明な部分があるが、可能な限り取り組んでいきたいと考えている。

学力向上拠点形成事業に取り組んでみて

本事業に取り組んでみて最も良かった点は、前記の「学力向上拠点形成事業で開発した重要な取組」に加えて、「とにかく結果はともあれやってみよう」という気運が教員の中に生まれ学校が活性化されはじめたことだと思う。夢手帳や普通科1・2年生合同発表会、商業科学習発表会などがその良い取組事例である。学校が比較的落ち着いた実績や成果が出せている時、「前年度の通りにすればいいのではないか」と考えがちであるが、その考えこそが学校の発展を停滞させ、学校・生徒・教職員の元気を奪っていく原因であると思う。

次に従来、本校は課主導ではなく学年団主導の色合いの強い学校であった。そのため学年団によって指導方針や指導体制が大きく異なり、進路実績等にもバラツキが生まれ安定感に欠けるところがあった。しかしこの3年間は、本事業が三学年に対して一本の柱とな

り学年団の連携が構築されてきたと思う。さらに普通科と商業科といった学科併設校での科目目標の違いから起こる温度差といったものが本事業が緩衝剤となり逆に学科併設校であることのメリットが引き出せてきたことは大きな成果であったと思う。またこれまでも商業科を中心として地域連携はしてきたが、本事業を通して普通科を巻き込んだ地域連携をより深化させることができたことも大きな成果であった。逆に、商業科にとっては国立大学を中心とした4年生大学への進学指導についての情報やノウハウを普通科と共有することが可能となり合格者も出せた。4クラス体制となり、全学年でも12クラスのこじんまりとした学校となった今、生徒数は480名、教員数は30名余りである。だからこそ逆に学年団や学科にとられることなく生徒及び教職員が全校体制で学校活性化に取り組み始めたことが本事業の大きな成果である。もともと本校生徒は、物心がついた頃から勝山祭りや久世祭りに代表されるような老若男女を問わず地元住民が一つになって取り組むといった地域の中で育ち、体験的にチームプレーの大切さを理解している。その気質を高校生活の中でも強みとして活かしていく指導体制を全校的に構築し、様々な工夫をすることが大切である。進路指導室の壁に掲げた「受験は団体戦だ」の叫びこそ、他校にはまねできない、本校生徒の力を最大限に引き出す工夫の一例である。

